

クラス		受験番号	
出席番号		氏 名	

2012年度

第1回 全統高2模試

学 習 の 手 引 き

(解 答 ・ 解 説 集)

2012年5月実施

英 語	1
オーラル・コミュニケーション	33
数 学	38
国 語	98

河合塾

【英 語】

『学習の手引き』を読むにあたって

1 『学習の手引き』について

この『学習の手引き』はすべての問題に対して、原則として、問題がそのまま印刷されています。したがって、この『学習の手引き』を読むことで、問題をもう一度やり直し、自分のわからなかったところをチェックできるようになっています。どうか、皆さんの学習に十分役立ててください。その際、この『学習の手引き』で用いた記号・略号について理解した上で、読み進んでください。

2 『学習の手引き』の組み立て

【設問解説】【解答】と【配点】に続いて、設問を解く際の合理的な手順を解説しています。

☆☆☆ 各小問の難易度は、以下のように表示しています。

★☆☆ 基本（現段階でぜひとも解いてほしい設問）

★★☆ 標準（現段階でできれば解いてほしい設問）

★★★ 発展（現段階で解ければ学習が十分に進んでいることを示す設問）

重要 設問を解くのに最も重要な知識、または解法に直接つながる考え方を示しています。この**重要**に続いて㊦で解法の手順を示しています。

手かり 解法の手がかりを示しています。**重要**が解法の出発点にならない場合に、設問の糸口がどこにあるのかを示すものです。必ず読んでください。

研究 設問のポイントに関する詳細な解説です。できるだけ読んでください。

▶ 正解のポイントや設問文に用いられている語句や表現に関する解説です。

▷ 誤った解答に関する解説です。なぜそれが間違っているのかを書いています。

😊 出題者からのアドバイスを示しています。

File 設問を解くための基本的知識のまとめ、またはより深い理解のための発展的知識のまとめです。

【要旨】 長文問題の各段落の内容をまとめています。

【全訳】 各英文の解説は【本文解説】を参照してください。

【本文解説】 長文問題での英文本体の文ごとの解説です。1), 2), 3) ... は文番号を示します。

3 『学習の手引き』で用いた略号

S 主語

V 動詞

O (O₁ / O₂) 動詞の目的語

C 補語

M 修飾要素

(形容詞[句 / 節]または副詞[句 / 節])

A / B 名詞または名詞相当表現

X / Y 文法的に同じ働きをする要素

to do to 不定詞

do 原形不定詞(to のつかない不定詞)

doing 現在分詞または動名詞

done 過去分詞

did 過去形

have done 完了形

イタリック体(斜体)の部分には様々な動詞がくことを示す。

one's 人称代名詞の所有格

oneself 再帰代名詞

that節 接続詞 that によって導かれる節
(that S V ...)

wh-節 what / when / where / why / how /
whether などに導かれる節

cf. 参照例文

[] 言いかえることができる語句

() 省略することができる語句

① 発音・アクセント

【解答】

- A 1. イ 2. イ
B 1. ア 2. イ

【配点】(8点)

A 2点×2 B 2点×2

【設問解説】

A 母音・子音の発音

1. ★☆☆

重要 deceive や receipt の -ei- は、/i:/ と発音する。

deceive

ア. height

イ. receipt

ウ. veil

エ. weight


deceive /diːsɪv/ (動) …をだます

ア. height /haɪt/ (名) 高さ

イ. **receipt** /rɪsɪt/ (名) レシート, 領収書

ウ. veil /veɪl/ (名) ベール, かぶり布

エ. weight /weɪt/ (名) 重さ, 体重

 **重要** より, イが正解。

【研究】

▷アの -ei- は、/aɪ/ と発音する。

▷ウ, エの -ei- は、/eɪ/ と発音する。

-ei- の発音

主に以下ようになる。

(1) /i:/ と発音する場合

〈例〉conceive /kənsɪv/ (動) …を思いつく

perceive /pərsɪv/ (動) …を知覚する

(2) /aɪ/ と発音する場合

〈例〉Fahreinheit /fɛrənhaɪt/

(名) (温度計の)華氏

heighten /haɪtn/ (動) …を高くする

(3) /eɪ/ と発音する場合

〈例〉neighbor /néɪbər/ (名) 近所の人

reign /réɪn/ (名) 治世 / (君主の)統治

(動) 君臨する / 統治する

File

2. ★☆☆

重要 decrease や loose の -se- は、/s/ と発音する。

decrease

ア. advise

イ. loose

ウ. lose

エ. suppose

decrease /dɪˈkriːs/

(動) 減少する / …を減少させる

/dɪˈkriːs/ (名) 減少

ア. advise /ədˈvaɪz/


(動) …に助言する / …を勧める

イ. **loose** /luːs/

(形) ゆるい / 固定されていない

ウ. lose /luːz/ (動) …を失う

エ. suppose /səˈpəʊz/ (動) …と思う

 **重要** より, イが正解。

【研究】

▷ア, ウ, エの -se- は、/z/ と発音する。

-se- の発音

主に以下ようになる。

(1) /s/ と発音する場合

〈例〉increase /ɪnkrɪs/

(動) 増す, …を増やす

/ɪnkrɪs/ (名) 増加

release /rɪliːs/ (動) …を解き放す

(2) /z/ と発音する場合

〈例〉accuse /əkjuːz/ (動) …を訴える

disease /dɪziːz/ (名) 病気

File

B アクセントの位置

1. ★☆☆

重要 control は、第2音節にアクセントがある。

ア. con-trol	イ. lem-on
ウ. or-ange	エ. pic-nic

ア. con-trol /kəntrɒl/
(名) コントロール, 支配
(動) ...をコントロールする, ...を支配する

イ. lem-on /lémən/ (名) レモン
ウ. or-ange /ɔːrɪndʒ/ (名) オレンジ
エ. pic-nic /pɪknɪk/ (名) ピクニック

🔊 **重要** より, control は第2音節にアクセントがある。

🔊 それ以外のものは第1音節にアクセントがあるので, アが正解。

😊 **カタカナ語(外来語)の英語本来のアクセントの位置に注意しよう!**

2. ★★☆☆

重要 -sive で終わる語は、原則として、その直前の音節にアクセントがある。

ア. at-ti-tude	イ. ex-pen-sive
ウ. mu-tu-al	エ. sym-pa-thy

ア. at-ti-tude /ætət(j)ù:d/ (名) 態度 / 考え方

イ. ex-pen-sive /ɪkspénsɪv/ (形) 高価な

ウ. mu-tu-al /mjútʃuəl/ (形) 相互の

エ. sym-pa-thy /sɪmpəθi/ (名) 共感 / 同情

🔊 **重要** より, expensive は第2音節にアクセントがある。

🔊 それ以外のものは第1音節にアクセントがあるので, イが正解。

研究

▷ attitude のように, -itude で終わる語は、原則として、その直前の音節にアクセントがある。

▷ mutual のように, -tual で終わる語は、原則として、その直前の音節にアクセントがある。

▷ sympathy のように, -pathy で終わる語は、原則として、その直前の母音にアクセントがある。

る。

▶ 右下向きアクセント記号(˘)は、2番目に強く発音される第2アクセントを示す。通常「アクセント」と言えば、第1アクセントを指す。

-sive で終わる語のアクセントの位置

-sive で終わる語は、原則として、その直前の音節にアクセントがある。

〈例〉 aggressive /əgrésɪv/ (形) 攻撃的な
intensive /ɪnténsɪv/ (形) 徹底的な

File

直前の音節にアクセントがある語尾

次の綴りで終わる語は、原則として、その直前の音節にアクセントがある。

(1) -itude で終わる語

〈例〉 gratitude /grætət(j)ù:d/
(名) 感謝の気持ち

latitude /lætət(j)ù:d/ (名) 緯度

(2) -tual で終わる語

〈例〉 punctual /pʌŋktʃuəl/
(形) 時間を守る

virtual /vɜːrtʃuəl/

(形) 実質上の, 事実上の

File

-pathy で終わる語のアクセントの位置

-pathy で終わる語は、原則として、その直前の母音にアクセントがある。

〈例〉 antipathy /æntɪpəθi/ (名) 反感
telepathy /tələpəθi/ (名) テレパシー

File

😊 **アクセントのルールを覚えよう!**

② 会話

【解答】

- A 1. エ 2. ア 3. ア
B 1. イ 2. ウ 3. エ 4. ア 5. オ

【配点】 (16点)

A 2点×3 B 2点×5

【設問解説】

A

1. ★☆☆

重要 Why don't we do? は、何かを一緒にしようとして提案するときの定型表現。

A : How are we going to get to the concert hall from the station?

B : It's too far to walk. ()

ア. I don't mind walking there.

イ. Let's run to the hall.

ウ. We'd better go by train.

エ. Why don't we take a taxi?

(訳) A : 駅からコンサートホールまではどうやって行くの。

B : 遠すぎるから歩いては行けないよ。

エ. タクシーに乗らない?

ア. 僕はそこへ歩いて行ってもいいよ。

イ. ホールまで走ろう。

ウ. 列車で行った方がいいよ。

👉 空所の直前で、Bはコンサートホールまで歩いて行くのは無理だと言っている。

👉 空所で、Bが歩くのではなく別の交通手段を提案したと考えれば自然な対話になるので、

重要 より、エが正解。

【研究】

▷ア don't mind doing が「…することは嫌ではない」=「…してもよい」という意味なので、直前の発言と矛盾する。

▷ウ A, B 2人の会話が駅に着いてからのコンサートホールへの行き方について話している内容なので、文脈に合わない。

2. ★☆☆

重要 Thanks anyway. は、「いずれにしても、

ありがとう」という意味で、要請に応じてもらえなかったとき、とりあえず相手に感謝の気持ちを表すときの定型表現。

A : Do you know where the nearest bus stop is?

B : ()

A : Thanks anyway.

ア. I'm afraid I don't.

イ. I'm sorry. Can I do anything?

ウ. Yes. Around that corner.

エ. No. Behind this building.

(訳) A : 最寄りのバス停がどこにあるかご存じですか。

B : **ア. 残念ですが知りません。**

A : いずれにしても、ありがとうございますでした。

イ. すみません。何かしてあげましょうか?

ウ. はい。あの角を曲がったところです。

エ. いいえ。このビルの裏です。

👉 **重要** より、Bが、「知らない」と答えたと考えれば自然な対話になるので、アが正解。

【研究】

▶ I'm afraid S V ... は、「残念ながら…と思う」という意味。

▷エ No. が I don't know where the nearest bus stop is. という意味なので、直後の Behind the building. と矛盾する。

3. ★★☆☆

重要 1 treat には、「おごる」という意味がある。

重要 2 pick up the bill は、「勘定をもつ」という意味。

A : We have eaten quite a lot.

B : It'll cost quite a lot, too.

A : Don't worry. I'll treat today.

B : Oh, no! You paid for lunch last week. ()

ア. I'll pick up the bill today.

イ. Next time it's my turn.

ウ. This time you'll pay cash.

エ. You'll pay as much as possible.
 (訳) A: ずいぶんたくさん食べたね。
 B: 支払いもずいぶん高そうだよ。
 A: ご心配なく。今日は僕がおごるよ。
 B: ダメだよ。先週は君が昼食代を払ってくれただろう。 **ア. 今日は、僕が勘定をもつよ。**
 イ. 次回は僕の番だ。
 ウ. 今回は君が現金で払うだろう。
 エ. 君はできるだけたくさん払うだろう。

- ㊦ **重要 1** より, AがBにおごると言っていることがわかる。
 ㊦ それに対してBが「ダメだよ」と言い, Aが前にもおごってくれたことに言及している。
 ㊦ Bが, 「今日は自分が勘定をもつ」と言ったと考えれば自然な対話になるので, **重要 2** より, アが正解。

研究

- ▷イ It's *one's* turn. は, 「…の番だ」という意味の定型表現。この turn は, 「順番」という意味。
 ▷ウ pay cash は, 「現金で支払う」という意味。

B

Tetsuko is a high school student living in Tokyo. Thomas is an exchange student at her school.

Tetsuko: Hi, Tom.

Thomas: Hi, Tetsuko. The first term is almost over. I can't wait for the summer holidays.

Tetsuko: Neither can I. **イ. Do you have any plans?**

Thomas: Well, I'm hoping to travel around Kyushu.

Tetsuko: How nice! Are you going by plane or by Shinkansen?

Thomas: Are you kidding? A poor student like me can't afford such a luxury.

ウ. I wonder if there isn't some cheaper way?

Tetsuko: Well, how about using highway buses? **エ. That would be much cheaper.**

Thomas: I thought about that. **ア. But it's still too expensive for me.**

Tetsuko: Then, you should use a JR discount ticket. If you have one, you can ride JR local trains as much as you like for 5 days. I think it costs only 11,500 yen.

Thomas: That sounds great! Thank you, Tetsuko.

Tetsuko: But you'll have to ride trains for almost 20 hours to get to Kyushu. **オ. Won't you find that tiring?**

Thomas: No problem. I like riding on trains.

(訳)

テツコは東京に住む高校生である。トマスは彼女の高校に来ている交換留学生である。

テツコ: こんにちは, トム。

トマス: やあ, テツコ。1学期もほとんど終わいだね。夏休みが待ちきれないよ。

テツコ: 私もよ。(1) **イ. 何か計画があるの?**

トマス: うん, 九州を旅行して回りたいと思っているんだ。

テツコ: すてき。飛行機で行くの, それとも新幹線で行くの?

トマス: 冗談だろう? 僕みたいな貧乏学生がそんなぜいたくをする余裕はないよ。

(2) **ウ. 何かもっと安い行き方はないかな。**

テツコ: そうね, 高速バスを使うのはどう?

(3) **エ. その方がずっと安いわよ。**

トマス: それも考えたけど。(4) **ア. それでも僕には高すぎる。**

テツコ: じゃあ, JR の割引切符を使うべきだわ。1枚持っていれば, JR の普通列車に5日間乗り放題よ。たった1万1千500円

だと思うわ。

トマス：そりゃすごい。ありがとう、テツコ。

テツコ：でも、九州まで行くにはほぼ20時間列車に
乗らなければならないのよ。**オ. それっ
て、疲れない？**

トマス：大丈夫。僕は列車に乗るのは好きなんだ。

- exchange student 「交換留学生」
- term 「学期」
- be over 「終わる」
- Are you kidding? 「冗談だろう」
- cannot afford O 「Oをする(経済的)余裕がない」
- luxury 「ぜいたく」
- highway bus 「高速バス」
- discount ticket 「割引切符」
- local train 「普通列車」
- as ... as S like 「Sが好きなかだけ…」

(1) ★☆☆

手かり 空所の前で、トマスは夏休みが待ちきれないと言っている。

㊤ 空所の直後で、トマスが「九州旅行をしたい」と言っている。

㊦ 空所で、テツコが「何か計画があるのか」と尋ねたと考えれば自然な流れになるので、イが正解。

研究

▶<Neither+do[助動詞/be 動詞]+S> は、「Sもまた…ない」という意味を表す。

(2) ★☆☆

重要 I wonder if S V ... は、「…かな」という意味。

㊤ 空所の直前で、トマスは「そんなぜいたくをする(=飛行機や新幹線で行く)余裕がない」と言っている。

㊦ **重要** より、空所で、トマスが「何かもっと安い方法はないかな」と言ったと考えれば自然な流れになるので、ウが正解。

(3) ★★☆☆

重要 How about doing? は、「…してはどうか」という意味で、提案するときの定型表現。

手かり 空所の前で、トマスは「飛行機や新幹線で行く余裕がない」と言っている。

㊤ **重要** より、空所の直前で、テツコは「高速バスを利用してはどうか」と提案している。

㊦ 空所で、テツコが「高速バスは飛行機や新幹線よりずっと安い」と述べたと考えれば自然な流れになるので、エが正解。

(4) ★★☆☆

㊤ 空所の直前で、トマスが「それ(=高速バスを利用すること)も考えた」と言っている。

㊦ 空所の直後で、テツコがそれでは JR の割引切符を使うべきだと言っている。

㊦ 空所で、トマスが「高速バスはまだ高すぎる」と言ったと考えれば自然な流れになるので、アが正解。

(5) ★☆☆

重要 1 No problem. には、「大丈夫」という意味がある。

重要 2 find O C は、「OをCと思う」という意味。

㊤ 空所の直前で、テツコは九州まで列車で行くことの大変さを述べている。

㊤ **重要 1** より、空所の直後で、トマスは「大丈夫。僕は列車に乗るのは好きなんだ」と言っている。

㊤ **重要 2** より、空所で、テツコが「長い時間列車に乗るのは疲れないか」と発言したと考えれば自然な流れになるので、オが正解。

研究

▶tiring は、「(人を)疲れさせる」という意味の形容詞。

③ 文法・語法・熟語

【解答】

A 1. ウ 2. ア 3. イ 4. ア 5. エ
6. イ 7. イ 8. ア 9. イ 10. ウ

11. エ 12. ア
B 1. イ 2. ア
C 1. イ 2. エ 3. ウ 4. イ

【配点】 (36点)

A 2点×12 **B** 2点×2 **C** 2点×4

【設問解説】

A

1. ★☆☆

重要 raise O は、「Oを上げる / O(声など)を張り上げる」という意味。

Patricia often () her voice when she is angry.

ア. arises イ. arouses

ウ. raises エ. rises

(訳) パトリシアは怒るとよく声を荒げる。

👉 **重要** より、ウが正解。

研究

▷ア, エ arise は「起こる」, rise は「上がる」という意味の自動詞だが、ここでは空所の後ろに her voice という目的語がある。

▷イ arouse O は「Oを目覚めさせる」という意味で、文意が通じない。

2. ★☆☆

重要 get O to do は、「Oに…してもらう / Oに…させる」という意味。

The babysitter tried hard, but she wasn't able to () the baby to stop crying.

ア. get イ. have

ウ. let エ. make

(訳) ベビーシッターは一生懸命やってみたが、赤ん坊を泣きやませることはできなかった。

👉 **重要** より、アが正解。

研究

▷イ have は、使役動詞で用いる場合、have O do「Oに…してもらう / Oに…させる」という形で用いる。

▷ウ let は、使役動詞で用いる場合、let O do「Oに…させてやる」という形で用いる。

▷エ make は、使役動詞で用いる場合、make O do「Oに…させる」という形で用いる。

3. ★☆☆

重要 過去の一時点に至るまでの継続は、過去完了 had done で表す。

The grandmother was delighted to see her grandchild, whom she () for a year.

ア. did not see **イ. had not seen**

ウ. has not seen エ. will not see

(訳) その祖母は、1年間会っていなかった孫に会って喜んだ。

手かり 文全体は、「その祖母は、1年間会っていなかった孫に会って喜んだ」という意味であると考えられる。

👉 「1年間会っていなかった」の部分は、「孫に会って喜んだ」という過去の一時点に至るまで「会っていない」状態が継続したことを表していると考えられるので、**重要** より、イが正解。

4. ★☆☆

重要 1 If S' did ..., S would [could / might] do ~. は、仮定法過去の表現で、現在の事実と反する事柄や、実現する可能性が低い事柄を表す場合に用いられる。

重要 2 代動詞 do [does / did] は、一般動詞の代わりに用いられる。

Such a thing is unlikely to happen, but if it (), what could we do?

ア. did イ. does

ウ. will エ. would

(訳) そのようなことは起こりそうにないが、もし起これば、私たちに何ができるだろうか。

手かり 文の前半は、「そのようなことは起こりそうにない」という意味である。

👉 if it () は、「もしそれが起これば」という意味であり、実現する可能性が低いことを表しているとわかる。

重要 1, 2 より、アが正解。

研究

- ▷イ、ウ 仮定法の表現ではない。
▷エ 通例, if節中では, 推量の表現を用いることはできない。

5. ★☆☆


重要 advice「助言」は不可算名詞。

I asked my brother to give me (),
but he didn't give me any.

- ア. a few advices
イ. a few piece of advice
ウ. some advices

エ. some pieces of advice

(訳) 私は兄にいくつか助言を与えてくれるように頼んだが, 彼は1つも与えてくれなかった。

 **重要** より, エが正解。

研究

- ▷ア, ウ advice を可算名詞として用いている。
▷イ <a few+可算名詞の複数形>で用いる。

不可算名詞の用法

注意すべき不可算名詞には次のようなものがある。

advice「助言」, baggage [luggage]「手荷物」, damage「損害」, fun「楽しみ」, furniture「家具」, information「情報」, machinery「機械」, mail「郵便物」, news「知らせ」, progress「進歩」, room「余地」, scenery「風景」, software「ソフトウェア」, traffic「交通(量)」, weather「天候」, work「仕事」

- (1) 不可算名詞には a / an はつかない。また, 複数語尾の -(e)s がつくこともない。
(2) 「量」の多少は much [a lot of] / (a) little などで表す。

<例> The coach doesn't give us much advice.

(コーチは私たちにあまりアドバイスをしない)

- (3) 「1つ / 2つ」と数えるときには, たとえば
a piece of advice / two pieces of advice というような表現で表す。

<例> Let me give you a piece of advice.
(ひとつ忠告させてくれ)

File

6. ★☆☆

重要 had better do「…する方がいい」の否定形は, had better not do「…しない方がいい」となる。

If you need to leave your seat, you
() leave your bag on your seat even
for a minute.


ア. don't have better

イ. had better not

ウ. had better not to

エ. hadn't better

(訳) 自分の席を離れる必要がある場合は, 少しの間でも席に鞆を置いていかない方がいいですよ。

 **重要** より, イが正解。

7. ★★☆☆

重要 1 不定詞の否定形は not [never] to do で表す。

重要 2 完了不定詞 to have done は, 通例, 主節の動詞より前に起こったことを表す。

I'm very sorry () your e-mail sooner.

ア. not to answer


イ. not to have answered

ウ. to have not answered

エ. to not answer

(訳) もっと早くにあなたの電子メールに返事をしなくて本当にごめんなさい。

手かり 文全体は, 「もっと早くにあなたの電子メールに返事をしなくて本当にごめんなさい」という意味であると考えられる。

 「返事をしなかった」のは, 「本当にごめんなさい」と感じている今より前に起こったこと

なので、**重要** 1, 2 より、イが正解。

8. ★☆☆

重要 1 **enjoy doing** は、「…するのを楽しむ」という意味。

重要 2 **A make a fool of B**。「AはBを笑いものにする」の受動態は、**B is made a fool of (by A)**。となる。

Many people don't enjoy () in front of others.

ア. being made a fool of

イ. making a fool of

ウ. to be made a fool

エ. to make a fool of

(訳) 人前で笑いものにされることを嫌だと思う人が多い。

重要 1, 2 より、アが正解。

句動詞の受動態

2語あるいは3語からなる句動詞は、全体で1つの他動詞のように扱って受動態にする。

〈例1〉Everybody **laughed at** him.

He **was laughed at** by everybody.

「彼はみんなに笑われた」

〈例2〉A babysitter **took care of** the children.

The children **were taken care of** by a babysitter.

「子どもたちはベビーシッターによって世話された」

〈例3〉My classmates often **made fun of** my name.

My name was often **made fun of** by my classmates.

「私の名前はよく同級生に馬鹿にされた」

File

9. ★☆☆

重要 **make oneself heard** は、「自分の声を聞

こえさせる」という意味。

Please speak louder so that you can make yourself ().

ア. hear

イ. heard

ウ. hearing

エ. to hear

(訳) あなたの声が聞こえるように、もっと大きな声で話してください。

重要 より、イが正解。

研究

▶ **make oneself heard** では、**oneself** と **heard** の間に受動関係が成り立っている。

▷ ア **hear O do** 「Oが…するのを聞く」という形もあるが、O と **do** の間には能動関係が成り立つ。

▷ ウ **hear O doing** 「Oが…しているのを聞く」という形もあるが、O と **doing** の間には能動関係が成り立つ。

10. ★☆☆

重要 〈**倍数+the+名詞+of A**〉は、「Aの…倍〜」という意味。

This computer is () last year's model.

ア. half heavier

イ. half so heavy as

ウ. half the weight of

エ. half weight of

(訳) このコンピューターは、昨年のモデルの半分の重さである。

重要 より、ウが正解。

研究

▷ ア **half** は、**heavier** の前で用いることはできない。

▷ イ 〈**so+原級+as ...**〉は、肯定文で用いることはできない。

〈**倍数+the+名詞+of A**〉の表現

倍数表現には、〈**倍数+as+原級+as A**〉「Aの…倍〜」以外に、〈**倍数+the+名詞+of**

A) 「Aの…倍～」という表現もある。この形で用いられる名詞は, amount「量」, height「高さ」, length「長さ」, number「数」, size「大きさ」, weight「重さ」などである。

〈例〉 This stone is twice the weight of that one. 「この石はあの石の2倍の重さである」
= This stone is twice as heavy as that one.

File

11. ★★☆☆

重要 非制限用法の関係代名詞 **which** には, 前文の内容を先行詞とする用法がある。

He says that he can do without sleep for a week, () I think is impossible.

ア. but イ. that

ウ. when エ. **which**

(訳) 彼は1週間寝ずにすまずことができると言うが, 私はそれは不可能だと思う。

手かり 文全体は, 「彼は1週間寝ずにすまずことができると言うが, 私はそれは不可能だと思う」という意味であると考えられる。

㊦ 「それ」は, 「1週間寝ずにすまずことができる」という前文の内容を指していると考えられるので, **重要** より, エが正解。

研究

▶ 本問のように, which S V V' ... 「…V' するとSはVする」の形を連鎖関係代名詞節と呼ぶ。

▷ ア 後ろには I think it is impossible と続かなければならない。

▷ イ 関係代名詞 that は, 非制限用法では用いることができない。

▷ ウ 関係副詞, あるいは接続詞であり, I think is impossible のように名詞要素の欠けた文は続かない。

連鎖関係代名詞節

目的語となる that 節中の名詞要素が関係代名詞となり, 主節の S V の前に移動した構造を連鎖関係代名詞節という。目的語に that 節をとる動詞は, think, believe, suppose, imagine, know などである。

(1) 主格の場合

〈例〉 The man (who) I thought was my boyfriend turned out to be a stranger.
(私のボーイフレンドだと私が思った男性は見知らぬ人だとわかった)

• 例文は次の2文が前提となっている。

1) The man turned out to be a stranger.

2) I thought (that) the man was my boyfriend.

1) + 2) = The man (who) I thought was my boyfriend turned out to be a stranger.

• 関係代名詞は, I thought が直後にあるからといって, 目的格の whom ではなく, 主格の who である。なお, thought の目的語となる節を導く that は, この形では原則として省略される。

• that 節内の主語が関係代名詞になっている場合には, 動詞が連続するので, 関係代名詞直後の S V (この例文では I thought) が挿入されているように見えるのが特徴。

• 連鎖関係代名詞節の場合, 関係代名詞は主格でも省略可能。

(2) 目的格の場合

〈例〉 This is the song (which) I think she likes best.

(これは, 彼女が一番気に入っていると僕が思う歌だ)

• この例文は次の2文が前提となっている。

1) This is the song.

2) I think (that) she likes the song best.

1) + 2) = This is the song (which) I think she likes best.

(3) 関係代名詞が what の場合

〈例〉 Don't hesitate to do what you think

is right.

(自分が正しいと思うことをためらわずにやりなさい)

- what(S') you(S) think(V) is(V') right(C') となっている。

(4) 非制限用法の関係代名詞 **which** の場合

〈例〉 He said nothing, which I think made her angry.

(彼は何も言わなかったのだが、そのことが彼女を怒らせたとは私は思う)

- 非制限用法の関係代名詞 **which** は、前文の内容を先行詞とする用法があり、この文では He said nothing を先行詞としている。
- この例文は、次の2文が前提となっている。

1) He said nothing.

2) I think (that) it made her angry.

1)+2)=He said nothing, which I think made her angry.

File

12. ★★☆☆

重要 The problem is that S V ... は、「問題は、…ということだ」という意味。

The problem I'm most concerned about is () Jimmy won't accept my offer no matter how earnestly I try to persuade him to.

ア. that

イ. what

ウ. whether

エ. which

(訳) 私が最も気がかりな問題は、私がどんなに真剣に説得しようとしても、ジミーは私の申し出を受け入れようしないということだ。

手かり I'm most concerned about は、the problem を修飾する関係詞節であるとわかる。

㊦ 文全体は、「私が最も気がかりな問題は、私がどんなに真剣に説得しようとしても、ジミーは私の申し出を受け入れようしないということだ」という意味だと考えられるので、重要より、アが正解。

研究

▶ The problem is that S V ... の that は、補語となる名詞節を導く接続詞。

▷ イ、エ 空所以下に名詞的要素が欠けた文が続かなければならない。

▷ ウ whether S V ... は、「…かどうか」という意味であり、文意が通じない。

B

1. ★★☆☆

重要 <one of the+最上級+複数名詞> は単数扱いである。

In the nineteenth century one of the most important discoveries of European countries were a method of using natural gas for cooking and heating.

(正しい英文) In the nineteenth century one of the most important discoveries of European countries **was** a method of using natural gas for cooking and heating.

(訳) 19世紀において、ヨーロッパの国々での最も重要な発見の一つは、料理や暖房に天然ガスを使うという方法であった。

手かり In the nineteenth century は副詞句であり、one of the most important discoveries of European countries が主語である。

㊦ **重要** より、下線部(イ)の were を was にすれば、正しい文になる。

研究

▷ 下線部(ア) a discovery 「発見されたもの」を複数形で用いたもの。

▷ 下線部(ウ) a method of *doing* 「…する(という)方法」の一部。

▷ 下線部(エ) 「暖房」という意味の名詞。

2. ★★☆☆

重要 分詞構文では、主文の主語と分詞の間に受動関係が成立する場合、過去分詞を用いる。

Cooking in this pressure cooker, sweet vegetables like pumpkins will taste even sweeter.

(正しい英文) **Cooked** in this pressure cooker, sweet vegetables like pumpkins will taste even sweeter.

(訳) この圧力鍋で料理すると、カボチャのような甘い野菜はさらに甘い味がしますよ。

手かり 文全体は、「この圧力鍋で料理すると、カボチャのような甘い野菜はさらに甘い味がしますよ」という意味であると考えられる。

🔍 重要 より、下線部(ア)の cooking を cooked にすれば、正しい文になる。

研究

▷下線部(イ) a sweet vegetable 「甘い野菜」を複数形で用いたもの。

▷下線部(ウ) taste C 「Cな味がする」の一部。

▷下線部(エ) 比較級を強調する、「さらに」という意味の副詞。

😊 分詞構文では、主文の主語と分詞の関係が能動関係か受動関係かに注意しよう！

C

1. ★☆☆

重要 1 take O in / take in O は、「Oをだます」という意味。

重要 2 deceive O は、「Oをだます」という意味。

The elderly tend to be taken in more easily than the young.

ア. criticized **イ. deceived**

ウ. injured エ. robbed

(訳) 老人は若者よりも簡単に **だまされる** 傾向がある。

🔍 重要 1, 2 より、イが正解。

重要

▷ア, ウ, エ criticize O は「Oを批評する / Oを批判する」, injure O は「Oを傷つける」, rob O of A は「OからAを奪う」という意味。

2. ★☆☆

重要 1 come about は、「(事が)生じる」という意味。

重要 2 happen は、「(事が)生じる」という意

味。

How did it come about that the yen became so strong?

ア. appear イ. cause

ウ. explain **エ. happen**

(訳) どうして円がそれほど高くなる事態が **生じた** のか。

🔍 重要 1, 2 より、エが正解。

研究

▷ア, イ, ウ appear は「現れる / …のように見える」, cause O は「Oを引き起す」, explain O は「Oを説明する」という意味。

3. ★☆☆

重要 1 first hand は、「直接(に)」という意味。

重要 2 directly は、「直接(に)」という意味。

I heard about the incident first hand from Tom.

ア. accurately イ. briefly

ウ. directly エ. immediately

(訳) 私はトムから **直接** その出来事について聞いた。

🔍 重要 1, 2 より、ウが正解。

研究

▷ア, イ, エ accurately は「正確に」, briefly は「簡潔に」, immediately は「ただちに」という意味。

4. ★☆☆

重要 1 on purpose は、「故意に」という意味。

重要 2 intentionally は、「故意に」という意味。

Kevin firmly believed I had revealed his plan on purpose.

ア. casually **イ. intentionally**

ウ. presumably エ. unexpectedly

(訳) ケ빈は、私が **故意に** 彼の計画を漏らしたと強く信じていた。

📌 重要 1, 2 より, イが正解。

【研究】

▷ア, ウ, エ casually は「偶然に」, presumably は「たぶん」, unexpectedly は「思いがけなく」という意味。

4 整序作文・和文英訳

【解答】

A

1. A-ウ B-オ
2. A-ウ B-オ
3. A-ウ B-エ
4. A-イ B-エ

B

1.

【解答例】I would like you to leave for Tokyo soon [at once].

2.

【解答例 1】These cold capsules may make you sleepy. (Please) don't take them before you drive.

【解答例 2】These cold capsules sometimes make you feel sleepy, so don't take them before driving.

3.

【解答例 1】When our mother tells her to help her (to) prepare dinner, she always says, "Yes, I'm coming," but she never stops playing her game immediately.

【解答例 2】Whenever our mother asks her to help her (to) cook supper, she answers, "OK, I'm coming." However, she always keeps playing her game for a while.

【配点】(40点)

A 5点×4

B 1. 4点 2. 6点 3. 10点

【設問解説】

A 整序作文

1.

重要 1 「…そうだ」は, It seems that S V ... で表せる。

重要 2 「…できない」は, be unable to do で表せる。

トムは1週間以上前になくした鍵を見つけることはできなさそうだ。

(It) (seems) (that) (Tom) (is unable to)
イ ㊦ エ ㊧ ア

find the key which he lost over a week ago.

📌 重要 1, 2 より It seems that Tom is unable to となる。

2.

重要 All S can do is (to) do で, 「Sにできるのは, …することだけだ」という意味。

終電は出た後だったので, タクシーを待つよりほかなかった。

The last train had already left, so (all)
ア

(I) (could do) (was) (wait) for a taxi.

㊦ イ ㊧ エ

📌 文の後半は, 「私にできたのは, タクシーを待つことだけだった」と読みかえることができる。

📌 重要 より, all I could do was wait となる。

【研究】

▶文の構造は, all I could do(S) was(V) wait for a taxi(C) となっている。I could do は, all を先行詞とする関係代名詞節で, 直前に目的格の関係代名詞が省略されている。

3.

重要 「…のこのA」は, <this A(名詞)of+所有代名詞> で表す。

エリオット教授は僕に彼のこの革装の本を貸してくれた。

Prof. Elliot lent me (this) (leather-bound)
オ ㊦

(book) (of) (his).

ア ㊧ イ

📌 重要 より, 「彼のこの本」は this book of his となる。

㊦ 形容詞 leather-bound を名詞 book の直前に置いて、this leather-bound book of his となる。

〈this A(名詞)of+所有代名詞〉と同類の表現

所有格は、a(n), this, that, these, those, some, any, no などと並べて名詞の前に用いることはできないので、〈a(n) [this / that / these / those / some / any / no] A(名詞)of+所有代名詞〉の形で使う。

〈例〉 This fountain pen of yours is made in France, isn't it?

×Your this fountain pen is made in France, isn't it?

×This your fountain pen is made in France, isn't it?

(君のこの万年筆はフランス製だね)

File

4.

重要 疑問詞と do you say を用いるとき、Yes / No で返答できない場合は、〈疑問詞+do you say S V ...?〉という形で用いる。

結局のところ、どうすればいいって？

In the end, (what) (do you say) (I)
オ ④ ウ

(should) (do)?

⑤ ア

手かり 「どうすればいいって？」は、「私は何をすべきだとあなたは言うのですか」と読みかえることができる。

㊦ **重要** より、what do you say I should do となる。

B 和文英訳

1.

重要 1 「Oに…してもらいたい」は、would like O to do で表せる。

重要 2 「Aに(向けて)出発する」は、leave for A で表せる。

私はあなたに、すぐに東京に出発してもらいたいです。【I would で始めて】

【解答例】 I would like you to leave for Tokyo soon [at once].

▶ **重要 1, 2** より、【解答例】のようになる。

2.

重要 1 「…する可能性がある」は、may do で表せる。

重要 2 「OをCにする」は、make O C で表せる。

重要 3 「O(薬)を飲む」は、take O で表す。

このカプセルの風邪薬を飲むと眠くなることがあります。運転する前には飲まないでください。【These cold capsules で始めて】

【解答例 1】 These cold capsules may make you sleepy. (Please) don't take them before you drive.

【解答例 2】 These cold capsules sometimes make you feel sleepy, so don't take them before driving.

手かり 「このカプセルの風邪薬を飲むと眠くなることがあります」は、「このカプセルの風邪薬は人を眠くする可能性がある」と読みかえることができる。

▶ 一般人称の you を用いて、**重要 1, 2** より These cold capsules may make you sleepy. となる。あるいは、【解答例 2】のように「ときどき人に眠いと感じさせる」と読みかえ、sometimes 「ときどき」、make O do 「Oに…させる」、feel C 「Cと感じる」を用いて、sometimes make you feel sleepy と表すこともできる。

▶ 「運転する前には飲まないでください」は、**重要 3** より (Please) don't take them before you drive [before driving]. となる。

▷ drink O 「Oを飲む」は、液体を飲む場合に用いるので、本問では不可。

3.

重要 1 「Oに…するように言う」は、tell O to

do で表せる。

重要 2 「Oが…するのを手伝う」は、help O (to) do で表せる。

重要 3 「今行くわ」は、I'm coming. で表す。

重要 4 「…するのを止める」は、stop doing で表す。

姉は近ごろ携帯ゲームに夢中だ。夕食の支度を手伝うよう母に言われるといつも「はい、今行くわ」と答えるが、すぐにゲームを止めることはない。【下線部のみを英訳すること】

【解答例 1】When our mother tells her to help her (to) prepare dinner, she always says, "Yes, I'm coming," but she never stops playing her game immediately.

【解答例 2】Whenever our mother asks her to help her (to) cook supper, she answers, "OK, I'm coming." However, she always keeps playing her game for a while.

手がかかり 「夕食の支度を手伝うよう母に言われる」は、「母が彼女に自分が夕食を準備するのを手伝うように言う」と読みかえることができる。

▶ **重要 1, 2** より our mother tells her to help her (to) prepare dinner となる。あるいは、

【解答例 2】のように「母が彼女に自分が夕食を作るのを手伝うように頼む」と読みかえ、ask O to do を用いてもよい。

▶ 「…といつも『はい、今行くわ』と答える」は、「…するとき、『はい、今行くわ』といつも言う」と読みかえて、**重要 3** より When ..., she always says, "Yes, I'm coming" となる。あるいは、【解答例 2】のように「…ときはいつでも、『はい、今行くわ』と答える」と読みかえ、Whenever ..., she answers, "OK, I'm coming." と表してもよい。

▶ 「すぐにゲームを止めることはない」は、「彼女は決してすぐにはゲームをするのを止めない」と読みかえ、**重要 4** より she never stops playing her game immediately となる。あるいは、【解答例 2】のように「彼女はいつもしばらくはゲームをし続ける」と読みかえ、keep doing と for a while を用いて表してもよい。

⑤ 長文総合

【解答】

問 1

【解答例 1】クレイグが水中にいて指から血が流れているのに、体長 5 メートルのサメはあっさり泳ぎ去り、水面下に消えていった。

【解答例 2】クレイグが水の中で指から血が流れているまま、その 5 メートルの長さのサメは単に泳ぎ去り、下の水の中へと消えた。

問 2 エ

問 3 エ

問 4

【解答例 1】ホホジロザメは、目が良くないので、人間を彼らのエサの大部分を占めるアザラシやアシカと間違えるということ。(52字)

【解答例 2】ホホジロザメは目が悪く、人間と、彼らの食事の大半となるアザラシやアシカを間違えるという説明。(46字)

問 5 イ

問 6

【解答例 1】(殺して食べるためだけでなく,)情報を収集するためにも咬むことがあるというサメの習性は人間にとってはやっかいなものになる可能性があるが、サメがサーフボードやその他の物や人間を咬むとき、彼らはおそらく、それが何であるかを知ろうとしているだけなのである。

【解答例 2】情報収集のためにも咬んでみるというサメの習性は人間には困ったものであるかもしれないが、サーフボードや他の物体、あるいは人間を咬む場合、サメは多分、ただそれが何かを知ろうとしているのだろう。

問 7 イ、ウ (順不同)

【配点】 (55点)

問 1 10点 問 2 4点 問 3 5点

問 4 10点 問 5 4点 問 6 12点

問 7 5点×2

【設問解説】

以下の解説に記されている「第○文」という通し番号は、p. 20以降の【本文解説】を参照。

問1 ★☆☆

下線部(1)を和訳せよ。

with Craig in the water and blood flow-
(1) ing from his fingers, the five-meter-long
shark simply swam away, disappearing into
the water below.

【解答例1】クレイグが水中にいて指から血が
流れているのに、体長5メートルのサメはあ
っさりと泳ぎ去り、水面下に消えていった。

【解答例2】クレイグが水の中で指から血が流
れているまま、その5メートルの長さのサメ
は単に泳ぎ去り、下の水の中へと消えた。

重要1 with には、<with A+前置詞句[分詞]>
の形で、付帯状況「Aが…の状態 / Aが…の
まま」を表す用法がある。

重要2 等位接続詞を用いた X and [but / or] Y
のXとYには、文法的に対等な表現が来る。

重要3 完全文に分詞(句)が続いており、分詞
(句)の意味上の主語が文の主語と一致している
場合、その分詞(句)は分詞構文である。

重要4 文末に置かれた分詞構文は、動作の連
続、付帯状況、理由を表すことが多い。

㊦ **重要1, 2**より、with Craig in the water
and blood flowing from his fingers は、「ク
レイグは水の中にいて指から血が流れているま
ま」という意味になる。ここでは、主文の内容
との関係から、「…血が流れているのに」と訳
すと自然な日本語になる。

㊦ the five-meter-long shark simply swam
away は、「体長5メートルのサメはあっさり
と泳ぎ去った」と訳せ、完全文になっている。

㊦ **重要3**より、disappearing into the water
below は分詞構文とわかる。

㊦ **重要4**より、disappearing into the water
below は、文脈から、動作の連続を表してい
ると考えるのが妥当であり、「(そして)水面下
に消えていった」という意味になる。

研究

▶ the water below では、副詞の below 「下方
に」が water を修飾している。

問2 ★☆☆

空所(2)に入る最も適当なものを、次の
ア～エの中から1つ選び、記号で答えよ。

Although sharks are often categorized as
killers that hunt and eat as many humans as
they can, this is factually inaccurate.
(2) A person has a greater chance of
being struck by lightning or drowning in a
bath than of being killed by a shark.

- ア. Sharks always attack animals.
- イ. Sharks seldom kill animals.
- ウ. Sharks quite often attack humans.

エ. **Sharks very rarely kill humans.**

(選択肢の訳)

- ア. サメは常に動物を攻撃する。
- イ. サメはめったに動物を殺さない。
- ウ. サメはかなりしばしば人間を攻撃する。

エ. **サメは極めてまれにしか人間を殺さな
い。**

㊦ 空所(2)の直前で、「サメはできるだ
け多くの人間を捕食する殺し屋と分類されるこ
とが多いが、これは実際には正確ではない」と
述べられている。

㊦ 空所(2)の直後でも、「人は、サメに
殺されるより、雷に打たれたり風呂で溺れ死ん
だりする可能性の方が高いのである」と、人間
がサメに殺されることは多くないということが
述べられているので、エが正解。

問3 ★☆☆

下線部(3)の問いに対する答えに関して、本文
の内容と一致しないものを、次のア～エの中か
ら1つ選び、記号で答えよ。

Why, then, do most people survive
(3) attacks by great whites? ... The most
common explanation is that great whites
don't see well. It has been thought that
they mistake people for the seals or sea
lions which make up a large part of their
diet. There is reason to doubt this, how-
(4) ever. Recent information shows that great

whites can actually see very well. Also, when attacking seals, great whites shoot up to the surface and bite with great force. When approaching humans, however, they most often move in slowly and bite less hard. They soon discover that humans are not a high-fat meal. They spit us out because we're too bony.

ア. ホホジロザメは人間にはゆっくり近づき、あまり強く咬ま^かないから。

イ. 人間はホホジロザメに適した食料ではないから。

ウ. ホホジロザメは脂肪の多い動物を主食としているから。

エ. 人間は骨が硬いので、ホホジロザメが吐き出すから。

手かり 下線部(3)は、「では、なぜ大半の人がホホジロザメに攻撃されても生き延びるのだろうか」という意味である。

㊦ 第3段落で、これまで考えられてきた最も一般的な理由と最近明らかになった理由が説明されているので、第16)～23)文との異同を確認すればよい。

㊦ アは、第21)文の内容に一致する。

㊦ 第17)文の「アザラシやアシカがホホジロザメのエサの大部分を占めている」、第22)文の「人間は高脂肪のエサではない」、第23)文の「人間は吐き出す」という内容から、「ホホジロザメの主食になっている動物は脂肪の多いものであり、「人間はエサに適さない」ということが読み取れる。

㊦ イ、ウは、この内容に一致する。

㊦ エは、第23)文に関連するが、bony は「骨が多い / 骨っぽい」という意味であり、「人間は骨が硬い」とは述べられていないので、正解。

問4 ★★★

下線部(4)の内容を、45字以上55字以内の日本語で具体的に述べよ。ただし、句読点も字数に含む。

The most common explanation is that

great whites don't see well. It has been thought that they mistake people for the seals or sea lions which make up a large part of their diet. There is reason to doubt this, however.

【解答例1】 ホホジロザメは、目が良くないので、人間を彼らのエサの大部分を占めるアザラシやアシカと間違えるということ。(52字)

【解答例2】 ホホジロザメは目が悪く、人間と、彼らの食事の大半となるアザラシやアシカを間違えるという説明。(46字)

手かり 第3段落が、下線部(3)の疑問に対する答えを提示している。

㊦ 第18)文は、「しかし、これを疑う理由があるのだ」という意味で、第19)文以降で、新しく明らかになった理由が述べられている。

㊦ this は、これまで考えられていた間違った理由を指しているとわかる。

㊦ したがって、第16)文の great whites don't see well と、第17)文の they mistake people for the seals or sea lions which make up a large part of their diet の内容を制限字数内にまとめればよい。

問5 ★☆☆

空所(5)に入る最も適当なものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えよ。

Shark researchers hypothesize that great whites are actually (5) animals that like to investigate things. It's possible that they use their bite not only to kill and eat, but also to gather information.

ア. beneficial

イ. **curious**

ウ. fierce

エ. interesting

重要 curious は、「好奇心の強い」という意味。

手かり 空所(5)の後の that like to investigate things は、animals を先行詞とする関係代名詞節で、「さまざまなものを調べてみるのが好きな」という意味である。

㊦ さらに、続く第25)文でも、「ホホジロザメは、情報を収集するために咬む^かこともある」と

述べられている。

㊦ ホホジロザメのこのような性質を表す言葉として最も適切なのは、**重要**より、イとわかる。

研究

▷ ア, ウ, エ beneficial は「有益な」, fierce は「^{どうもう}猛猛な」, interesting は「興味深い」という意味。

問6 ★☆☆

下線部(6)を, this habit の内容を具体的に示して和訳せよ。

It's possible that they use their bite not only to kill and eat, but also to gather information. Although this habit can prove troublesome to humans, when sharks bite surfboards or other objects or people, they are likely just trying to learn what they are.

【解答例1】 (殺して食べるだけでなく,) 情報を収集するためにも咬むことがあるというサメの習性は人間にとってはやっかいなものになる可能性があるが, サメがサーフボードやその他の物や人間を咬むとき, 彼らはおそらく, それが何であるかを知ろうとしているだけなのである。

【解答例2】 情報収集のためにも咬んでみるというサメの習性は人間には困ったものであるかもしれないが, サーフボードや他の物体, あるいは人間を咬む場合, サメは多分, ただそれが何かを知ろうとしているのだろう。

重要1 this A(名詞)「このA」は, 通例, 前で述べられた内容を受ける。

重要2 can には, 「…可能性がある / …かもしれない」という意味で, 可能性を表す用法がある。

重要3 prove C は, 「Cとわかる / (結果として) Cになる」という意味。

重要4 副詞の likely は, 「おそらく[多分](…だろう)」という意味。

重要5 間接疑問で用いられた what は, 「何が[を / に]…か」という意味の名詞節を導く。

手がり 文全体は, Although が導く副詞節,

when が導く副詞節, they(S) are ... trying(V) ... という構造になっている。

㊦ **重要1** より, this habit は, 第25)文の内容を受けた, 「殺して食べるためだけでなく, 情報を収集するためにも咬むことがあるというサメの習性」のことだと考えられる。

㊦ **重要2, 3** より, Although this habit can prove troublesome to humans は, 「殺して食べるためだけでなく, 情報を収集するためにも咬むことがあるというサメの習性は人間にとってはやっかいなものになる可能性があるが」という意味になる。

㊦ when sharks bite surfboards or other objects or people は, 「サメがサーフボードやその他の物や人間を咬むとき」という意味になる。

㊦ they are likely just trying to learn what they are は, **重要4, 5** より, 「彼らはおそらく, それが何であるかを知ろうとしているだけなのである」という意味になる。

問7 ★★★

本文の内容と一致するものを, 次のア〜オの中から2つ選び, 記号で答えよ。ただし, 解答の順序は問わない。

ア. クレイグ・ロジャーズは, サーフィン中にホホジロザメに襲われ, 指を2本咬み切られた。

イ. 人間は, サメに殺されるより, 雷に打たれたり風呂で溺れ死んだりする可能性が高い。

ウ. この100年間で, ホホジロザメによる報告された死者数はわずか74人である。

エ. ホホジロザメの口には, 3,000もの歯が1列に並んでいる。

オ. ホホジロザメは, アザラシを襲うときは, 猛スピードで海中に潜り, 強く咬む。

手がり

イ 第10)文の内容に一致する。

ウ 第11)文の内容に一致する。

研究

▷ ア 第5)文の内容に矛盾する。指を2本咬み切

られたのではなく、腕を振り回していたときに、偶然ホホジロザメの歯に当たって切っただけである。

▷エ 第13)文の内容に矛盾する。1列ではなく、数列に並んでいる。

▷オ 第20)文の内容に矛盾する。海中に潜るのではなく、海面まで急上昇する。

【要旨】

テ — マ：ホホジロザメが人間を襲うのはなぜか。

第1段落：クレイグ・ロジャーズは、サーフィン中にホホジロザメに襲われかけたが、命に別状はなかった。

第2段落：大半の人がホホジロザメに攻撃されても生き延びるのはなぜか。

第3段落：人間は、高脂肪のアザラシやアシカを主食とするホホジロザメにとって適した食料ではないからだ。

第4段落：ホホジロザメは好奇心が強く、それが何であるかを知るために咬んでみることもあるようだ。

【全訳】

クレイグ・ロジャーズがサーフボードに座って次の波との距離を測っていると、ボードが突然動かなくなった。彼が下を見ると、ホホジロザメがボードの前部を咬んでいるのが目に入って怖くなった。「肘であいつの目に触れられそうだったのです」とクレイグは言う。サメがとても素早く浮上してきたので、彼には何も聞えなかったのだ。怖くなり、ろうばいして、彼は両腕を振り回し、誤ってサメの歯で指を2本切ってしまった。その後、彼はサーフボードの反対側から水中へと滑り落ちた。すると、クレイグが水中にいて指から血が流れているのに、体長5メートルのサメはあっさり泳ぎ去り、水面下に消えていった。

サメはできるだけ多くの人間を捕食する殺し屋と分類されることが多いが、これは実際には正確ではない。サメは極めてまれにしか人間を

殺さない。人は、サメに殺されるより、雷に打たれたり風呂で溺れ死んだりする可能性の方が高いのである。この100年間で、74人しかホホジロザメに殺されたと報告されていない。しかし、ホホジロザメは体長6メートルに達し、体重は2,200キロ以上になることがある。数列に配列された3,000までもの歯が収まっていることもある恐ろしい顎で、サメは極めてたやすく、水中にいる無力な人間を殺して食べることはできるだろう。では、なぜ大半の人がホホジロザメに攻撃されても生き延びるのだろうか。サメの研究者たちは、人間が食べられずに逃げることを可能にしている理由を把握しようとしている。

最も一般的な説明は、ホホジロザメは目が良くないというものである。ホホジロザメは人間を、そのエサの大部分を占めるアザラシやアシカと間違えるのだと考えられてきた。しかし、これを疑う理由があるのだ。最近明らかになったことによると、ホホジロザメは実際にはとても目が良いようだ。また、アザラシを襲うときには、ホホジロザメは水面まで急上昇し、ものすごい力で咬む。しかしながら、人間に近づくときには、たいていの場合ゆっくりと近づいていき、それほど強くは咬まない。ホホジロザメは、人間が高脂肪のエサではないことがすぐにわかるのだ。人間はあまりに骨っぽいので、ホホジロザメは人間は吐き出してしまうのである。

サメの研究者たちは、ホホジロザメは実際はさまざまなものを調べてみるのが好きな好奇心の強い動物なのだと仮説を立てている。殺して食べるためだけでなく情報を収集するためにも、ホホジロザメが咬むということはあるのだ。この習性は人間にとってはやっかいなものになる可能性があるが、サメがサーフボードやその他の物や人間を咬むとき、彼らはおそらく、それが何であるかを知ろうとしているだけなのである。

【本文解説】

〔第 1 段落〕

1) Craig Rogers was sitting on his surfboard, scanning the distance for his next wave, when his board suddenly stopped moving. 2) He looked down and was terrified to see a great white shark biting the front of his board. 3) “I could have touched its eye with my elbow,” says Craig. 4) The shark had surfaced so quickly he hadn’t heard a thing. 5) In his horror and confusion, he waved his arms and accidentally cut two of his fingers on the shark’s teeth. 6) He then slid off the opposite side of his surfboard into the water. 7) Then, with Craig in the water and blood ⁽¹⁾ flowing from his fingers, the five-meter-long shark simply swam away, disappearing into the water below.

1) クレイグ・ロジャーズがサーフボードに座って次の波との距離を測っていると、ボードが突然動かなくなった。2) 彼が下を見ると、ホホジロザメがボードの前部を咬んでいるのが目に入って怖くなった。3) 「肘^{ひじ}であいつの目に触れられそうだったのです」とクレイグは言う。4) サメがとても素早く浮上してきたので、彼には何も聞こえなかったのだ。5) 怖くなり、ろうばいして、彼は両腕を振り回し、誤ってサメの歯で指を2本切ってしまった。6) その後、彼はサーフボードの反対側から水中へと滑り落ちた。7) すると、クレイグが水中にいて指から血が流れているのに、体長5メートルのサメはあっさりと泳ぎ去り、水面下に消えていった。

- 1) ・scanning the ... next wave は、分詞構文。
- 2) ・to see ... his board は、see O *doing* 「Oが…しているのを見る」を用いた表現で、感情の原因を表す副詞用法の不定詞句。
- 3) ・could have touched は、仮定法過去完了を用いた表現。
- 4) ・so ... that S V ～「～ほど… / とても…なので～」を用いた表現。ここでは、that が省略されている。
- 5) ・In his horror and confusion は、クレイグの心の状態を表している副詞句。horror は「恐怖」、confusion は「混乱 / ろうばい」という意味。
- 7) ・下線部(1)は【設問解説】参照。

- ・surfboard 「サーフボード」
- ・scan O for A 「Aを求めてOを細かく調べる」
- ・distance 「距離」
- ・wave 「波」
- ・be terrified 「怖いと思う / 怖くなる」
- ・bite O 「Oを咬む」
- ・front 「正面 / 前部」
- ・elbow 「肘」
- ・surface 「(水面に)浮上する」
- ・wave O 「Oを振る」
- ・accidentally 「偶然に / 誤って」
- ・slide off A 「Aから滑り落ちる」
- ・opposite 「反対の」
- ・blood 「血」
- ・flow 「流れる」
- ・five-meter-long 「長さ5メートルの」
- ・simply 「単に / あっさりと」
- ・disappear 「消える」
- ・below 「下方の」

〔第 2 段落〕

8) Although sharks are often categorized as killers that hunt and eat as many humans as they can, this is factually inaccurate. 9) (2) 10) A person has a greater chance

8) サメはできるだけ多くの人間を捕食する殺し屋と分類されることが多いが、これは実際には正確ではない。9) サメは極めてまれにしか人間を殺さない。10) 人は、サメに殺されるより、雷に

of being struck by lightning or drowning in a bath than of being killed by a shark. 11) Only 74 people have been reported killed by great whites in the last century. 12) But great white sharks can reach six meters in length and weigh 2,200 kilograms or more. 13) With frightening jaws that can hold up to 3,000 teeth arranged in several rows, they could very easily kill and eat a helpless human in the water. 14) Why, then, do most people survive attacks by great whites? 15) Shark researchers are trying to comprehend the reasons that allow people to escape without being eaten.

打たれたり風呂で溺れ死んだりする可能性の方が高いのである。11) この100年間で、74人しかホホジロザメに殺されたと報告されていない。12) しかし、ホホジロザメは体長6メートルに達し、体重は2,200キロ以上になることがある。13) 数列に配列された3,000までの歯が収まっていることもある恐ろしい顎で、サメは極めてたやすく、水中にいる無力な人間を殺して食べることはできるだろう。14) では、なぜ大半の人がホホジロザメに攻撃されても生き延びるのだろうか。15) サメの研究者たちは、人間が食べられずに逃げることを可能にしている理由を把握しようとしている。

- | | |
|---|---|
| <p>8) ・that hunt ... they can は、as many A as S can 「できるだけ多くのA」を用いた表現で、killers を先行詞とする関係代名詞節。</p> <p>・this は、although 節の内容を指している。</p> <p>9) ・空所(2)は【設問解説】参照。</p> <p>10) ・have a ... chance of <i>doing</i> 「～する可能性が…である」を比較級で用いた表現。of being struck by lightning or drowning in a bath と of being killed by a shark が比較されている。</p> <p>・being struck by lightning と drowning in a bath は、or で結ばれ、共通関係にあり、ともに of につながっている。</p> <p>11) ・report O C 「OがCであると報告する」を現在完了の受動態で用いた表現。killed by great whites がCに当たる。</p> <p>・in the last century は、「この100年間で」という意味。</p> <p>12) ・reach six meters in length と weigh 2,200 kilograms or more は、and で結ばれ、共通関係にあり、ともに can につながっている。</p> <p>13) ・that can ... several rows は、jaws を先行詞とする関係代名詞節。</p> <p>・arranged in several rows は、teeth を修飾する過去分詞句。arrange O は、「Oを配列する」という意味。</p> <p>・could ... kill and eat ～ は、仮定法過去。</p> <p>14) ・下線部(3)は【設問解説】参照。</p> <p>15) ・that allow ... being eaten は、allow O to <i>do</i> 「Oが…することを可能にする」を用いた表現で、reasons を先行詞とする関係代名詞節。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・categorize O as C 「OをCと分類する」 ・factually 「実際には」 ・inaccurate 「不正確な」 ・be struck by lightning 「雷に打たれる」 ・drown 「溺れ死ぬ」 ・length 「長さ」 ・weigh C 「重さがCである」 ・A or more 「A以上」 ・frightening 「恐ろしい」 ・jaw 「顎」 ・up to A 「(最高)Aまで」 ・row 「列」 ・helpless 「無力な」 ・survive O 「Oを生き延びる」 ・researcher 「研究者」 ・comprehend O 「Oを理解する / Oを把握する」 |
|---|---|

〔第3段落〕

16) The most common explanation is that great whites don't see well. 17) It has been thought that they mistake people for the seals or sea lions which make up a large part of their diet. 18) There is reason to doubt this, however. 19) Recent information ⁽⁴⁾ shows that great whites can actually see very well. 20) Also, when attacking seals, great whites shoot up to the surface and bite with great force. 21) When approaching humans, however, they most often move in slowly and bite less hard. 22) They soon discover that humans are not a high-fat meal. 23) They spit us out because we're too bony.

16) 最も一般的な説明は、ホホジロザメは目が良くないというものである。17) ホホジロザメは人間を、そのエサの大部分を占めるアザラシやアシカと間違えるのだと考えられてきた。18) しかし、これを疑う理由があるのだ。19) 最近明らかになったことによると、ホホジロザメは実際にはとても目が良いようだ。20) また、アザラシを襲うときには、ホホジロザメは水面まで急上昇し、ものすごい力で咬む。21) しかしながら、人間に近づくときには、たいていの場合ゆっくりと近づいていき、それほど強くは咬まない。22) ホホジロザメは、人間が高脂肪のエサではないことがすぐにわかるのだ。23) 人間はあまりに骨っぽいので、ホホジロザメは人間は吐き出してしまうのである。

- 16) ・that great ... see well は、is の補語となる名詞節。
 17) ・It は形式主語で、that they ... their diet が真主語。
 ・which make ... their diet は、the seals and sea lions を先行詞とする関係代名詞節。
 18) ・to doubt this は、reason を修飾する形容詞用法の不定詞句。
 19) ・that great ... very well は、shows の目的語となる名詞節。
 20) ・when attacking seals は、分詞構文 attacking seals の意味を明確にするために前に when を置いたものと考えても、when の後に they are が省略された副詞節と考えてもよい。
 21) ・When approaching humans については、第20)文の when attacking seals と同様。
 22) ・that humans ... high-fat meal は、discover の目的語となる名詞節。

- ・common 「一般的な」
- ・explanation 「説明」
- ・mistake O for A 「OをAと間違える」
- ・make O up / make up O 「Oを構成する / Oを占める」
- ・diet 「食事 / エサ」
- ・recent 「最近の」
- ・actually 「実際には」
- ・shoot up 「急上昇する」
- ・surface 「表面 / 水面」
- ・force 「力」
- ・high-fat 「高脂肪の」
- ・spit O out / spit out O 「Oを吐き出す」
- ・bony 「骨の多い / 骨っぽい」

〔第4段落〕

24) Shark researchers hypothesize that great whites are actually (5) animals that like to investigate things. 25) It's possible that they use their bite not only to kill and eat, but also to gather information. 26) Although this habit can prove troublesome to humans, when sharks bite surfboards or other objects or people, they are likely just trying to learn

24) サメの研究者たちは、ホホジロザメは実際はさまざまなものを調べてみるのが好きな好奇心の強い動物なのだと言説を立てている。25) 殺して食べるためだけでなく情報を収集するためにも、ホホジロザメが咬むということはあるのだ。26) この習性は人間にとってはやっかいなものになる可能性があるが、サメがサーフボードやその他の物や人間を咬むとき、彼らはおそらく、それ

what they are.

が何であるかを知らうとしているだけなのである。

24) ・空所(5)は【設問解説】参照。

・that like to investigate things は, animals を先行詞とする関係代名詞節。

25) ・It は形式主語で, that they ... gather information が真主語。

・they use ... gather information は, not only X(,) but also Y「Xだけでなく, Yも」を用いた表現で, XとYに目的を表す副詞用法の不定詞句が来ている。

26) ・下線部(6)は【設問解説】参照。

- ・investigate O「Oを調べる」
- ・gather O「Oを集める」
- ・habit「習慣/習性」
- ・troublesome「やっかいな」
- ・human「人間」
- ・object「物」
- ・likely「おそらく」

【出典】

Reading Explorer 2: *Shark Attack!*

⑥ 長文総合

【解答】

問1 1. イ 2. エ 3. エ 4. ウ

5. イ

問2 ウ, カ, ク (順不同)

【配点】 (45点)

問1 6点×5 問2 5点×3

【設問解説】

以下の解説に記されている「第○文」という通し番号は, p. 27以降の【本文解説】を参照。

問1

1. ★☆☆

According to the text, Jean Paul Charbonneau and his wife Rosita ().

ア. are a businessman and a physician

イ. are a Canadian-Filipina couple

ウ. decided to leave Canada to live in the Philippines

エ. wanted to help the villagers as doctors (訳)

本文によると, ジャン・ポール・シャルボノーと彼の妻ロジータは().

ア. 実業家と内科医である

イ. カナダ人とフィリピン人の夫婦である

ウ. カナダを離れてフィリピンに住もうと決心した

エ. 医師として村人たちを助けたいと思っていた

【手かり】 第1) 文の内容から判断する。

2. ★★☆☆

When Christmas was near in 1982, the Charbonneaus decided to ().

ア. deliver gifts to all children in the village

イ. light up their house

ウ. move from a village near Cebu City

エ. share their pleasure of Christmas with poor children

(訳)

1982年にクリスマスが近づいたとき, シャルボノー夫妻は()と決心した。

ア. 村のすべての子どもたちに贈り物を配ろう

イ. 自分たちの家をライトアップしよう

ウ. セブ市近くの村から引っ越そう

エ. 貧しい子どもたちにクリスマスの楽しみを分け与えよう

【手かり】 第2)～4) 文の内容から判断する。

3. ★★☆☆

After giving the presents to the villagers for the first time, the Charbonneaus felt that ().

ア. more kids would come on Christmas

Day the following year

イ. the idea of gift giving to the kids was a big success

ウ. they hadn't put enough candy and cakes in the bags

エ. they should have prepared more gift bags

(訳)

村人たちに初めてプレゼントをあげた後、シャルボノー夫妻は()と感じた。

ア. 翌年のクリスマスには、もっと多くの子どもたちが来るだろう

イ. 子どもたちに贈り物をあげるという考えは大成功だった

ウ. 袋の中にキャンディーやケーキを十分に入れていなかった

エ. もっと多くの贈り物の袋を用意すべきだった

手がかり 第8)～9)文の内容から判断する。

4. ★★☆☆

The reason why the Charbonneaus stopped using the van is that ().

ア. it became difficult for people to turn up along the van's route

イ. not only kids but also grownups lined up outside their compound

ウ. they thought it would be dangerous

エ. they wanted to prepare more and more bags

(訳)

シャルボノー夫妻がワゴン車を使うのをやめたのは、()からである。

ア. 人々がワゴン車の通り道に沿って現れるのが難しくなった

イ. 子どもたちだけでなく大人たちも彼らの屋

敷の外に並んだ

ウ. それは危険になるだろうと考えた

エ. ますます多くの袋を準備したいと思った

手がかり 第13)～16)文の内容から判断する。

5. ★☆☆

By saying he does not want the Santa Claus title, JP means ().

ア. he doesn't care by what title he is called

イ. he is not interested in becoming a hero

ウ. he no longer believes in Santa Claus

エ. he wants to be called JP, not Santa Claus

(訳)

サンタクロースの肩書きはほしくないと述べることによって、JP は()ということをおうとしている。

ア. どんな肩書きで呼ばれるか気にしていない

イ. ヒーローになることには興味がない

ウ. もはやサンタクロースの存在を信じていない

エ. サンタクロースではなく、JPと呼ばれた

手がかり 第29)～30), 32)文の内容から判断する。

問2 ★★☆☆

本文の内容と一致するものを、次のア～クの中から3つ選び、記号で答えよ。ただし、解答の順序は問わない。

ア. As soon as the Charbonneaus moved to a village near Cebu City, they found that many poor children were in the village.

イ. For Christmas 1983, the Charbonneaus prepared three times as many bags as they did the previous year.

ウ. By 1988, it was difficult for the Charbonneaus to deliver the gift bags by themselves.

エ. Gift-giving by the Charbonneaus has been limited to poor children.

オ. In 2010, ice cream peddlers came to sell ice cream to the children waiting for their presents.

カ. **The villagers seem to feel that visiting the Charbonneaus' compound at Christmas is not to be missed.**

キ. Edna Costorio says that her kids believe JP is a real-life Santa.

ク. **JP thinks that people who have more money should use their resources to help poor children.**

(訳)

ア. シャルボノー夫妻は、セブ市近くの村に引っ越してすぐに、その村には多くの貧しい子どもたちがいるとわかった。

イ. 1983年のクリスマスには、シャルボノー夫妻は前年の3倍の袋を用意した。

ウ. 1988年までには、シャルボノー夫妻が贈り物の袋を自分たちで配るのは難しくなっていた。

エ. シャルボノー夫妻による贈り物をあげる活動は、貧しい子どもたちに限られてきた。

オ. 2010年には、アイスクリームの行商人がプレゼントを待っている子どもたちにアイスクリームを売りに来た。

カ. クリスマスに関して、村人たちはシャルボノー夫妻の屋敷を訪問することは欠かせないと感じているようだ。

キ. エドナ・コストリオは、自分の子どもたちが JP は本物のサンタだと信じていると言う。

ク. JP は、お金をよりたくさん持っている人々は貧しい子どもたちを助けるために自分たちの財産を使うべきだと思っている。

手がかり

ウ 第16), 21) 文の内容から判断する。

カ 第25)～26) 文の内容から判断する。

ク 第33) 文の内容から判断する。

研究

▷ア 第2) 文の内容に矛盾する。

▷イ 第1), 8)～9) 文の内容に矛盾する。

▷エ 第14), 19)～20) 文の内容に矛盾する。

▷オ 第23) 文の内容に矛盾する。

▷キ 第28) 文の内容に矛盾する。

【要旨】

テ — マ: フィリピンの貧しい子どもたちへクリスマスプレゼントを贈り続ける夫妻。

第1段落: セブ市近くの村に移り住む準備をしているときに、シャルボノー夫妻は近所に貧しい子どもたちがたくさんいることに気がついた。

第2～4段落: クリスマスが近づいていたので、シャルボノー夫妻は貧しい子どもたちにプレゼントを用意しようと決心した。

第5～7段落: シャルボノー夫妻は25個の袋では足りなかったことに気がつき、翌年には50個の袋を用意するものの、プレゼントを求める人々の数は年々増える一方であった。

第8～10段落: シャルボノー夫妻はワゴン車を使うことをやめて、クリスマスの朝に夫妻の家に来るよう村人たちに頼んだが、1988年までに、夫妻だけでは扱いきれなくなっていた。

第11段落: シャルボノー夫妻の活動規模は拡大し続け、2010年には3,500個の袋を用意し、配るのにおよそ20人で3時間以上かかった。

第12～13段落: シャルボノー夫妻の活動が現地のクリスマスの慣習となってきた。

第14～16段落: ジャン・ポールは、ヒーローになりたいわけではなく、子どもたちの笑顔を見たいのと、裕福な人々に貧しい子どもたちを助けることができると示したいために、クリスマスの活動を続けている。

【全訳】

1982年12月、フィリピン在住のカナダ人で実業家を引退したジャン・ポール・シャルボノー

と、フィリピン人で内科医である彼の妻ロジータは、セブ市近くの村に引っ越すことに決めた。自分たちの新しい家に移る準備をしていたとき、彼らは近所に貧しい子どもたちがたくさんいることに気がついた。

クリスマスが近づいていたので、夫妻は彼らの生活を明るくしようと決心した。「クリスマスはいつも子どもたちのためにあり、それは彼らが他の人たちから贈り物を期待する唯一の時ですが、これらの子どもたちの親にはプレゼントを買う余裕がなかったのです」とロジータは言う。

村の中では JP として知られているジャン・ポールとロジータは、キャンディーとケーキ、簡素なプラスチック製のおもちゃを購入し、25個の袋にそれらを詰めた。それから12月25日になって、彼らは白いワゴン車に飛び乗り、その袋を驚いている子どもたちに与えた。

「その幼い子どもたちが自分たちの包みをしっかりと抱きしめているのを見るのはとてもすてきだったし、彼らの顔に浮かぶ笑顔は本当に心温まるものでした」と JP は思い出す。

その日の喜びにもかかわらず、シャルボノー夫妻は25個の袋が十分ではないとすぐにわかった。翌年のクリスマスには、彼らは50個の袋に詰め込み、再びそれらを村中で配った。

これが例年の行事になったと地元の子どもたちがわかるのには長くかからなかった。以後の数年間、彼らは、ますます数が増え、ワゴン車の通り道に沿って列を作ったものだった。JP とロジータはますます多くの袋を喜んで用意した。

人はどんどん増え、まもなく扱いにくくなった。大人も含めて、ますます多くの人たちが現れるにつれて、群衆は乱暴になった。ワゴン車が近づくと、人々が前へと押し寄せ、窓を叩き、自分たちの取り分の菓子を要求したものだ。

そのため、1988年に、シャルボノー夫妻はワゴン車を使うのをやめることにした。その代わりに、彼らは子どもたちに、より整然とプレゼントを配ることができるように、クリスマスの朝には夫妻の屋敷の外に並ぶよう頼んだ。午前

7時までには、1,000人以上の子どもたちが夫妻の家の門の所に集まっていた。

幼い子どもを腕に抱えながら訪れた母親さえたたとロジータは思い出す。「私たちはそこにいた人すべてにプレゼントを与え、彼らは皆、袋の中のキャンディーやプラスチック製のおもちゃを見て、大変喜んでいました」

この頃までに、プレゼントを配るのを助けたり、確実にすべてが順調に進むようにするためには、友人や家の使用人たちが必要だった。

年に1回の贈り物をあげる活動の規模が大きくなり続けたけれども、夫妻はやめることを検討したことは一度もなかった。2010年には、彼らは3,500個の袋に詰めて、プレゼントを待つときに子どもたちをもてなすのにアイスクリームの行商人に来てもらった。贈り物の袋をすべて配るのに、全部で約20人で3時間以上かかった。

村の家族たちにとって、シャルボノー夫妻の屋敷を訪問することがクリスマスの慣習となっている。エドナ・コストリオは、この数年間、自分の娘たちが12月25日は早く目を覚まして、体を洗い、シャルボノー夫妻の家まで連れて行くよう頼んでいると言う。

「子どもたちが贈り物をもらおうといつもにっこり笑うのを見ると、私もとても幸せになるの」とコストリオは言うが、そんな彼女は、三輪バイクの運転手として夫が稼ぐお金で家族を養うのに苦労しているのである。「私は、JP が本物のサンタクロースのようだと思うわ」

JP は、幼い頃にはサンタクロースの存在を信じていたが、今その肩書きをほしいとは思わないと言う。「私は、サンタになりたいからではなく、子どもたちの笑顔を見るのがただ大好きだから、このようなことをしているのです」

夫妻は年に1回のクリスマスのプレゼントにおよそ2,000ドルを費やすけれども、彼らは規模を縮小したり、やめたりする考えはまったく持っていない。

「私はヒーローになることには興味がありません」と JP が言うと、ロジータは同意してうなずき、微笑んだ。「私はただ、子どもたちを喜ばせて、お金をよりたくさん持っている人々

に彼らも自らの財産を使って貧しい子どもたちを助けることができるということを示したいのです」

【本文解説】

〔第1段落〕

1) In December 1982 Jean Paul Charbonneau, a retired Canadian businessman living in the Philippines, and his wife Rosita, a Filipina physician, decided to move to a village near Cebu City. 2) As they were preparing to shift into their new home, they noticed a lot of poor children around the neighborhood.	1) 1982年12月、フィリピン在住のカナダ人で実業家を引退したジャン・ポール・シャルボノーと、フィリピン人で内科医である彼の妻ロジータは、セブ市近くの村に引っ越すことに決めた。2) 自分たちの新しい家に移る準備をしていたとき、彼らは近所に貧しい子どもたちがたくさんいることに気がついた。
---	---

- | | |
|--|---|
| <p>1) ・ a retired ... the Philippines は、Jean Paul Charbonneau と同格関係にあり、living in the Philippines は、a retired Canadian businessman を修飾する現在分詞句。</p> <p>・ a Filipina physician は、his wife Rosita と同格関係にある。</p> <p>・ Cebu City は、フィリピンの主要都市の一つであるセブ市のこと。</p> <p>2) ・ As は、時を表す接続詞。</p> <p>・ were preparing to shift into their new home は、prepare to do 「…する準備をする」と、shift into A 「Aに移る」を用いた表現。</p> | <p>・ retired 「引退した」</p> <p>・ decide to do 「…することに決める」</p> <p>・ move to A 「Aに引っ越す」</p> <p>・ notice O 「Oに気がつく」</p> <p>・ neighborhood 「近所」</p> |
|--|---|

〔第2～4段落〕

3) With Christmas approaching, the couple decided to brighten their lives. 4) “Christmas has always been for the children and that is the only time that they expect gifts from other people, but the parents of these kids couldn’t afford to buy presents,” says Rosita. 5) Jean Paul, who is known in the village as JP, and Rosita bought candy, cakes and simple plastic toys, and packed them into 25 bags. 6) Then on December 25, they hopped into their white van and handed the bags out to the surprised kids. 7) “It was so nice to see those little kids hugging their bundles, and the smiles on their faces were truly heartwarming,” recalls JP.	3) クリスマスが近づいていたので、夫妻は彼らの生活を明るくしようと決心した。4) 「クリスマスはいつも子どもたちのためにあり、それは彼らが他の人たちから贈り物を期待する唯一の時ですが、これらの子どもたちの親にはプレゼントを買う余裕がなかったのです」とロジータは言う。5) 村の中では JP として知られているジャン・ポールとロジータは、キャンディーとケーキ、簡素なプラスチック製のおもちゃを購入し、25個の袋にそれらを詰めた。6) それから12月25日になって、彼らは白いワゴン車に飛び乗り、その袋を驚いている子どもたちに与えた。7) 「その幼い子どもたちが自分たちの包みをしっかりと抱きしめているのを見るのはとてもすてきだったし、彼らの顔に浮かぶ笑顔は本当に心温まるものでした」と JP は思い出す。
--	--

- | | |
|---|---|
| <p>3) ・ With Christmas approaching は, with A <i>doing</i> 「Aが…している状態」を用いた表現。</p> <p>4) ・ that is the only time の that は, Christmas を指す。</p> <p>・ that they expect ... other people は, expect O from A 「AからOを期待する」を用いた表現で, the only time を先行詞とする関係副詞節。</p> <p>5) ・ who is known in the village as JP は, Jean Paul を先行詞とする非制限用法の関係代名詞節。</p> <p>・ bought candy ... plastic toys と packed them into 25 bags は, and によって結ばれ, 共通関係にあり, とともに Jean Paul ... and Rosita につながっている。pack O into A は「OをAの中に詰める」という意味で, them は candy ... plastics toys を指す。</p> <p>7) ・ It は形式主語で, to see those little kids hugging their bundles が真主語。</p> <p>・ see those ... their bundles は, see O <i>doing</i> 「Oが…しているのを見る」を用いた表現。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ approach 「近づく」 ・ brighten O 「Oを明るくする」 ・ can afford to <i>do</i> 「…する(経済的)余裕がある」 ・ plastic 「プラスチック製の」 ・ toy 「おもちゃ」 ・ hop into A 「Aに飛び乗る」 ・ van 「(小型)トラック / ワゴン車」 ・ hand O out / hand out O 「Oを配る / Oを与える」 ・ hug O 「Oをしっかりと抱きしめる」 ・ bundle 「束 / 包み」 ・ truly 「本当に」 ・ heartwarming 「心温まる」 ・ recall ... 「…と思い出す」 |
|---|---|

〔第5～7段落〕

<p>8) Despite the joy of the day, the Charbonneaus quickly realized that 25 bags were not enough. 9) The following Christmas they packed 50, and once again distributed them around the village.</p> <p>10) It didn't take long for the local children to realize that this had become an annual event.</p> <p>11) In the coming years, they would line up along the van's route in ever increasing numbers. 12) JP and Rosita were happy to prepare more and more bags.</p> <p>13) Soon the growing numbers became difficult to manage. 14) As more and more people, including grownups, turned up, the crowds became rowdy. 15) When the van approached, people would press forward, banging on the windows and asking for their share of the goodies.</p>	<p>8) その日の喜びにもかかわらず, シャルボノー夫妻は25個の袋が十分ではないとすぐにわかった。9) 翌年のクリスマスには, 彼らは50個の袋に詰め込み, 再びそれらを村中で配った。</p> <p>10) これが例年の行事になったと地元の子どもたちがわかるのには長くかからなかった。11) 以後の数年間, 彼らは, ますます数が増え, ワゴン車の通り道に沿って列を作ったものだった。12) JP とロジータはますます多くの袋を喜んで用意した。</p> <p>13) 増加していく人数は, まもなく扱いにくくなった。14) 大人も含めて, ますます多くの人たちが現れるにつれて, 群衆は乱暴になった。15) ワゴン車が近づくと, 人々が前へと押し寄せ, 窓を叩き, 自分たちの取り分の菓子を要求したものだ。</p>
--	---

- | | |
|---|---|
| <p>8) ・ the Charbonneaus は, 「シャルボノー夫妻」という意味。</p> <p>9) ・ The following Christmas は, they packed 50 を修飾する副詞句。</p> <p>・ packed 50 と distributed them around the village は, and によって結ばれ, 共通関係にあり, とともに the Char-</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ despite A 「Aにもかかわらず」 ・ realize that S V ... 「…と(よく)わかる」 ・ following 「次の」 ・ once again 「もう一度 / 再び」 ・ distribute O 「Oを配る」 |
|---|---|

- bonneaus につながっている。them は50個の袋のこと。
- 10) ・It didn't take ... annual event. は、It takes O for A to do. 「Aが…するのにO(時間・労力など)がかかる」を用いた表現。
- 11) ・would は、過去の習慣を表す。
- 12) ・more and more bags は、〈比較級+and+比較級〉「ますます…」を用いた表現。
- 14) ・As は、比例を表す接続詞。
- 15) ・would は、過去の習慣を表す。
- ・banging on the windows と asking for ... the goodies は、and によって結ばれ、共通関係にある分詞構文。bang on A は「Aをドンドンと叩く」、ask for A は「Aを要求する」という意味。

- ・around A 「Aのあちこちで / A中で」
- ・annual 「年に1回の / 例年の」
- ・coming 「次の」
- ・line up 「一列に並ぶ / 列を作る」
- ・route 「道筋 / 通り道」
- ・ever 「さらに / ますます」
- ・be happy to do 「喜んで…する」
- ・manage O 「Oをうまく取り扱う」
- ・including A 「Aを含めて」
- ・turn up 「姿を現す / 現れる」
- ・crowd 「群衆」
- ・press forward 「前へと押し寄せる」
- ・share 「分け前 / 取り分」

—[第8～10段落]—

<p>16) So in 1988, the Charbonneaus decided to stop using the van. 17) Instead they asked the children to line up outside the couple's compound on Christmas morning so they could distribute the gifts in a more orderly manner. 18) By 7 am, over 1,000 children had gathered at the couple's gates. 19) Some mothers even arrived with little kids in their arms, recalls Rosita. 20) "We gave gifts to everyone present and they were all very happy to see the candy and plastic toys inside the bags." 21) By this time, friends and household staff were needed to help distribute the presents and to ensure everything ran smoothly.</p>	<p>16) そのため、1988年に、シャルボノー夫妻はワゴン車を使うのをやめることにした。17) その代わりに、彼らは子どもたちに、より整然とプレゼントを配ることができるように、クリスマスの朝には夫妻の屋敷の外に並ぶよう頼んだ。18) 午前7時までに、1,000人以上の子どもたちが夫妻の家の門の所に集まっていた。19) 幼い子どもを腕に抱えながら訪れた母親さえいたとロジータは思い出す。20) 「私たちはそこにいた人すべてにプレゼントを与え、彼らは皆、袋の中のキャンディーやプラスチック製のおもちゃを見て、大変喜んでいました」21) この頃までに、プレゼントを配るのを助けたり、確実にすべてが順調に進むようにするためには、友人や家の使用人たちが必要だった。</p>
---	--

- 17) ・they asked ... Christmas morning は、ask O to do 「Oに…するよう頼む」を用いた表現。
- ・so they ... orderly manner は、目的を表す副詞節 so (that) S can do ... 「Sが…できるように」を用いた表現で、they の直前に that が省略されている。
- 19) ・with little kids in their arms は、〈with+A+前置詞句〉「Aが…している状態で」を用いた表現。
- 20) ・present は、「出席している / そこにいる」という意味で、everyone を修飾する形容詞。
- 21) ・to help distribute the presents と to ensure everything ran smoothly は、and によって結ばれ、共通関係にあり、ともに were needed につながっている目的を表す副詞用法
- ・instead 「その代わりに」
 - ・in a ... manner 「…なやり方で」
 - ・orderly 「整然とした」
 - ・over A 「A(数詞)以上」
 - ・gather 「集まる」
 - ・by this time 「この時[頃]までに」
 - ・household staff 「家の使用人たち」
 - ・help (to) do 「…するのを助ける」
 - ・run 「進む」
 - ・smoothly 「なめらかに / 順調に」

の不定詞句。

- ensure everything ran smoothly は、ensure (that) S V ... 「…を確実にする / 確実に…するようにする」を用いた表現。everything の直前に that が省略されている。

〔第11段落〕

22) Even though the annual gift-giving continued to grow, the couple has never considered stopping. 23) In 2010, they packed 3,500 bags and brought in ice cream peddlers to serve the children as they waited for their presents. 24) In all it took around 20 people over three hours to hand out all the gift bags.

22) 年に1回の贈り物をあげる活動の規模が大きくなり続けたけれども、夫妻はやめることを検討したことは一度もなかった。23) 2010年には、彼らは3,500個の袋に詰めて、プレゼントを待つときに子どもたちをもてなすのにアイスクリームの行商人に来てもらった。24) 贈り物の袋をすべて配るのに、全部で約20人で3時間以上かかった。

- 22) • Even though the annual gift-giving continued to grow は、even though S V ... 「…けれども」と continue to do 「…し続ける」を用いた表現。
- 23) • brought in ice cream peddlers to serve the children は、bring O in / bring in O 「Oを仲間に引き入れる / Oに来てもらう」と serve O 「Oに食事を出す / O(客など)をもてなす」を用いた表現。
- as は時を表す接続詞。
- 24) • it took ... the gift bags は、It takes O₁ O₂ to do. 「O₁ (人)が…するのに O₂ (時間・労力など)がかかる」を用いた表現で、around 20 people が O₁ にあたり、over three hours が O₂ にあたる。

- consider *doing* 「…することを検討する」
- in all 「全体で / 全部で」

〔第12～13段落〕

25) For the families of the village, the visit to the Charbonneaus' compound has become a Christmas tradition. 26) Edna Costorio says that for the past few years, her daughters have woken up early on December 25, taken a bath and then asked to be taken to the Charbonneaus' house. 27) "Seeing my kids smile every time they get their gifts makes me very happy too," says Costorio, who struggles to feed her family with the money her husband earns as a tri-cycle driver. 28) "I think JP is like a real-life Santa Claus."

25) 村の家族たちにとって、シャルボノー夫妻の屋敷を訪問することがクリスマスの慣習となっている。26) エドナ・コストリオは、この数年間、自分の娘たちが12月25日は早く目を覚まして、体を洗い、シャルボノー夫妻の家まで連れて行くよう頼んでいると言う。

27) 「子どもたちが贈り物をもらおうといつもにっこり笑うのを見ると、私もとても幸せになるの」とコストリオは言うが、そんな彼女は、三輪バイクの運転手として夫が稼ぐお金で家族を養うのに苦労しているのである。28) 「私は、JP が本物のサンタクロースのようだと思うわ」

- 26) • woken up ... December 25 と taken a bath と asked ... the Charbonneaus' house は、and によって結ばれ、共通

- tradition 「伝統 / 慣習」
- wake up 「目を覚ます」

関係にあり、それぞれ her daughters have につながっている。

- be taken to the Charbonneaus' house は、ask to do 「…するよう頼む」の do にあたり、take O to A 「OをAに連れて行く」を受動態で用いた表現。

- 27) • Seeing my kids smile every time they get their gifts は、see O do 「Oが…するのを見る」と every time S V ... 「…するといつも」を用いた表現で、makes の主語となっている動名詞句。
- makes me very happy は、make O C 「OをCにする」を用いた表現。
 - her husband ... tricycle driver は、the money を先行詞とする関係代名詞節。直前に目的格の関係代名詞が省略されている。
 - tricycle は、フィリピンで一般的な乗り物である三輪バイクのこと。

- struggle to do 「…するのに苦労する」
- feed O 「Oを養う」
- earn O 「Oを稼ぐ」
- real-life 「現実の / 本物の」

〔第14～16段落〕

29) Although he believed in Santa Claus when he was young, JP says he does not want the title now. 30) "I'm doing this not because I want to be Santa but because I just love to see the smiles of the children."

31) Even though the couple spends around \$2,000 on their annual Christmas giveaway, they have no plans to slow down or stop.

32) "I'm not interested in becoming a hero," JP says as Rosita nods and smiles in agreement. 33) "I just want to make kids happy and show those who have more money that they too can help poor children using their resources."

29) JP は、幼い頃にはサンタクロースの存在を信じていたが、今その肩書きをほしいとは思わないと言う。30) 「私は、サンタになりたいからではなく、子どもたちの笑顔を見るのがただ大好きだから、このようなことをしているのです」

31) 夫妻は年に1回のクリスマスのプレゼントにおよそ2,000ドルを費やすけれども、彼らは規模を縮小したり、やめたりする考えはまったく持っていない。

32) 「私はヒーローになることには興味がありません」と JP が言うと、ロジータは同意してうなずき、微笑んだ。33) 「私はただ、子どもたちを喜ばせて、お金をよりたくさん持っている人々に彼らも自らの財産を使って貧しい子どもたちを助けることができるということを示したいのです」

- 30) • I'm doing this の do this は、「クリスマスに貧しい子どもたちにプレゼントを配る」ということ。
- not because ... the children は、not X but Y 「XではなくY」を用いた表現。
- 31) • spends around ... Christmas giveaway は、spend O on A 「AにOを費やす」を用いた表現。
- to slow down or stop は、slow down 「スピードを落とす / 規模を縮小する」を用いた表現で、no plans を修飾する形容詞用法の不定詞句。

- believe in A 「Aの存在を信じる」
- title 「肩書き」
- around 「およそ」
- giveaway 「無料であげるもの」
- plan 「計画 / 考え」
- nod 「うなずく」
- in agreement 「同意して」
- resource 「資源 / 財産」

32) ・as は、時を表す接続詞。

33) ・make kids happy と show those ... their resources は、and によって結ばれ、共通関係にあり、ともに I just want to につながっている。

・show those ... their resources は、show O that S V ... 「Oに…を示す」を用いた表現で、those who have more money がOにあたる。using their resources は、分詞構文。

【出典】

Mars W. Mosqueda, Jr.: *Mother and Father Christmas*

【オーラル・コミュニケーション】

【解答】

(1)-(a)	(2)-(a)	(3)-(d)	(4)-(c)	(5)-(b)
(6)-(b)	(7)-(c)	(8)-(b)	(9)-(c)	(10)-(b)

【配点】 (20点)

2点×10

【放送された英文】

- (1) Would it be all right if I asked you for a lift?
 - (2) At this time of the day, you should take the subway. There is a lot of traffic on the roads.
 - (3) Yumi! Long time no see. How long are you going to be here in Los Angeles?
 - (4) I'm so nervous about the job interview tomorrow.
 - (5) I have told you again and again you shouldn't draw pictures on the walls. Never do that again!
 - (6) Excuse me. I have to get off at Ikebukuro. How many stops away is the station?
 - (7) Suzy, you are wanted on the phone. Bob wants to talk to you.
 - (8) I can't go to Tom's house party with you, honey. I have to leave for Fresno, California on business next Friday.
 - (9) John broke his leg while skiing and is in hospital now.
 - (10) High blood pressure can cause many diseases. It may be inherited from your parents, but it is partly because of your habits. You should avoid smoking, lack of sleep, taking in too much salt and so on.
- 【放送された英文と選択肢の訳】
- (1) 車に同乗させてもらってもいいですか。
(a) もちろん。
(b) いいえ、あなたはしませんでしたよ。
(c) はい、あなたはしましたよ。
(d) あなたは正しいですよ。
 - (2) この時間帯は、地下鉄に乗るべきだよ。道がとても混んでいるから。
(a) 車で行くのはやめるわ。
(b) このあたりにレンタカーを借りられるところはありますか。
(c) バスとタクシーとどちらが速いかな。
(d) なぜ地下鉄に乗るべきなの。
 - (3) ユミ！ 久しぶりね。ここロサンゼルスにはどれくらい滞在する予定なの。
(a) 約1週間前よ。
(b) この2週間よ。
(c) 先週の金曜日からよ。
(d) 8月16日までよ。
 - (4) 明日の就職の面接のことでとても緊張しているんだ。
(a) どういたしまして。
(b) 彼らによろしく伝えてね。
(c) 落ち着いてね。
(d) 気にしないで。
 - (5) 壁に絵を描いてはダメだって何度も何度も言ってきたでしょ。二度としちゃダメよ。
(a) もうしないよ、ママ。もっと一生懸命もっとうまく描けるようにするから。
(b) ごめんね、ママ。これからはスケッチブックだけに描くから。
(c) え？ オオカミの絵は描けないよ。
(d) またするよ、ママ。いい子になるから。
 - (6) すみません。池袋で降りないといけなのです。池袋は何駅目でしょうか。
(a) 鉄道会社2社がストライキ中です。
(b) 3つ目の駅で降りてください。
(c) 3番ホームの列車に乗ってください。
(d) 乗り過ごすことはないですよ。
 - (7) スージー、あなたに電話よ。ボブがあなたと話したいそうよ。
(a) 今何も欲しくないわ。
(b) 番号をお間違えだと思います。
(c) そう、後でかけ直すって伝えて。
(d) 伝言を承りましょうか。
 - (8) ねえ、トムのホームパーティーには一緒に行けないんだ。来週の金曜日、商用でカリフォル

ニア州のフレズノに行かなければならないんだ。

- (a) その町はどの州にあるの。
- (b) いつ戻ってくる予定なの。
- (c) いつ出発するの。
- (d) なぜそこに行くの。

(9) ジョンがスキー中に脚を骨折して、今入院しているの。

- (a) 彼がスキーに行きたくなかったって知らないのかい。
- (b) 彼は病院にいたべきだったよ。
- (c) 知っているよ。昨日彼のところにお見舞いに行ったんだ。
- (d) 実は、彼はスキーがとても好きなんだ。

(10) 高血圧は多くの病気を引き起こす可能性があります。高血圧は親からの遺伝によることもあります。高血圧は一つには習慣によるものです。喫煙、睡眠不足、塩分の摂り過ぎなどは控えてください。

- (a) わかりました。でも昨晚は8時間睡眠をとりましたよ。
- (b) わかりました。生活習慣を改善します。
- (c) わかりました。習慣は親からの遺伝ですね。
- (d) わかりました。アドバイスをありがとうございます。親に尋ねてみます。

【語句解説】

(1)

(放送された英文)

- lift 「(自動車などに)乗せること」

(2)

(放送された英文)

- subway 「地下鉄」
- traffic 「交通(量)」

(選択肢)

- give up *doing* 「…するのをやめる」
- by car 「車で」
- rent-a-car 「レンタカー」

(3)

(放送された英文)

- Long time no see. 「久しぶり」

(4)

(放送された英文)

- nervous 「緊張して」
- job interview 「就職の面接」

(選択肢)

- Don't mention it. 「どういたしまして」
- Give O my best regards. 「Oさんによろしく」
- Take it easy. 「落ち着いて」
- Never mind. 「気にしないで」

(5)

(放送された英文)

- draw O 「Oを描く」

(選択肢)

- wolf 「オオカミ」

(6)

(放送された英文)

- get off 「降りる」
- stop 「駅」

(選択肢)

- on strike 「ストライキ中で」
- track 「プラットホーム」
- miss O 「Oをのがす」

(7)

(放送された英文)

- You're wanted on the phone. 「あなたに電話です」

(選択肢)

- right now 「ちょうど今」
- You have the wrong number. 「番号をお間違えです」
- call back 「折り返し電話をする」
- Would you like to leave a message? 「伝言を承りましょうか」

(8)

(放送された英文)

- leave for A 「Aに出発する」
- on business 「仕事で / 商用で」

(選択肢)

- state 「州」
- get back 「戻る」

(9)

(放送された英文)

- be in hospital 「入院している」

(選択肢)

- in fact 「実は」

(10)

(放送された英文)

- high blood pressure 「高血圧」
- cause O 「Oを引き起こす」
- disease 「病気」
- inherit O 「Oを遺伝的に受け継いでいる」
- partly 「一部分は / 一つには」
- habit 「習慣」
- avoid O 「Oを避ける / Oを控える」
- lack 「不足」
- take O in / take in O 「Oを摂取する」
- and so on 「…など」

(選択肢)

- improve O 「Oを改善する」
- lifestyle 「生活習慣」

【設問別解説】

(1)

読み上げられた英文 Would it be all right if I asked you for a lift? 「車に同乗させてもらってもいいですか」より、発言者が車に乗せてもらうことを相手に依頼している状況であることを理解する。(a) Certainly. 「もちろん」なら、この状況における応答として適切。したがって、正解は(a)である。

(2)

読み上げられた英文の you should take the subway 「地下鉄に乗るべきだ」を聞き取り、続いて There is a lot of traffic on the roads. 「道が混んでいるから」とその理由が述べられているという内容を理解する。(a) I'll give up going by car. 「車で行くのはやめるわ」なら、伝えられた情報に対する応答として適切。したがって、正解は(a)である。

(b) Is there any rent-a-car service around here? 「このあたりにレンタカーを借りられるところはありますか」、(c) Which is faster, a bus or a taxi? 「バスとタクシーとどちらが速いかな」、(d) Why should I take the subway? 「なぜ地下鉄に乗るべきなの」は、いずれも「道が混んでいる」というすでに伝えられた情報に対する質問としては不適切。

(3)

読み上げられた英文の How long are you go-

ing to be here in Los Angeles? 「ここロサンゼルスにはどれくらい滞在する予定なの」では、How long ...? は、「どれくらいの期間…か」という意味となり、また are you going to とあることから、ユミのロサンゼルスでの今後の滞在予定を尋ねている内容であることを理解する。(d) Until the 16th of August. 「8月16日までよ」なら、この状況における応答として適切。したがって、正解は(d)である。

(a) About a week ago. 「約1週間前よ」、(b) For the past two weeks. 「この2週間よ」、(c) Since last Friday. 「先週の金曜日からよ」は、いずれも今後の内容ではないので不適切。

(4)

読み上げられた英文の I'm so nervous about the job interview tomorrow. 「明日の就職の面接のことでとても緊張しているんだ」を聞き取り、発言者の心境を理解する。(c) Just take it easy. 「落ち着いてね」なら、この状況における応答として適切。したがって、正解は(c)である。

(a) Don't mention it. 「どういたしまして」、(b) Give them my best regards. 「彼らによろしく伝えてね」、(d) Never mind. 「気にしないで」は、いずれも「緊張している」という発言に対する応答としては不適切。

(5)

読み上げられた英文の you shouldn't draw pictures on the walls 「壁に絵を描いてはダメだ」と、それに続く Never do that again! 「二度としちゃダメよ」を聞き取り、子どもが母親に叱られているという状況を理解する。(b) Sorry, Mom. I'll only draw in my sketch book. 「ごめんね、ママ。これからはスケッチブックだけに描くから」なら、この状況における応答として適切。したがって、正解は(b)である。

(c)では読み上げられた英文に出てくる wall と音が類似した wolf という言葉が使われているが、I can't draw pictures of a wolf. 「オオカミの絵は描けないよ」は、応答として不自然。また、(a)は読み上げ文に含まれている draw が用いられているが、この状況における応答としては不適切。

(6)

読み上げられた英文の How many stops away is ...? は、「…は何駅目ですか」という意味で、今いる駅から目的地となる駅が何駅目であるかが尋ねられているという状況を理解する。(b) You get off at the third station. 「3つ目の駅で降りてください」なら、この状況における応答として適切。したがって、正解は(b)である。

文脈を考えずに、読み上げられた英文の How many から、(a) Two railroad companies are on strike. と答えてはいけない。また、(c)には読み上げ文に関連する Track No. 3 「3番ホーム」が、同様に(d)には stop 「駅」という言葉が含まれているが、いずれもこの状況における応答としては不適切。

(7)

読み上げられた英文の you are wanted on the phone 「あなたに電話よ」を聞き取り、スージーに電話を取り次ごうとしている状況を理解する。(c) Oh, just tell him I'll call back later. 「そう、後でかけ直すって伝えて」なら、この状況における応答として適切。したがって、正解は(c)である。

(b) I'm afraid you have the wrong number. 「番号をお間違えだと思えます」、(d) Would you like to leave a message? 「伝言を承りましょうか」は、どちらも電話をかけてきた相手に対して用いる表現であり、電話を取り次ごうとしている相手に対して用いる表現としては不適切。

(8)

読み上げられた英文の leave for Fresno, California 「カリフォルニア州フレスノに向かう」、on business 「商用で」、next Friday 「来週の金曜日」を聞き取り、「どこに」、「なぜ」、「いつ」に関する情報が述べられていることを理解する。(b) When are you going to get back? 「いつ戻ってくる予定なの」なら、相手の発言では伝えられていない情報に対しての質問となり適切。したがって正解は(b)である。

(a) In what state is the city? 「その町はどの州にあるの」、(d) Why are you going there? 「なぜそこに行くの」、(c) When are you leaving? 「いつ出発するの」は、それぞれすでに述べられた情報に対する質問となり不適切。

(9)

読み上げられた英文の John broke his leg 「ジョンが足を骨折した」を聞き取り、続く is in hospital now 「今、入院中だ」と合わせて、発言者がジョンの近況を伝えようとしているという状況を理解する。(c) I know. I visited him yesterday. 「知っているよ。昨日彼のところにお見舞いに行ったんだ」なら、この状況における応答として適切。したがって、正解は(c)である。

(a)、(d)には読み上げ文に出てくる skiing が、また(b)には同様に hospital という言葉が含まれているが、いずれも伝えられた情報に対する応答としては不適切。

(10)

読み上げられた英文の High blood pressure can cause many diseases. 「高血圧は多くの病気を引き起こす可能性がある」、may be inherited from your parents 「親からの遺伝によることもある」、partly because of your habits 「一つにはあなたの習慣による」、should avoid smoking, lack of sleep, taking in too much salt 「喫煙、睡眠不足、塩分の摂り過ぎを控えるべき」といった表現を聞き取り、まず高血圧の危険性と原因について述べられ、次に高血圧の改善策が説明されているという内容を理解する。(b) I understand. I'll improve my lifestyle. 「わかりました。生活習慣を改善します」なら、高血圧の説明に対する応答として適切。したがって、正解は(b)である。

(a)には読み上げ文に関連する slept が、(c)には読み上げ文に関連する habits, inherited from, parents が出てくるが、どちらも高血圧の説明に対する応答としては不適切。また、(d)の Thank you for your advice. 「アドバイスをありがとうございます」は、高血圧の改善策を教えてもらったことに対する応答としては適切ではあるが、続く I'll ask my parents. 「親に尋ねてみます」が、伝えられた内容に対する応答として不適切。

模試を受験された後の学習のために、自宅で「オーラル・コミュニケーション」の音声を聴くことができます。以下の Kei-Net ホームページをご参照ください。

<http://www.keinet.ne.jp/web/taisaku/listen/>

※お聴きいただくには、Kei-Net 会員の登録(無料)が必要です。

【数 学】

解答の理解に役立つように、

右欄に

枠囲み … 解答で用いた公式、
◆ … 解答を読む上で参考になる式、考え方、式の変形、図

解答の途中に

道しるべ … 解法の糸口

を載せています。

さらに、

ポイントチェック … 復習して、理解したことを定着させるための練習問題

があります。

1 【数学 I ・ A 小問集合】

次の にあてはまる数，または式を求めよ。

- (1) $x = \sqrt{2} + 1$ のとき，

$$x^2 + \frac{1}{x^2} = \text{$$

である。

- (2) 方程式

$$1 - 3x = |x - 2|$$

の解は，

$$x = \text{$$

である。

- (3) 不等式

$$2x^2 - 3x - 1 < 0$$

の解は，

$$\text{$$

である。

- (4) $\sin \theta - \cos \theta = \frac{1}{3}$ のとき，

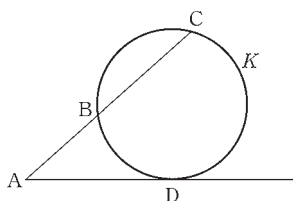
$$\sin \theta \cos \theta = \text{$$

である。

- (5) 次の図において $AB = 4$ ， $AD = 6$ のとき，線分 BC の長さは，



である。ただし、直線 AD は円 K の接線であり、D は接点である。



- (6) O を原点とする数直線上に動点 P がある。P は、サイコロを 1 回振って 4 以下の目が出たときには正の方向に 1、5 以上の目が出たときには負の方向に 2 進むものとする。ただし、P は、はじめ O にあるものとする。

サイコロを 4 回続けて振るとき、P の座標が正である確率は、



である。

● ● ● 配点 (30点) ● ● ●

- (1) 5 点 (2) 5 点 (3) 5 点 (4) 5 点 (5) 5 点 (6) 5 点

● ● ● 問題のレベル ● ● ●

(1) から (6) まで、すべて基本。

解 答

(1)	6	(2)	$-\frac{1}{2}$	(3)	$\frac{3-\sqrt{17}}{4} < x < \frac{3+\sqrt{17}}{4}$
(4)	$\frac{4}{9}$	(5)	5	(6)	$\frac{16}{27}$

- (1) $x = \sqrt{2} + 1$ のとき、

$$\begin{aligned}
 x^2 &= (\sqrt{2} + 1)^2 \\
 &= 3 + 2\sqrt{2}. \\
 \frac{1}{x^2} &= \frac{1}{3 + 2\sqrt{2}} \\
 &= \frac{3 - 2\sqrt{2}}{(3 + 2\sqrt{2})(3 - 2\sqrt{2})} \\
 &= \frac{3 - 2\sqrt{2}}{9 - 8} \\
 &= 3 - 2\sqrt{2}.
 \end{aligned}$$

よって、

$$x^2 + \frac{1}{x^2} = (3 + 2\sqrt{2}) + (3 - 2\sqrt{2})$$

$$= 6.$$

…(答)

【(1) の別解】

$$\frac{1}{x} = \frac{1}{\sqrt{2} + 1}$$

$$= \frac{\sqrt{2} - 1}{(\sqrt{2} + 1)(\sqrt{2} - 1)}$$

$$= \frac{\sqrt{2} - 1}{2 - 1}$$

$$= \sqrt{2} - 1.$$

$$\begin{aligned} x^2 + \frac{1}{x^2} &= \left(x + \frac{1}{x}\right)^2 - 2x \cdot \frac{1}{x} \\ &= \{(\sqrt{2} + 1) + (\sqrt{2} - 1)\}^2 - 2 \\ &= (2\sqrt{2})^2 - 2 \\ &= 6. \end{aligned}$$

((1) の別解終り)

$$(2) \quad 1 - 3x = |x - 2|.$$

(ア) $x - 2 \geq 0$, すなわち $x \geq 2$ のとき,

$$1 - 3x = x - 2.$$

$$-4x = -3.$$

$$x = \frac{3}{4}.$$

($x \geq 2$ を満たさない.)

(イ) $x - 2 < 0$, すなわち $x < 2$ のとき,

$$1 - 3x = -(x - 2).$$

$$-2x = 1.$$

$$x = -\frac{1}{2}.$$

($x < 2$ を満たす.)

(ア), (イ) より, 求める解は,

$$x = -\frac{1}{2}.$$

…(答)

(3) $2x^2 - 3x - 1 = 0$ を解くと,

$$\begin{aligned} x &= \frac{-(-3) \pm \sqrt{(-3)^2 - 4 \cdot 2 \cdot (-1)}}{2 \cdot 2} \\ &= \frac{3 \pm \sqrt{17}}{4}. \end{aligned}$$

よって, $2x^2 - 3x - 1 < 0$ の解は,

$$\frac{3 - \sqrt{17}}{4} < x < \frac{3 + \sqrt{17}}{4}.$$

…(答)

$$\blacklozenge \quad a^2 + b^2 = (a + b)^2 - 2ab.$$

◆ $X \geq 0$ のとき,

$$|X| = X.$$

$X < 0$ のとき,

$$|X| = -X.$$

—— 2 次方程式の解の公式 ——

2 次方程式 $ax^2 + bx + c = 0$

(a, b, c は実数の定数)

の解は,

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}.$$

◆ $ax^2 + bx + c = 0$ ($a > 0$)

の 2 解を α, β ($\alpha < \beta$) とするとき,

2 次不等式

$$ax^2 + bx + c < 0$$

の解は,

$$\alpha < x < \beta.$$

$$(4) \quad \sin \theta - \cos \theta = \frac{1}{3}.$$

両辺を2乗すると,

$$(\sin \theta - \cos \theta)^2 = \left(\frac{1}{3}\right)^2.$$

$$\sin^2 \theta - 2 \sin \theta \cos \theta + \cos^2 \theta = \frac{1}{9}.$$

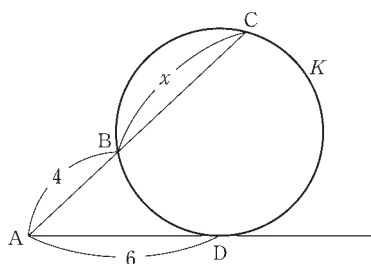
$$1 - 2 \sin \theta \cos \theta = \frac{1}{9}.$$

$$-2 \sin \theta \cos \theta = -\frac{8}{9}.$$

よって,

$$\sin \theta \cos \theta = \frac{4}{9}. \quad \dots(\text{答})$$

(5)



$BC = x$ とする.

方べきの定理より,

$$AB \cdot AC = AD^2.$$

$AB = 4$, $AC = 4 + x$, $AD = 6$ より,

$$4(4 + x) = 6^2.$$

$$16 + 4x = 36.$$

$$x = 5.$$

よって,

$$BC = 5. \quad \dots(\text{答})$$

(6) サイコロを1回振るとき, 4以下の目が出る確率は $\frac{4}{6} = \frac{2}{3}$,

5以上の目が出る確率は $\frac{2}{6} = \frac{1}{3}$ である.

サイコロを4回振って4以下の目が r 回 ($0 \leq r \leq 4$) 出るとする. このとき, 5以上の目は $4 - r$ 回出て, 数直線上における P の座標は,

$$1 \cdot r + (-2) \cdot (4 - r) = 3r - 8$$

となる. これが正になるとき,

$$3r - 8 > 0.$$

$$r > \frac{8}{3}.$$

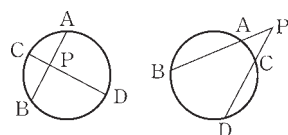
◆ $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1.$

方べきの定理

円の2つの弦 AB , CD の交点, または, それらの延長の交点を P とするとき,

$$PA \cdot PB = PC \cdot PD$$

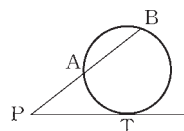
が成り立つ.



また, 円の外部の点 P から円に引いた接線の接点を T とする. P を通ってこの円と2点 A , B で交わる直線を引くと,

$$PA \cdot PB = PT^2$$

が成り立つ.



$0 \leq r \leq 4$ より,

$$\frac{8}{3} < r \leq 4.$$

r は整数であるから,

$$r = 3, 4.$$

よって, サイコロを続けて 4 回振るとき 4 以下の目がちょうど 3 回, またはちょうど 4 回出る確率を求めて,

$$\begin{aligned} {}_4C_3 \left(\frac{2}{3}\right)^3 \left(\frac{1}{3}\right)^1 + \left(\frac{2}{3}\right)^4 &= 4 \cdot \frac{2^3}{3^4} + \frac{2^4}{3^4} \\ &= \frac{32+16}{81} \\ &= \frac{16}{27}. \end{aligned}$$

…(答)

反復試行の確率

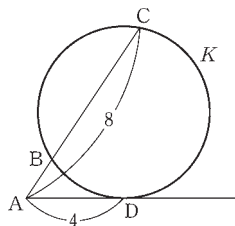
事象 A の起こる確率が p である
試行を n 回繰り返すとき, A が
ちょうど r 回起こる確率は,

$${}_nC_rp^rq^{n-r} \quad (q=1-p)$$

である.

ポイントチェック

- (1) $x = \sqrt{3} + \sqrt{2}$ のとき, $x^2 + \frac{1}{x^2}$ の値を求めよ.
- (2) 方程式 $|x-1| = 2x+3$ の解を求めよ.
- (3) 不等式 $3x^2 - x - 1 < 0$ の解を求めよ.
- (4) $\sin \theta - \cos \theta = \frac{1}{2}$ のとき, $\sin \theta \cos \theta$ の値を求めよ.
- (5) 次の図において, 線分 AB の長さを求めよ. ただし, 直線 AD は円 K の接線であり, D は接点である.



- (6) O を原点とする数直線上に動点 P がある. P は, サイコロを 1 回振って 2 以下の目が出たときには正の方向に 1, 3 以上の目が出たときには負の方向に 1 進むものとする. ただし, P は, はじめ O にあるものとする. サイコロを 3 回続けて振るとき, P の座標が負である確率を求めよ.

(答)

(1) 10.

(2) $x = -\frac{2}{3}$.

(3) $\frac{1-\sqrt{13}}{6} < x < \frac{1+\sqrt{13}}{6}$.

(4) $\frac{3}{8}$.

(5) 2.

(6) $\frac{20}{27}$.

2 【数学 I 2 次関数 / 数学 A 場合の数】

[1] 2 次関数

$$f(x)=x^2-4x+5$$

がある.

- (1) $y=f(x)$ のグラフの頂点の座標を求めよ.
- (2) $0\leq x\leq 3$ における $f(x)$ の最大値と最小値, およびそのときの x の値を求めよ.
- (3) $a>0$ とする. $0\leq x\leq a$ における $f(x)$ の最大値を M , 最小値を m とするとき, $Mm=10$ となるような a の値を求めよ.

[2] F, O, O, T, B, A, L, L の 8 文字を横一列に並べて文字列を作る.

- (1) 文字列全部の個数を求めよ.
- (2) 両端が同じ文字である文字列の個数を求めよ.
- (3) 同じ文字が隣り合わない文字列の個数を求めよ.

● ● ● 配点 (70点 [1] 35点 [2] 35点) ● ● ●

[1] (1) 5点 (2) 10点 (3) 20点 [2] (1) 7点 (2) 10点 (3) 18点

● ● ● 問題のレベル ● ● ●

[1] (1) 基本 (2) 標準 (3) 応用 [2] (1) 基本 (2) 標準 (3) 応用

解 答

[1]

$$\begin{aligned} (1) \quad f(x) &= x^2 - 4x + 5 \\ &= (x-2)^2 + 1. \end{aligned}$$

よって, $y=f(x)$ のグラフの頂点の座標は,

(2, 1).

…(答)

$$(2) \quad f(x) = (x-2)^2 + 1$$

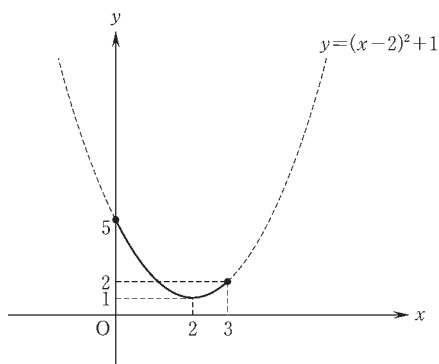
より, $0\leq x\leq 3$ における $y=f(x)$ のグラフは次の図のようになる.

◆ 2 次関数

$$y=a(x-p)^2+q$$

のグラフの頂点の座標は,

(p , q).



よって、 $0 \leq x \leq 3$ における $f(x)$ の

最大値は 5 ($x=0$ のとき),

最小値は 1 ($x=2$ のとき).

…(答)

(3)

道するべ

a の値の範囲で場合分けをして、最大値 M 、最小値 m を求める.

$$f(x) = (x-2)^2 + 1.$$

$y=f(x)$ のグラフは直線 $x=2$ に関して対称であり、

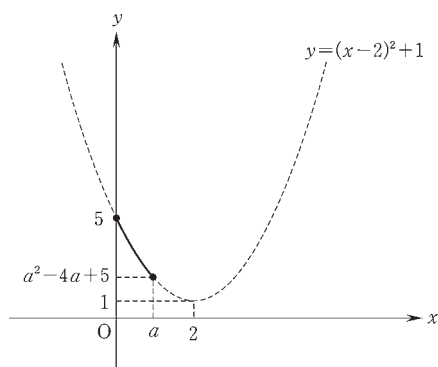
$$f(0)=f(4)=5$$

であるから、 M と m について、

(ア) $0 < a < 2$, (イ) $2 \leq a < 4$, (ウ) $4 \leq a$

と 3 つの場合に分けて考える.

(ア) $0 < a < 2$ のとき、

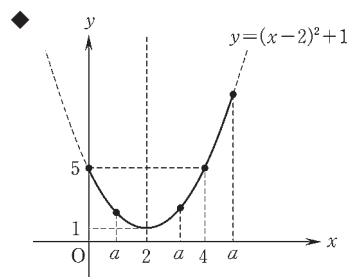


グラフより、

$$M = f(0) = 5,$$

$$m = f(a) = a^2 - 4a + 5.$$

したがって、



◆ (ア) は $0 \leq x \leq a$ に $x=2$ が含まれないとき.

$$Mm=5(a^2-4a+5).$$

$Mm=10$ より,

$$5(a^2-4a+5)=10.$$

$$a^2-4a+3=0.$$

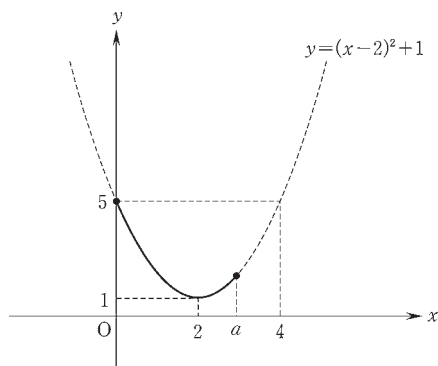
$$(a-1)(a-3)=0.$$

$$a=1, 3.$$

$0 < a < 2$ より,

$$a=1.$$

(i) $2 \leq a < 4$ のとき,



グラフより,

$$M=f(0)=5,$$

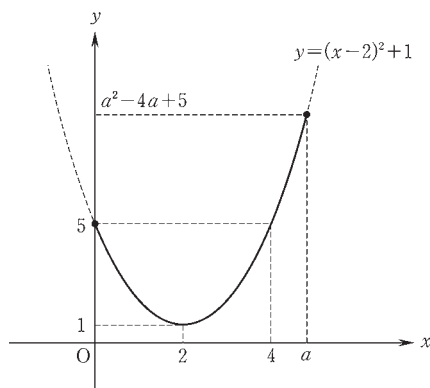
$$m=f(2)=1.$$

したがって,

$$Mm=5 \cdot 1=5.$$

よって, $Mm=10$ となる a は存在しない.

(v) $4 \leq a$ のとき,



グラフより,

$$M=f(a)=a^2-4a+5,$$

$$m=f(2)=1.$$

したがって,

$$Mm=a^2-4a+5.$$

◆ (i) は $0 \leq x \leq a$ に $x=2$ は含まれるが, $x=4$ は含まれないとき.

◆ (v) は $0 \leq x \leq a$ に $x=4$ が含まれるとき.

$Mm=10$ より,

$$a^2-4a+5=10.$$

$$a^2-4a-5=0.$$

$$(a+1)(a-5)=0.$$

$$a=-1, 5.$$

$4 \leq a$ より,

$$a=5.$$

以上 (ア), (イ), (ウ) より, 求める a の値は,

$$a=1, 5. \quad \dots(\text{答})$$

[2]

- (1) 8 個の文字 F, O, O, T, B, A, L, L は, O, L をそれぞれ 2 個ずつ, F, T, B, A をそれぞれ 1 個ずつ含む.

したがって, これらを並べてできる文字列全部の個数は

$$\frac{8!}{2!2!}=10080. \quad \dots(\text{答})$$

- (2) 両端が同じ文字である文字列には, 次の 2 つの場合がある.

(ア) 両端が O である,

(イ) 両端が L である.

(ア) のとき,

文字列の個数は, O と O の間に残りの 6 個の文字 L, L, F, T, B, A を並べる並べ方の総数に等しく,

$$\frac{6!}{2!}=360.$$

(イ) のとき,

文字列の個数は, L と L の間に残りの 6 個の文字 O, O, F, T, B, A を並べる並べ方の総数に等しく,

$$\frac{6!}{2!}=360.$$

以上 (ア), (イ) より, 両端が同じ文字である文字列の個数は,

$$360+360=720. \quad \dots(\text{答})$$

(3)

道しるべ

求める文字列の個数は,

$$\left(\begin{array}{l} \text{文字列全部} \\ \text{の個数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{l} \text{同じ文字が少なくとも 1 組} \\ \text{隣り合う文字列の個数} \end{array} \right)$$

である.

O と O が隣り合う文字列の集合を P ,

L と L が隣り合う文字列の集合を Q

とする. 集合 X の要素の個数を $n(X)$ と表すと, 同じ文字が少

— 同じものを含む順列 —

n 個のもののうち, p 個は同じものの, q 個は別の同じもの, r 個はまた別の同じもの, \dots であるとき, これら n 個のものを一列に並べてできる順列の総数は,

$$\frac{n!}{p!q!r!\dots} \quad (p+q+r+\dots=n).$$

◆ $O \square \square \square \square \square O$
L, L, F, T, B, A を並べる

◆ $L \square \square \square \square \square L$
O, O, F, T, B, A を並べる

なくとも 1 組隣り合う文字列の個数は $n(P \cup Q)$ である。

ここで $n(P)$ は、 \boxed{OO} を 1 文字とみて、7 個の文字 L, L, \boxed{OO} , F, T, B, A を並べる並べ方の個数に等しく、

$$n(P) = \frac{7!}{2!} = 2520.$$

また $n(Q)$ は、 \boxed{LL} を 1 文字とみて、7 個の文字 O, O, \boxed{LL} , F, T, B, A を並べる並べ方の個数に等しく、

$$n(Q) = \frac{7!}{2!} = 2520.$$

一方、 $n(P \cap Q)$ 、すなわち、O と O, L と L がいずれも隣り合う文字列の個数は、 \boxed{OO} , \boxed{LL} をそれぞれ 1 文字とみて、6 個の文字 \boxed{OO} , \boxed{LL} , F, T, B, A を並べる並べ方の個数に等しく、

$$n(P \cap Q) = 6! = 720.$$

以上より、同じ文字が少なくとも 1 組隣り合う文字列の個数は、

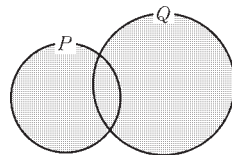
$$\begin{aligned} n(P \cup Q) &= n(P) + n(Q) - n(P \cap Q) \\ &= 2520 + 2520 - 720 \\ &= 4320. \end{aligned}$$

よって、同じ文字が隣り合わない文字列の個数は、(1) の結果を用いて、

$$10080 - 4320 = \mathbf{5760}. \quad \cdots (\text{答})$$

和集合の要素の個数

和集合 $P \cup Q$ の要素の個数は、
 $n(P \cup Q) = n(P) + n(Q) - n(P \cap Q)$.



ポイントチェック

[1] 2 次関数

$$f(x) = x^2 - 2x + 3$$

がある。

(1) $y = f(x)$ のグラフの頂点の座標を求めよ。

(2) $0 \leq x \leq 3$ における $f(x)$ の最大値と最小値、およびそのときの x の値を求めよ。

[2] G, E, N, U, I, N, E の 7 文字を横一列に並べて文字列を作る。

(1) 文字列全部の個数を求めよ。

(2) 両端が同じ文字である文字列の個数を求めよ。

(答)

[1]

(1) (1, 2).

(2) 最大値 6 ($x=3$ のとき),
 最小値 2 ($x=1$ のとき).

[2]

(1) 1260.

(2) 120.

③ 【数学 I・A 図形と計量】

平面上に三角形 ABC があり、 $AB=3$, $BC=\sqrt{7}$, $CA=2$ である。辺 BC を直径とする円と辺 AB, CA の交点をそれぞれ D, E とする。

- (1) $\angle CAB=\theta$ とするとき、 $\cos \theta$ の値と三角形 ABC の面積を求めよ。
- (2) 線分 AD の長さと四角形 BCED の面積を求めよ。
- (3) 三角形 ABC を線分 DE を折り目として折り、四角形 BCED と三角形 ADE が垂直となるようにする。このとき四角錐 ABCED の体積を求めよ。

● ● ● 配点 (50点) ● ● ●

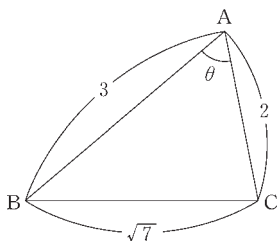
- (1) 15点 (2) 15点 (3) 20点

● ● ● 問題のレベル ● ● ●

- (1) 基本 (2) 応用 (3) 発展

解 答

(1)



三角形 ABC において、余弦定理より、

$$\begin{aligned}\cos \theta &= \frac{AB^2 + CA^2 - BC^2}{2AB \cdot CA} \\ &= \frac{3^2 + 2^2 - (\sqrt{7})^2}{2 \cdot 3 \cdot 2} \\ &= \frac{1}{2}.\end{aligned}$$

このとき、 $0^\circ < \theta < 180^\circ$ より、 $\theta = 60^\circ$ 。

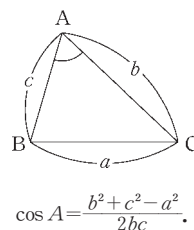
よって、三角形 ABC の面積は、

$$\begin{aligned}\triangle ABC &= \frac{1}{2} AB \cdot CA \sin 60^\circ \\ &= \frac{1}{2} \cdot 3 \cdot 2 \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \\ &= \frac{3\sqrt{3}}{2}.\end{aligned}$$

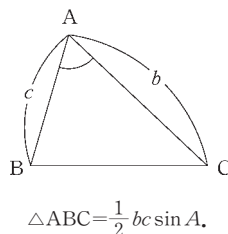
…(答)

…(答)

余弦定理



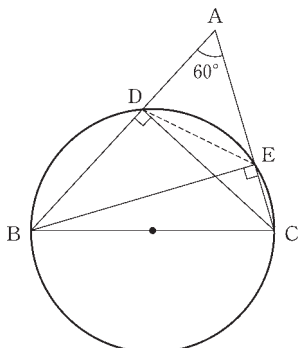
三角形の面積



(2)

道しるべ

円の直径に対する円周角が 90° であることに着目する。



$\angle BDC$ と $\angle BEC$ は直径 BC に対する円周角であるから、
 $\angle BDC = \angle BEC = 90^\circ$

である。

よって、直角三角形 CAD において、

$$\frac{AD}{CA} = \cos 60^\circ$$

より、

$$\begin{aligned} AD &= CA \cos 60^\circ \\ &= 2 \cdot \frac{1}{2} \\ &= 1. \end{aligned}$$

…(答)

また、直角三角形 EAB において、

$$\frac{EA}{AB} = \cos 60^\circ$$

より、

$$\begin{aligned} EA &= AB \cos 60^\circ \\ &= 3 \cdot \frac{1}{2} \\ &= \frac{3}{2}. \end{aligned}$$

これより三角形 ADE の面積は、

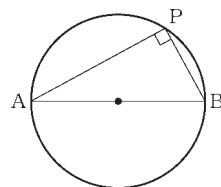
$$\begin{aligned} \triangle ADE &= \frac{1}{2} AD \cdot EA \sin 60^\circ \\ &= \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \frac{3}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \\ &= \frac{3\sqrt{3}}{8}. \end{aligned}$$

よって、四角形 $BCED$ の面積を S とすると、

直径と円周角

線分 AB を直径とする円周上に 2 点 A, B と異なる点 P をとるとき、

$$\angle APB = 90^\circ.$$



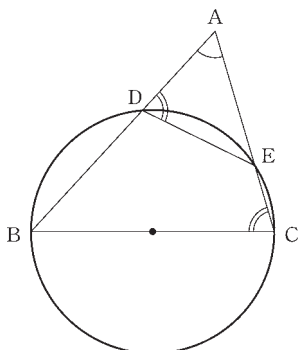
$$S = \triangle ABC - \triangle ADE$$

$$= \frac{3\sqrt{3}}{2} - \frac{3\sqrt{3}}{8}$$

$$= \frac{9\sqrt{3}}{8}.$$

…(答)

【(2) 三角形 ADE の面積を求める部分の別解】



三角形 ADE と三角形 ACB において、

$$\begin{cases} \angle EAD = \angle BAC, \\ \angle ADE = \angle ACB. \end{cases}$$

よって、2 角が等しいから、

$$\triangle ADE \sim \triangle ACB$$

であり、相似比は、

$$AD : AC = 1 : 2.$$

したがって、三角形 ADE と三角形 ACB の面積比は、

$$\triangle ADE : \triangle ACB = 1^2 : 2^2 = 1 : 4$$

であるから、

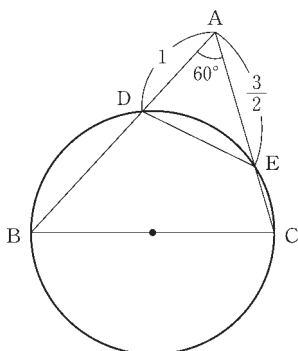
$$\triangle ADE = \frac{1}{4} \triangle ACB$$

$$= \frac{1}{4} \cdot \frac{3\sqrt{3}}{2}$$

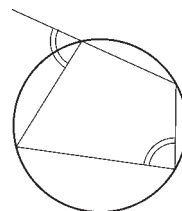
$$= \frac{3\sqrt{3}}{8}.$$

((2) 三角形 ADE の面積を求める部分の別解終り)

(3)



◆ 円に内接する四角形において、外角は隣り合う内角の対角に等しい。



◆ 相似比が $m : n$ である相似な平面図形の面積比は、

$$m^2 : n^2$$

である。

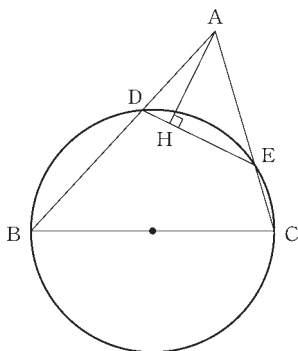
◆ $\triangle ACB = \triangle ABC = \frac{3\sqrt{3}}{2}.$

三角形 ADE において、余弦定理より、

$$\begin{aligned} DE^2 &= AD^2 + EA^2 - 2AD \cdot EA \cos 60^\circ \\ &= 1^2 + \left(\frac{3}{2}\right)^2 - 2 \cdot 1 \cdot \frac{3}{2} \cdot \frac{1}{2} \\ &= \frac{7}{4}. \end{aligned}$$

DE > 0 より、

$$DE = \frac{\sqrt{7}}{2}.$$



A から線分 DE に下ろした垂線と線分 DE の交点を H とすると、三角形 ADE の面積について、

$$\triangle ADE = \frac{1}{2} DE \cdot AH.$$

よって、(2) の $\triangle ADE = \frac{3\sqrt{3}}{8}$ より、

$$\frac{3\sqrt{3}}{8} = \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{7}}{2} AH.$$

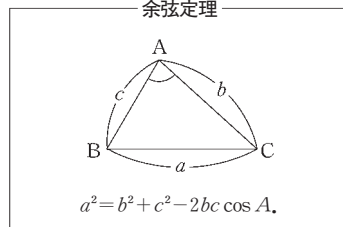
$$\begin{aligned} AH &= \frac{3\sqrt{3}}{8} \cdot \frac{4}{\sqrt{7}} \\ &= \frac{3\sqrt{21}}{14}. \end{aligned}$$

四角錐 ABCED について、四角形 BCED を底面、AH を高さと考えてよいので、四角錐 ABCED の体積を V とおくと、

$$\begin{aligned} V &= \frac{1}{3} S \cdot AH \\ &= \frac{1}{3} \cdot \frac{9\sqrt{3}}{8} \cdot \frac{3\sqrt{21}}{14} \\ &= \frac{27\sqrt{7}}{112}. \end{aligned}$$

…(答)

余弦定理



◆ $AD=1, EA=\frac{3}{2},$

$\angle EAD = \angle CAB = 60^\circ.$

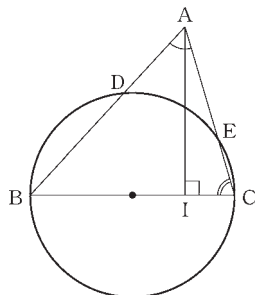
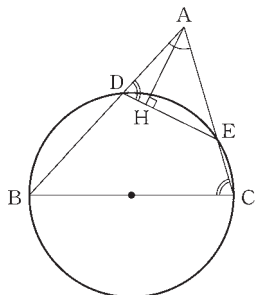
◆ 四角錐の体積は、

$$\frac{1}{3} \times (\text{底面積}) \times (\text{高さ}).$$

◆ (2) の結果より、

$$\begin{aligned} S &= (\text{四角形 BCED の面積}) \\ &= \frac{9\sqrt{3}}{8}. \end{aligned}$$

【(3) AH の長さを求める部分の別解】



A から線分 BC に下ろした垂線と線分 BC の交点を I とすると、
三角形 ABC の面積について、

$$\triangle ABC = \frac{1}{2} BC \cdot AI.$$

これより、

$$\frac{3\sqrt{3}}{2} = \frac{1}{2} \cdot \sqrt{7} AI.$$

$$AI = \frac{3\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{2}{\sqrt{7}}$$

$$= \frac{3\sqrt{21}}{7}.$$

また、 $\triangle ADE \sim \triangle ACB$ であり、その相似比は 1 : 2 であるから、

$$AH : AI = 1 : 2.$$

よって、

$$AH = \frac{1}{2} AI$$

$$= \frac{1}{2} \cdot \frac{3\sqrt{21}}{7}$$

$$= \frac{3\sqrt{21}}{14}.$$

((3) AH の長さを求める部分の別解終り)

◆ $\triangle ABC = \frac{3\sqrt{3}}{2}.$

◆ $\begin{cases} \angle EAD = \angle BAC, \\ \angle ADE = \angle ACB \end{cases}$

より、

$$\triangle ADE \sim \triangle ACB.$$

相似比は

$$AD : AC = 1 : 2.$$

ポイントチェック

平面上に三角形 ABC があり、 $AB=8$, $BC=7$, $CA=5$ である。
辺 BC を直径とする円と辺 AB, CA の交点をそれぞれ D, E とする。

(1) $\angle CAB = \theta$ とするとき、 $\cos \theta$ の値と三角形 ABC の面積を求めよ。

(2) 線分 AD の長さと三角形 ADE の面積を求めよ。

(答)

(1) $\cos \theta = \frac{1}{2},$

$$\triangle ABC = 10\sqrt{3}.$$

(2) $AD = \frac{5}{2},$

$$\triangle ADE = \frac{5\sqrt{3}}{2}.$$

4 【数学Ⅱ 式と証明・高次方程式】

x の整式 $f(x)=x^3+ax^2+bx+c$ がある。ただし、 a, b, c は実数の定数とする。

- (1) $f(x)$ を $x+1$ で割ったときの商と余りを求めよ。
- (2) (1) で求めた商を $g(x)$ とする。 $f(x)$ を $x+1$ で割ったときの余りが -3 、 $g(x)$ を $x-2$ で割ったときの余りが 3 であるとき、 b, c を a を用いて表せ。
- (3) $f(x)$ は (2) の条件を満たし、さらに、3 次方程式 $f(x)=0$ は純虚数を解にもつ。このとき、 a, b, c の値を求めよ。ただし、純虚数とは pi (p は実数、 $p \neq 0$) と表される複素数である。

● ● ● 配点 (50点) ● ● ●

(1) 12点 (2) 13点 (3) 25点

● ● ● 問題のレベル ● ● ●

(1) 基本 (2) 応用 (3) 発展

解 答

- (1) $f(x)$ を $x+1$ で割ると次のようになる。

$$\begin{array}{r}
 x^2+(a-1)x+(-a+b+1) \\
 x+1 \overline{) \begin{array}{r} x^3 \\ x^3 \\ \hline (a-1)x^2 \\ (a-1)x^2 \\ \hline (-a+b+1)x \\ (-a+b+1)x+(-a+b+1) \\ \hline a-b+c-1 \end{array} }
 \end{array}$$

したがって、 $f(x)$ を $x+1$ で割ったときの

商は、 $x^2+(a-1)x+(-a+b+1)$ 、

余りは、 $a-b+c-1$. …(答)

- (2) (1) の結果より、 $f(x)$ を $x+1$ で割った余りが -3 のとき、

$$a-b+c-1=-3. \quad \cdots \textcircled{1}$$

また、(1) の結果より、

$$g(x)=x^2+(a-1)x+(-a+b+1)$$

であり、 $g(x)$ を $x-2$ で割ったときの余りが 3 のとき、剰余の定理より、 $g(2)=3$ である。

$$\begin{aligned}
 g(2) &= 2^2+(a-1) \cdot 2+(-a+b+1) \\
 &= a+b+3
 \end{aligned}$$

であるから、 $g(2)=3$ より、

—剰余の定理—

整式 $P(x)$ を $x-a$ で割ったときの余りは、

$$P(a).$$

$$a+b+3=3. \quad \dots \textcircled{2}$$

したがって、①、②より、

$$\begin{cases} a-b+c=-2, \\ a+b=0. \end{cases} \quad \dots \textcircled{3}$$

$$\dots \textcircled{4}$$

④より、

$$b=-a.$$

これを③に代入して、

$$a-(-a)+c=-2.$$

$$c=-2a-2.$$

以上より、

$$b=-a, \quad c=-2a-2. \quad \dots (\text{答})$$

(3)

道しるべ

$f(x)=0$ に $x=pi$ を代入した等式を

$$A+Bi=0 \quad (A, B \text{ は実数})$$

の形に整理する.

(2)の結果より、

$$f(x)=x^3+ax^2-ax+(-2a-2).$$

3次方程式 $f(x)=0$ が純虚数 pi (p は実数, $p \neq 0$) を解にもつとき、 $f(pi)=0$ である.

$$f(pi)=(pi)^3+a(pi)^2-a(pi)+(-2a-2)$$

$$=p^3i^2 \cdot i + ap^2i^2 - api - 2a - 2$$

$$=p^3(-1)i + ap^2(-1) - api - 2a - 2$$

$$=-p^3i - ap^2 - api - 2a - 2$$

$$=-(ap^2+2a+2)-(p^3+ap)i$$

であるから、 $f(pi)=0$ より、

$$-(ap^2+2a+2)-(p^3+ap)i=0.$$

$$(ap^2+2a+2)+(p^3+ap)i=0.$$

a, p は実数より、 ap^2+2a+2 , p^3+ap はいずれも実数であるから、

$$\begin{cases} ap^2+2a+2=0, \\ p^3+ap=0. \end{cases} \quad \dots \textcircled{5}$$

$$\dots \textcircled{6}$$

⑥より、

$$p(p^2+a)=0.$$

$p \neq 0$ であるから、

$$p^2=-a. \quad \dots \textcircled{7}$$

ここで、 p は実数 ($p \neq 0$) より、 $p^2 > 0$ であるから、

$$-a > 0,$$

すなわち、

$$a < 0.$$

$$i^2 = -1.$$

◆ a, b を実数、 i を虚数単位とすると
き、

$$a+bi=0 \iff a=b=0$$

が成り立つ.

一方、⑦を⑤に代入して、

$$a(-a)+2a+2=0.$$

$$a^2-2a-2=0.$$

$$a=1\pm\sqrt{3}.$$

$a<0$ より、

$$a=1-\sqrt{3}.$$

よって、(2)の結果より、 $b=-a$ 、 $c=-2a-2$ であるから、

$$b=-1+\sqrt{3}.$$

$$c=-2(1-\sqrt{3})-2$$

$$=-4+2\sqrt{3}.$$

以上より、

$$a=1-\sqrt{3}, \quad b=-1+\sqrt{3}, \quad c=-4+2\sqrt{3}. \quad \cdots(\text{答})$$

[(3)の参考]

(2)の結果より、

$$f(x)=x^3+ax^2-ax+(-2a-2).$$

$f(x)=0$ は実数係数の3次方程式であるから、 pi を解にもつとき pi と共役な複素数である $-pi$ も解である。

よって、もう一つの解を α とおくと、解と係数の関係より、

$$\begin{cases} pi+(-pi)+\alpha=-a, \\ pi(-pi)+(-pi)\alpha+pi\alpha=-a, \\ pi(-pi)\alpha=2a+2. \end{cases}$$

したがって、

$$\begin{cases} \alpha=-a, & \cdots\textcircled{8} \\ p^2=-a, & \cdots\textcircled{9} \\ p^2\alpha=2a+2. & \cdots\textcircled{10} \end{cases}$$

⑨において、 p は実数 ($p\neq 0$) より、 $p^2>0$ であるから、

$$-a>0,$$

すなわち、

$$a<0.$$

一方、⑧、⑨を⑩に代入して、

$$(-a)(-a)=2a+2.$$

$$a^2-2a-2=0.$$

(以下、【解答】と同じ.)

((3)の参考終り)

◆ 実数係数の n 次方程式 ($n\geq 2$) が虚数解 $a+bi$ (a, b は実数, $b\neq 0$) をもつならば、それと共役な複素数である $a-bi$ もこの方程式の解であることが知られている。

— 3次方程式の解と係数の関係 —

3次方程式

$$ax^3+bx^2+cx+d=0$$

の3解を α, β, γ とするとき、

$$\begin{cases} \alpha+\beta+\gamma=-\frac{b}{a}, \\ \alpha\beta+\beta\gamma+\gamma\alpha=\frac{c}{a}, \\ \alpha\beta\gamma=-\frac{d}{a}. \end{cases}$$

ポイントチェック

x の整式 $f(x)=x^3+ax^2+bx+c$ がある。ただし、 a, b, c は実数の定数とする。

- (1) $f(x)$ を $x-1$ で割ったときの商と余りを求めよ。
- (2) (1) で求めた商を $g(x)$ とする。 $f(x)$ を $x-1$ で割ったときの余りは 6、 $g(x)$ を $x+2$ で割ったときの余りは 5 であるとき、 b, c を a を用いて表せ。

(答)

- (1) 商は $x^2+(a+1)x+a+b+1$,
余りは $a+b+c+1$.
- (2) $b=a+2, c=-2a+3$.

5 【数学Ⅱ 図形と方程式】

p を正の数とし、 t を 0 でない実数とする。座標平面上の 2 点 $(0, 1)$, $(-p, 0)$ を通る直線を l とする。また、点 (t, t) を中心とし、 x 軸、 y 軸の両方に接する円を C とする。

- (1) l の方程式を求めよ。
- (2) $p=1$, $t>0$ とするとき、 C と l が接するような t の値を求めよ。
- (3) l に接する C は 2 つあり、それらを C_1, C_2 とする。 p が $p>0$ の範囲を変化するとき、 C_1 と C_2 の面積の和の最小値と、そのときの p の値を求めよ。

● ● ● 配点 (50点) ● ● ●

- (1) 8 点 (2) 15 点 (3) 27 点

● ● ● 問題のレベル ● ● ●

- (1) 基本 (2) 応用 (3) 発展

解 答

- (1) l の傾きは、

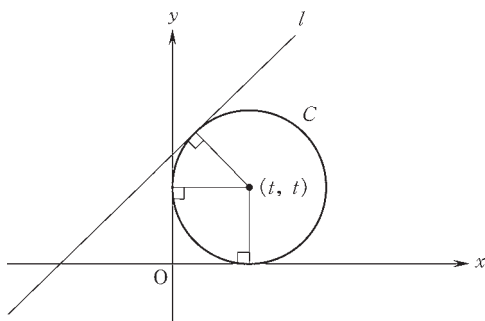
$$\frac{1-0}{0-(-p)} = \frac{1}{p}$$

であり、 l は点 $(0, 1)$ を通るから、 l の方程式は、

$$y = \frac{1}{p}x + 1.$$

…(答)

- (2)



$t>0$ のとき、点 (t, t) を中心とする円 C と x 軸、 y 軸の両方に接するとき、 C の半径は $|t|=t$ である。

また、 $p=1$ のとき、(1) の結果より、 l の方程式は、 $y=x+1$ ，すなわち、

$$x - y + 1 = 0$$

である。

C と l が接する条件は、

(C の中心 (t, t) と l の距離) = (C の半径)。

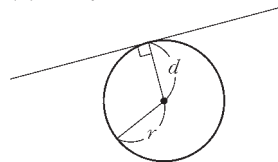
- ◆ $x_1 \neq x_2$ のとき、2 点 (x_1, y_1) , (x_2, y_2) を通る直線の傾きは、

$$\frac{y_1 - y_2}{x_1 - x_2}.$$

- ◆ 円と直線が接するとき、円の中心と直線の距離を d ，円の半径を r とすると、

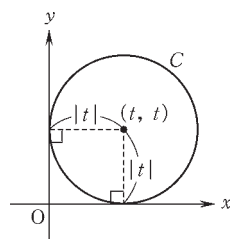
$$d = r$$

が成り立つ。



- ◆ 点 (t, t) と x 軸、 y 軸との距離は $|t|$ であり、 $t>0$ なので

$$|t| = t.$$



点と直線の距離の公式より、

$$\frac{|t-t+1|}{\sqrt{1^2+(-1)^2}}=t.$$

よって、求める t の値は、

$$\begin{aligned} t &= \frac{1}{\sqrt{2}} \\ &= \frac{\sqrt{2}}{2}. \end{aligned}$$

…(答)

【(2) の別解】

直線 l ，円 C の方程式は次のようになる。

$$l: y=x+1,$$

$$C: (x-t)^2+(y-t)^2=t^2.$$

この2式を連立して y を消去すると、

$$(x-t)^2+(x+1-t)^2=t^2.$$

展開して x について整理すると、

$$2x^2-2(2t-1)x+t^2-2t+1=0.$$

C と l が接するとき、この x の2次方程式は重解をもつので、判別式を D とすると、

$$D=0$$

である。

$$\begin{aligned} \frac{D}{4} &= \{-(2t-1)\}^2 - 2(t^2-2t+1) \\ &= 2t^2-1 \end{aligned}$$

であるから、

$$2t^2-1=0.$$

$$t^2=\frac{1}{2}.$$

$t>0$ より、

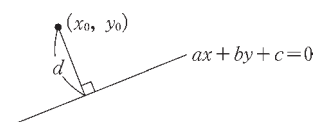
$$t=\frac{1}{\sqrt{2}}=\frac{\sqrt{2}}{2}.$$

((2) の別解終り)

点と直線の距離

点 (x_0, y_0) と直線 $ax+by+c=0$ の距離 d は、

$$d=\frac{|ax_0+by_0+c|}{\sqrt{a^2+b^2}}.$$



◆ 円 C の中心は (t, t) ，半径は t である。

2次方程式の解の判別

2次方程式

$$ax^2+bx+c=0$$

(a, b, c は実数の定数)

について、 $D=b^2-4ac$ とおくと、この方程式の解は、

$\begin{cases} D>0 \text{ のとき、異なる2個の実数解} \\ D=0 \text{ のとき、(実数の)重解} \\ D<0 \text{ のとき、異なる2個の虚数解} \end{cases}$ である。この D を判別式という。

◆ 2次方程式

$$ax^2+2b'x+c=0$$

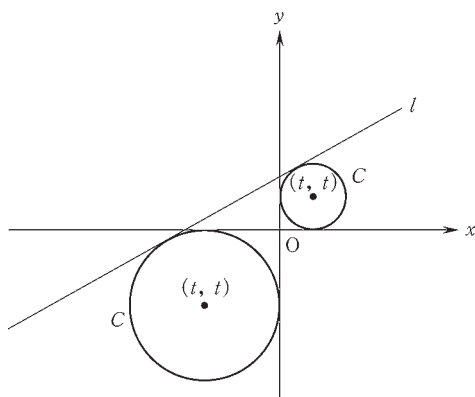
の判別式を D とすると、

$$\frac{D}{4}=(b')^2-ac.$$

(3)

道しるべ

C と l が接することから、 t を p で表すことができる。



C と l が接する条件は、

$$(C \text{ の中心 } (t, t) \text{ と } l \text{ の距離}) = (C \text{ の半径}). \quad \dots \textcircled{1}$$

ここで、 C の半径は $|t|$ であり、(1) の結果より、

$$l: x - py + p = 0$$

であるから、①より、

$$\frac{|t - pt + p|}{\sqrt{1^2 + (-p)^2}} = |t|.$$

$$|(1-p)t + p| = |t|\sqrt{1+p^2}. \quad \dots (*)$$

$$\{(1-p)t + p\}^2 = t^2(1+p^2).$$

$$(1-p)^2 t^2 + 2p(1-p)t + p^2 = t^2(1+p^2).$$

$$2pt^2 - 2p(1-p)t - p^2 = 0.$$

$p > 0$ より、

$$2t^2 - 2(1-p)t - p = 0. \quad \dots \textcircled{2}$$

②の判別式を D とすると、

$$\frac{D}{4} = \{-(1-p)\}^2 - 2(-p) = 1 + p^2 > 0$$

より、②は異なる2つの実数解をもつ。

よって、②の2解を α, β とすると、 C_1, C_2 の半径は $|\alpha|$ と $|\beta|$ であるから、面積の和を S とすると、

$$\begin{aligned} S &= \pi(|\alpha|^2 + |\beta|^2) \\ &= \pi(\alpha^2 + \beta^2). \end{aligned} \quad \dots \textcircled{3}$$

ここで、②を解くと

$$t = \frac{1-p \pm \sqrt{1+p^2}}{2} \quad (= \alpha, \beta)$$

であるから、③より、

◆ 実数 A, B が

$$|A| = |B|$$

を満たすのは、

$$A = B, \text{ または } A = -B$$

のときである。

このことを用い、(*)より次のようにして t を p で表すこともできる。

$$(1-p)t + p = \pm t\sqrt{1+p^2}.$$

$$p = \{p-1 \pm \sqrt{1+p^2}\}t.$$

$$t = \frac{p}{p-1 \pm \sqrt{1+p^2}}$$

$$= \frac{p(p-1 \mp \sqrt{1+p^2})}{(p-1)^2 - (1+p^2)}$$

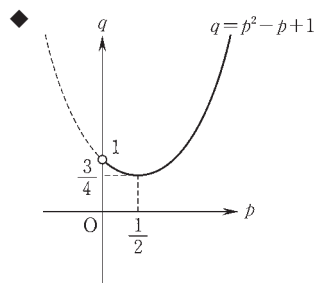
$$= \frac{p(p-1 \mp \sqrt{1+p^2})}{-2p}$$

$$= \frac{1-p \pm \sqrt{1+p^2}}{2} \quad (\text{複号同順}).$$

$$\begin{aligned}
S &= \pi \left\{ \left(\frac{1-p+\sqrt{1+p^2}}{2} \right)^2 + \left(\frac{1-p-\sqrt{1+p^2}}{2} \right)^2 \right\} \\
&= \frac{\pi}{4} \{ (1-p+\sqrt{1+p^2})^2 + (1-p-\sqrt{1+p^2})^2 \} \\
&= \frac{\pi}{4} \cdot 2 \{ (1-p)^2 + (1+p^2) \} \\
&= \pi(p^2 - p + 1) \\
&= \pi \left\{ \left(p - \frac{1}{2} \right)^2 + \frac{3}{4} \right\}.
\end{aligned}$$

$p > 0$ より, C_1 と C_2 の面積の和の最小値は,

$$\frac{3}{4}\pi \quad \left(p = \frac{1}{2} \text{ のとき} \right). \quad \dots(\text{答})$$



【(3) の ② を導く部分の別解】

【(2) の別解】と同様にして, l と C の方程式

$$l: y = \frac{1}{p}x + 1,$$

$$C: (x-t)^2 + (y-t)^2 = t^2$$

を連立して y を消去すると,

$$(x-t)^2 + \left(\frac{1}{p}x + 1 - t \right)^2 = t^2.$$

展開して x について整理すると,

$$\left(1 + \frac{1}{p^2} \right) x^2 - 2 \left(t - \frac{1-t}{p} \right) x + (1-t)^2 = 0.$$

この 2 次方程式の判別式を D' とすると, C と l が接するとき, $D' = 0$ であるから,

$$\frac{D'}{4} = \left\{ - \left(t - \frac{1-t}{p} \right) \right\}^2 - \left(1 + \frac{1}{p^2} \right) (1-t)^2 = 0.$$

$$t^2 - 2t \cdot \frac{1-t}{p} + \frac{(1-t)^2}{p^2} - (1-t)^2 - \frac{(1-t)^2}{p^2} = 0.$$

$$t^2 - \frac{2}{p}t(1-t) - (1-t)^2 = 0.$$

両辺に $p(>0)$ を掛けて,

$$pt^2 - 2t(1-t) - p(1-t)^2 = 0.$$

t について整理すると,

$$2t^2 - 2(1-p)t - p = 0. \quad \dots(2)$$

(3) の ② を導く部分の別解終り)

【(3) の ③ 以降の別解】

$$\begin{aligned}
S &= \pi(\alpha^2 + \beta^2) \\
&= \pi\{(\alpha + \beta)^2 - 2\alpha\beta\}.
\end{aligned}$$

ここで, ② において解と係数の関係より,

$$\begin{cases} \alpha + \beta = 1 - p, \\ \alpha\beta = -\frac{p}{2}. \end{cases}$$

— 2 次方程式の解と係数の関係 —

2 次方程式

$$ax^2 + bx + c = 0$$

の 2 解を α, β とするとき,

$$\begin{cases} \alpha + \beta = -\frac{b}{a}, \\ \alpha\beta = \frac{c}{a}. \end{cases}$$

よって,

$$\begin{aligned} S &= \pi \left\{ (1-p)^2 - 2 \left(-\frac{p}{2} \right) \right\} \\ &= \pi(p^2 - p + 1). \end{aligned}$$

(以下, 【解答】と同じ.)

((3) の ③ 以降の別解終り)

—— ポイントチェック ——

座標平面上の 2 点 $(0, 1)$, $(-2, 0)$ を通る直線を l とする.

- (1) l の方程式を求めよ.
- (2) 点 (t, t) を中心とし, x 軸, y 軸の両方に接する円と, l が接するような t の値を求めよ.

(答)

- (1) $y = \frac{1}{2}x + 1.$
- (2) $t = \frac{-1 \pm \sqrt{5}}{2}.$

⑥ 【数学B 数列】

数列 $\{a_n\}$ と数列 $\{b_n\}$ がある. ただし, $n=1, 2, 3, \dots$ とする.

数列 $\{a_n\}$ は等差数列であり,

$$a_3=0, \quad a_6=9$$

を満たしている. また, 数列 $\{b_n\}$ は公比が実数である等比数列であり,

$$b_1+b_2+b_3=-6, \quad b_1+b_2+b_3+b_4+b_5+b_6=42$$

を満たしている.

(1) 数列 $\{a_n\}$ の一般項 a_n を求めよ.

(2) 数列 $\{b_n\}$ の一般項 b_n を求めよ.

(3) 数列 $\{c_n\}$ を $c_n=a_nb_n$ ($n=1, 2, 3, \dots$) で定める. N を $N \geq 2$ を満たす自然数の定数とし, 数列 $\{c_n\}$ の初項から第 $2N$ 項までの項のうち, 正である項の和を S とする. S を N を用いて表せ.

● ● ● 配点 (50点) ● ● ●

(1) 10点 (2) 15点 (3) 25点

● ● ● 問題のレベル ● ● ●

(1) 基本 (2) 応用 (3) 発展

解 答

(1) 等差数列 $\{a_n\}$ の初項を a , 公差を d とすると,

$$a_n = a + (n-1)d$$

である.

$$a_3=0, \quad a_6=9 \text{ より,}$$

$$\begin{cases} a+2d=0, \\ a+5d=9. \end{cases}$$

これを解いて,

$$a=-6, \quad d=3.$$

よって, 一般項 a_n は,

$$a_n = -6 + (n-1) \cdot 3$$

$$= 3n - 9.$$

…(答)

(2) 等比数列 $\{b_n\}$ の初項を b , 公比を r とする.

$r=1$ のとき,

$$b_n = b \cdot 1^{n-1} = b$$

であるから,

$$b_1+b_2+b_3=-6, \quad b_1+b_2+b_3+b_4+b_5+b_6=42 \quad \dots \textcircled{1}$$

より,

等差数列

初項 a , 公差 d の等差数列 $\{a_n\}$ の一般項 a_n は,

$$a_n = a + (n-1)d.$$

等比数列の一般項

初項 a , 公比 r の等比数列 $\{a_n\}$ の一般項 a_n は,

$$a_n = ar^{n-1}.$$

$$3b = -6, \quad 6b = 42.$$

これを満たす b は存在しない.

よって, $r \neq 1$ であるから, $\{b_n\}$ の初項から第 n 項までの和を S_n とすると, S_n は,

$$S_n = \frac{b(1-r^n)}{1-r}.$$

① より,

$$S_3 = -6, \quad S_6 = 42$$

であるから,

$$\begin{cases} \frac{b(1-r^3)}{1-r} = -6, & \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

$$\begin{cases} \frac{b(1-r^6)}{1-r} = 42. & \dots \textcircled{3} \end{cases}$$

③ より,

$$\frac{b(1-r^3)(1+r^3)}{1-r} = 42.$$

$$\frac{b(1-r^3)}{1-r} \cdot (1+r^3) = 42.$$

左辺に ② を用いると,

$$-6(1+r^3) = 42.$$

$$1+r^3 = -7.$$

$$r^3 = -8.$$

r は実数であるから,

$$r = -2.$$

このとき, ② より,

$$\frac{b\{1-(-2)^3\}}{1-(-2)} = -6.$$

$$9b = -18.$$

$$b = -2.$$

よって, 一般項 b_n は,

$$b_n = (-2)(-2)^{n-1}$$

$$= (-2)^n.$$

…(答)

【(2) の $r^3 = -8$ を導く部分の別解】

等比数列 $\{b_n\}$ の初項を b , 公比を r とすると,

$$b_n = br^{n-1}$$

である.

$$b_1 + b_2 + b_3 = -6, \quad b_1 + b_2 + b_3 + b_4 + b_5 + b_6 = 42$$

より,

$$\begin{cases} b + br + br^2 = -6, \\ b + br + br^2 + br^3 + br^4 + br^5 = 42, \end{cases}$$

すなわち,

$$\begin{cases} b(1+r+r^2) = -6, & \dots \textcircled{4} \end{cases}$$

$$\begin{cases} b(1+r+r^2+r^3+r^4+r^5) = 42. & \dots \textcircled{5} \end{cases}$$

等比数列の和

初項 a , 公比 r ($\neq 1$) の等比数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和を S_n とすると,

$$S_n = \frac{a(1-r^n)}{1-r} = \frac{a(r^n-1)}{r-1}.$$

$$\begin{aligned} \blacklozenge \quad 1-r^6 &= 1-(r^3)^2 \\ &= (1-r^3)(1+r^3). \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \blacklozenge \quad r^3+8 &= 0. \\ (r+2)(r^2-2r+4) &= 0. \end{aligned}$$

ここで, r が実数のとき,

$$r^2-2r+4 = (r-1)^2+3 > 0.$$

よって,

$$r = -2.$$

⑤ より,

$$b(1+r+r^2)+br^3(1+r+r^2)=42.$$

$$b(1+r+r^2)+b(1+r+r^2)\cdot r^3=42.$$

左辺に ④ を用いると,

$$-6+(-6)r^3=42.$$

$$r^3=-8.$$

((2) の $r^3=-8$ を導く部分の別解終り)

(3)

道しるべ

a_n, b_n の符号をそれぞれ調べることにより, $c_n=a_nb_n$
($n=1, 2, 3, \dots$) の符号を調べる.

(1) の結果の $a_n=3n-9$ より, a_n ($n=1, 2, 3, \dots$) の符号は,

$$\begin{cases} a_n < 0 & (n=1, 2 \text{ のとき}), \\ a_n = 0 & (n=3 \text{ のとき}), \\ a_n > 0 & (n \geq 4 \text{ のとき}) \end{cases}$$

である.

また, (2) の結果の $b_n=(-2)^n$ より, b_n ($n=1, 2, 3, \dots$) の符号は,

$$\begin{cases} b_n < 0 & (n \text{ が奇数のとき}), \\ b_n > 0 & (n \text{ が偶数のとき}) \end{cases}$$

である.

したがって, $c_n=a_nb_n$ ($n=1, 2, 3, \dots$) の初項から第 $2N$ 項までのうち, 正であるすべての項の和 S は,

$$S=c_1+(c_4+c_6+c_8+\dots+c_{2N-2}+c_{2N})$$

である.

したがって,

$$T=c_4+c_6+c_8+\dots+c_{2N}$$

とおくと,

$$S=c_1+T. \quad \dots \textcircled{6}$$

ここで,

$$c_n=a_nb_n=(3n-9)(-2)^n$$

より,

$$\begin{aligned} c_1 &= (3-9)(-2) \\ &= 12. \end{aligned} \quad \dots \textcircled{7}$$

また,

$$\begin{aligned} c_{2k} &= (3 \cdot 2k - 9)(-2)^{2k} \\ &= (6k - 9) \cdot 4^k \end{aligned}$$

であり, c_{2k} で $k=2, 3, 4, \dots, N$ とした項の和が T である.

このとき,

◆ 数列 $\{a_n\}$ を初項から具体的に書く
と,

$$-6, -3, 0, 3, 6, 9, \dots$$

◆ 数列 $\{b_n\}$ を初項から具体的に書く
と,

$$-2, 4, -8, 16, -32, 64, \dots$$

◆ c_n の符号は次のようになる.

n	1	2	3	$2m$	$2m+1$
a_n	-	-	0	+	+
b_n	-	+	-	+	-
c_n	+	-	0	+	-

($m=2, 3, 4, \dots$)

◆ $(-2)^{2k} = \{(-2)^2\}^k = 4^k.$

$$\begin{aligned}
& T = 3 \cdot 4^2 + 9 \cdot 4^3 + 15 \cdot 4^4 + \cdots + (6N-9) \cdot 4^N \\
- & 4T = \quad 3 \cdot 4^3 + 9 \cdot 4^4 + \cdots + (6N-15) \cdot 4^N + (6N-9) \cdot 4^{N+1} \\
\hline
& -3T = 3 \cdot 4^2 + 6 \cdot 4^3 + 6 \cdot 4^4 + \cdots + 6 \cdot 4^N - (6N-9) \cdot 4^{N+1} \\
& = 3 \cdot 4^2 + 6(4^3 + 4^4 + \cdots + 4^N) - (6N-9) \cdot 4^{N+1} \\
& = 3 \cdot 4^2 + 6 \cdot \frac{4^3(4^{N-2}-1)}{4-1} - (6N-9) \cdot 4^{N+1} \\
& = 3 \cdot 4^2 + 2(4^{N+1} - 4^3) - (6N-9) \cdot 4^{N+1} \\
& = -(6N-11) \cdot 4^{N+1} - 80.
\end{aligned}$$

したがって、

$$T = \frac{(6N-11) \cdot 4^{N+1} + 80}{3}.$$

よって、⑥、⑦より、

$$\begin{aligned}
S &= 12 + \frac{(6N-11) \cdot 4^{N+1} + 80}{3} \\
&= \frac{(6N-11) \cdot 4^{N+1} + 116}{3}. \quad \dots(\text{答})
\end{aligned}$$

◆ 等比数列の和の公式の導き方と同様に、 $T-4T$ を計算する。

◆ $4^3 + 4^4 + 4^5 + \cdots + 4^N$ は、初項 4^3 、公比 4 、項数 $N-2$ の等比数列の和である。

◆ ⑥、⑦より、
 $S = c_1 + T$
 $= 12 + T.$

ポイントチェック

- (1) 等差数列 $\{a_n\}$ ($n=1, 2, 3, \dots$) があり、 $a_2=-15$ 、 $a_6=1$ を満たしている。一般項 a_n を求めよ。
- (2) 公比が実数である等比数列 $\{b_n\}$ ($n=1, 2, 3, \dots$) があり、
 $b_1+b_2+b_3=21$ 、 $b_1+b_2+b_3+b_4+b_5+b_6=189$
を満たしている。一般項 b_n を求めよ。

(答)

- (1) $a_n = 4n - 23.$
(2) $b_n = 3 \cdot 2^{n-1}.$

問六 理由説明の問題

ポイント

文章全体の話の流れを正しく読み取り、設問の意図に合った内容を簡潔な表現でまとめる。

傍線部⑤「買^ヒ田得^ヲ屋^ヲ」とは「耕地を買い家屋を手に入れた」という意味であり、貧しかった蔡翁がどうしてこのようにすることができたのかが問われている。傍線部の直前に「積^ム資^{コト}千金、以^テ之^ヲ」（貯めたお金は大金となり、このお金で）とあるように、まず蔡翁が「大金を貯えた」からである。ではどうやって大金を貯えたのか。それは「十数年の間、毎日子のこを市場で売る（毎朝持^チ一二簍^{リウ}入^ニ市上^ニ、売^リ得^テ数百文^ヲ。如^キ是^ノ者^ト十余年^ノ）」ことよってである。更に「きのこ」がどういいういきさつで生えるようになったのかまでを説明する。「きのこ」は松の根元に毎日生え続けた（設問解説）問五参照。蔡翁は始めから「きのこ」を栽培するために松を植えたわけではなく、「負^ヒ土^ツ成^レ封^ヲ、植^ウ以^ニ之^ヲ松^ノ楸^ノ」：「以^テ衛^マ之^ヲ」（土を運んで盛り土を作り、松とヒサギを植え、墓地を守った）とあるように、大切な父母の墓地を守るために松を植えたのである。「きのこ」はそこにたまたま生え続けたのであるから、「父母の墓地に植えた松の根元に生え続けたきのこ」と説明する必要がある。

解答は以上の内容を踏まえ、

- (1) 父母の墓地に植えた松の根元に生え続けたきのこを
 - (2) 十数年の間毎日市場で売って
 - (3) 大金を貯えた
- の三つのポイントを押さえて、制限字数以内でまとめればよい。

問三 現代語訳の問題

ポイント

指示語の指示内容と重要語句（慣用句）の意味を正しく押さえ、文脈にあった表現で訳す。

まず「其^{ソノ}」の指示内容を考えてみよう。「其貧^{シキコト}」とあるので、貧しい人物を指す。本文の冒頭に「吾郷有^{ガニリ}蔡翁^{ナル}者^ナ。家甚貧^{シク}」（私の生まれた村に蔡翁という人物がいた。「蔡翁の」家は非常に貧しく）とあることから、「蔡翁」を指していることがわかる。注意しなければならぬのは「如^レ故^コ」の読み方と意味である。「如^レ故^コ」は「ものとごとし」と読んで「もとのとおり・以前と同じ」という意味である。「このごとし」や「ゆゑのごとし」とは読まない。「其貧^{シキコト} 如^レ故^コ也^ナ」を直訳すると、「蔡翁の貧しいことは以前と同じであった」となるが、これをこなれた表現にすると「蔡翁は以前と変わりなく貧しかった」となる。

問四 漢字の意味の問題

ポイント

複数の意味を持つ漢字（多義語）が問われるので、漢字の文脈上の意味を把握し、その意味に当てはまるものを選ぶ。

「長」には、形容詞として(1)「長い・遠い」の意味（「ながし」と読む）、(2)「年かさである」の意味、動詞として(3)「優れる」の意味（「たく」または「ちやうず」と読む）、(4)「成長する」の意味（「たく」または「ちやうず」と読む）、(5)「のびる・のぼす」の意味（「たく」または「ちやうず」と読む）、(6)「増える・増やす」の意味（「ちやうず」と読む）、名詞として(7)「かしら」の意味がある。ここは「松楸^{ヤナギナギ}漸^{シタ}長^{ナガ}」とあって、「墓地に植えた」松とヒサギは次第に成長し」という意味で、ウ「成長」が正解である。

ア「長久」は(1)「長い」の意味、オ「深長」は(1)「遠い」の意味、イ

「長所」は(3)「優れる」の意味、エ「年長」は(2)「年かさである」の意味である。

問五 解釈の問題

ポイント

省略された主語を文脈を踏まえて決定するとともに、各語の意味を確定する。

まず「日出^{ヒビデ}不^レ窮^{マラ}」の主語を考えてみよう。傍線部④の直前に「松下時出^ニ鮮菌^ヲ、郷人謂^フ之^ヲ松花菌^ト」（松の根元に旬の頃になるときのこが生えるようになり、村人はそのきのこを松花菌と呼んだ）とあって、松の根元に「きのこ」が生えるようになったことが記されている。傍線部の直後には「毎朝持^ニ一二筐^ニ入^リ市上^ニ、売^テ得^テ數百文^ヲ」（毎朝「蔡翁はきのこを収穫して」一、二個の箱を手にして市場に入り、売って数百文を稼いだ）とあって、毎朝「きのこ」を市場に売りに行ったことが記されている。以上のことから「日出^{ヒビデ}不^レ窮^{マラ}」の主語は「きのこ」であることがわかる。アとイは主語が「蔡翁」、ウは「人々」となっているの

で、いずれも誤りである。
次に「日」の意味を考えてみよう。「ひび」と読み仮名も付いていることから、「毎日・日ごと」という意味である。また「不^レ窮^{マラ}」の「窮」には「終わる・尽き果てる」という意味があり、「不^レ窮^{マラ}」だと「終わらない・尽き果てない」という意味となる。以上のことを踏まえて傍線部を解釈すると、「きのこは毎日生えて尽きることにはなかった」となり、正解はオである。エは「日出」を「日の出」とし、また「不^レ窮」を「しおれてしまった」と解釈しているので、誤りである。

【重要語・基本句形】

(1) 重要語

○甚

○為

○僅

○尽

○且

○窃

○如

○如

○漸

○長

○日

○如

○如

○莫

(2) 基本句形

○莫

○莫

非常に・きわめて

——のために

——のうじて・やつと

すべて・すっかり

その上・さらに

こっそり・人知れず

——のとおりに・以前と同じ

次第に

成長する

毎日・日ごとに

このようである

——しないものはない・だれもがみな——する

——しないものはない・だれもがみな——する

——しないものはない・だれもがみな——する

——しないものはない・だれもがみな——する

——しないものはない・だれもがみな——する

——しないものはない・だれもがみな——する

——しないものはない・だれもがみな——する

↓【設問解説】問一参照

↓【設問解説】問一参照

↓【設問解説】問一参照

↓【設問解説】問一参照

↓【設問解説】問二参照

↓【設問解説】問二参照

↓【設問解説】問三参照

↓【設問解説】問四参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

↓【設問解説】問五参照

問二 書き下し文の問題

ポイント

基本句形の知識を用いるとともに、活用語は古典文法に従って正しく活用させる。

まず、基本句形の二重否定「莫不——」に注意する。「——ざる（は）莫し」と読んで「——しないものはない・だれもがみな——する」という意味。「莫」は「無」と同じ意味・用法の漢字である。「窃」には読み仮名と送り仮名が付いているので、それに従って読めばよい。「笑」には「不（打ち消しの助動詞）」が接続するので、「笑は」と未然形で読む。「見者」は「見る者」と読めばよい。通して書き下すと「見る者窃かに笑はざる（は）莫し」となる。「見た者はだれもがみなこっそり笑った」という意味である。

ひどい」という意味、副詞としては「はなはだ」と読んで「非常に・きわめて」という意味である。ここは「家甚貧」とあって、直後の形容詞「貧」を修飾しているの、副詞として「はなはだ」と読む。「家甚貧」は「家は非常に貧しく」という意味になる。「はなはだしく」と読まないように注意すること。

①「尽」は、動詞としては「つく」と読んで「なくなる・終わる・死ぬ」という意味、「つくす」と読んで「なくす・出しつくす・きわめる」という意味であり、副詞としては「ことごとく」と読んで「すべて・すっかり」という意味である。ここは「尽築為墓」とあって、直後の動詞「築く」を修飾しているの、副詞として「ことごとく」と読む。「尽築為墓」は「（わずかな耕地を）すべて墓地にしてしまった」という意味になる。

四 漢文

【解答】

- 問一 ⑦ はなはだ ① ことごとく
問二 見る者窃かに笑はざる（は）莫し。
問三 蔡翁は以前と変わりなく貧しかった。
問四 ウ
問五 オ
問六 父母の墓地に植えた松の根元に生え続けたきのこを、十数年の間毎日市場で売って大金を貯えたから。（46字）

【配点】（四十点）

- 問一 3点×2 問二 7点 問三 6点 問四 5点
問五 6点 問六 10点

【出典】

『履園叢話』全三十四卷。清の銭泳（一七五九—一八四四年）の随筆。銭泳は詩文や書に優れ、特に隸書に秀でていたが官職には就かなかった。彼は旅を好み、多くの文人と交流して見聞を広め、数多くの著作を残した。本書は巻ごとに旧聞、関古、書画、芸能などの表題が付けられ、その内容は清代の政治、経済、文化、社会生活など多岐にわたる。本文は巻五の「景賢」と題された文章の一つである。

本文は筆者と同郷の蔡翁についての話である。貧乏な蔡翁が亡き父母のために、わずかな耕地をすべて墓地にしてしまった。それを見た村人たちは笑ったが、やがてその墓地に植えた松の根元にきのこが生えはじめ、蔡翁はそのきのこを売ってお金を貯め、裕福になったという。親孝行者によい報いがあったという話である。

昔の中国では、父母のために立派な墓を建てることは大切な親孝行の一つであったのである。

【書き下し文】

吾が郷に蔡翁なる者有り。家甚だ貧しく、人の為に傭工す。家中僅かに種田一二畝にして、此を以て食を為す。父母の死後、尽く築きて墓と為す。土を貧ひて封を成し、植うるに松楸を以てし、且つ籬を編みて以て之を衛る。見る者窃かに笑はざるは莫し。其の貧しきこと故のごときなり。二三年を隔てて、松楸漸く長じ、松下時に鮮菌を出だし、郷人之を松花菌と謂ふ。日出でて窮まらず。毎朝一二筐を持ちて市上に入り、売りて数百文を得たり。是のごとき者十余年、資を積むこと千金、之を以て田を買ひ屋を得たり。

【全文解釈】

私の生まれた村に蔡翁という人物がいた。（蔡翁の）家は非常に貧しく、人に雇われて働いていた。（蔡翁の）家にはかろうじて一、二畝の耕地しかなく、この土地で生計を立てていた。父母の死後、（持っていた土地を）すべて墓地にしてしまった。土を運んで盛り土を作り、松とヒサギを植え、さらに垣根を作って墓地を守った。（それを）見た者はだれもがみなこっさり笑った。蔡翁は以前と変わりなく貧しかった。二、三年経って、松とヒサギは次第に成長し、松の根元に旬の頃になるときのこが生えるようになり、村人はそのきのこを松花菌と呼んだ。（きのこは）毎日生えて尽きることはなかった。毎朝（蔡翁はきのこを収穫して）一、二個の箱を手にして市場に入り、売って数百文を稼いだ。このようなことが十年余り続いて、（蔡翁が）貯めたお金は大金となり、このお金で耕地を買い家屋を手に入れた。

素晴らしい」ことだったからだ、という文脈である。

二 目の空所

これは、 まことにある故にこそ、冥の御あはれみもありけめ。

「これ」というのは、直前の、童が恵みを受けたことで、それがあからこそ得られた「冥（＝神仏）の御あはれみ」だったという結論である。

これらの条件から考慮すると、空所に入るのは、「三宝」（＝仏・法・僧）のお恵みや、「冥」（＝神仏）のあわれみをうけるのにふさわしい「童」の意志や心でなければならぬ。具体的には、それが「母」のための食物を得るという恩恵をもたらすような「意志・心」と考えられる。

では、それぞれの選択肢を検討していこう。

ア「遁世の志」……「遁世」とは、俗世間を離れ仏門に入ること、出家することである。たしかに「仏物」や「三宝」「冥」など、仏教関係の語が出てくるが、「童」が出家したいという意志は、この文章中からは読み取れない。よって、不適當である。

イ「報恩の志」……「報恩」とは、恩に報いること、つまり、恩返し
の意志になる。右に述べたように、恩返し
の意志のおかげで、「母」への恵みを得られたという文脈ではない。よって、不適當である。

ウ「孝養の志」……「孝養」とは「親孝行」の意味。まさに、「童」の盗みの原因は、「母」への孝行の思いからであつたし、それをあわれんだ「上人」によつて、「童」が「母」を養うための食物を与えられたのである。よって、これが正解である。

エ「憐憫の心（＝あわれみ・気の毒に思うこと）」も、オ「悔恨の心（＝後悔の思い）」も、どちらも、この「童」が神仏の恩恵を得る条件としては不適當である。

問八 文学史——出典と同じジャンルの作品

ポイント

文学史の知識を問う設問である。学校の教科書に出てくるような作品は、すべて有名出典と言えるので、それらの作品は、必ずその都度、作品の成立した時代、作者（または編者）、ジャンルなどを、正確に覚えて、自分の知識のリストに加えておくことよ。

『沙石集』と同じジャンルの作品、つまり説話集を選ぶ。ちなみに、『沙石集』は、『出典』解説にも詳しく記したが、説話集の中でも、仏教に関する逸話を集めた仏教説話集なので、そういった面からも同じジャンルかどうかわかるように理解を深めたい。

ア『千載和歌集』は平安時代末期に成立した勅撰和歌集。後白河院の院宣によつて編集され、撰者は歌人藤原俊成。

イ『方丈記』は鎌倉時代初期に成立した随筆。作者は鴨長明。なお、鴨長明による作品としては、他に、歌論『無名抄』や、仏教説話集『発心集』がある。

ウ『山家集』は成立年代・作者未詳の歌集。平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活躍した歌人、西行法師の私家集である。

エ『発心集』は鎌倉時代初期に成立した説話集。イで述べた通り、鴨長明の編集による仏教説話集。よって、これが正解である。

オ『太平記』は、南北朝時代から室町時代にかけて成立した軍記物語。作者は未詳。

合は①の意味になるが、今回は果たして「感動」による「褒美」でよいのだろうか。直前を見ると、『「童が言葉に違はざりけり」とて、』とあることから、上人は、「童が言葉」が真実だったことを知って「あはれに」思ったということがわかる。ちなみに、「童が」の「が」は連体修飾格（の）で訳す。では、「童が言葉」とは、どのようなことで、そこに至る経緯がどうであったかを、第一段落から順に整理してみよう。

【第一段落】

童が、仏物の俵を盗み、捕らえられた。

【第二段落】

盗みをした理由は、「童」の証言によると、以下のようなものである。

・「いふかひなく（＝どうしようもなく）貧しき者にて、過ぎ嘆き侍る」状態だった。
・さらに「盲目なる老母」を、一人でなんとか養っていた。
・ところが、「身も疲れ力も尽き」、「はかばかしく（＝しつかりと）助け過ぐる（＝）もできなくなってしまう」。
・その時、杣造りのために置かれた仏物である俵を見つけ、「母を助けばや（＝助けたい）」と、「かかる不当（＝道理に外れた行い）」をしてしまった。

そして、「童」は「口惜しく（＝情けなく）おぼえ侍れ」と、泣くのがあった。

【第三段落】

「上人」は、「あはれに」思い、真偽の確認のために使者を派遣し、「童」の「母」を探して、ことを尋ねると、「童」の言った通りの証言であった。

そこで、傍線部5直前の、使者の報告を聞いた「上人」の心情、「あはれに思はれければ」に続くのである。

ここから考えれば、ここでの「あはれに」は、①でなく、④「かわいそうだ、気の毒だ」の意だとわかる。

以上から、「上人」が「童」に「母を養うほどの食物」を与えた理由としての解答ポイントは、以下になる。

- (1) 上人の心情 童をかわいそうに思ったこと。
(2) 直接の理由 童の話が真実だったとわかったこと。

(3) 童の話の内容

盲目の母を童が一人で養い、頼られていること。
あまりに貧しく、どうしようもなくなったこと。
それでも母を助けたいと思う一心で盗みをはたらくに至ったこと。

- (1) (3)の要素をうまくまとめて説明すること。

問七 空所補充——文脈と語意

ポイント

空所補充の問題は、その段落、もしくはその文章全体の内容を理解していないとわからないことが多い。特に、今回の場合、エピソード全体を通して描かれてきた主題を把握して答える問題となっているので、そのつもりで挑もう。

まずは、二つの空所前後の文脈を、必要な内容を補いつつ確認しよう。

【①目の空所】

仕業は不当なるに似たれども、
かかるべき三宝の御恵みにや。

これは、「童」のはたらいた盗みは道理に外れることだが、「三宝（＝仏・法・僧）」のお恵みを受けた（＝罪を問われず、「母養ふほどの食物」を与えられた）のは、
が「ありがたけれ（＝めったになく

慣用表現	くやる ＋打消
(動詞の連用形につき、打消を伴って) 最後までくしきれない。	

末尾の「で」は、「くしないで・くずに」と訳す、打消接続の接続助詞。右記の重要古語・語法説明から、慣用表現として「露の命」をとらえて現代語訳すると、傍線部3は、「露のようなはかない命が、そう(＝はかないと)はいうもののやはり消えてしまいきれないで」となる。「露」には、右記のように複数の意味があるが、「露の命」と慣用表現になっているのに、「取るに足りない運命」としているイや、「つまらない人生」とするウ、「涙の絶えない人生」とするオは不適当である。では、残ったアとエだが、それぞれ選択肢後半部分の内容を検討していこう。傍線部は「はかない命が、そうはいうもののやはり消えきれず」の意で、つまりは「死にきれずに生き続けている」状態を表す。すると、アは「命が、今にも消えてしまいうに」とあって、傍線部と逆の意味になっているので不正解である。エの「それでもやはり生き長らえて」が、副詞「さすがに」の訳出も反映されていて正解である。

問六 説明——理由の説明(記述式)

ポイント

登場人物の行為でも心情でも、まずは傍線部に書かれている内容を正確に把握し、そのうえで設問で問われている条件や指示を考慮すること。そこで初めて、理由として説明するべき要素を、傍線部以外の問題文中からさぐっていく、という手順を踏んでほしい。

傍線部5「母養ふほどの食物を給ひてけり」の品詞分解は、次のようになる。

名詞／動詞・連体／名詞／助詞／名詞／助詞／動詞・連用／助動詞・連用／母／養ふ／ほど／の／食物／を／給ひ／て／ 助動詞・終止 けり
--

重要古語・語法としては、「給^たひ」がある。これは、尊敬の本動詞「給^{たま}ふ」の連用形で、本来「給^{たま}ふ」だったものが語形変化して、「給^たうぶ」となり、さらに「給^たふ」となった。したがって、「給^たふ」と同様、「お与えになる・下さる」の意になる。これを踏まえ、主語・目的語などを補って現代語訳すると、「(上人は)母を養う(ことができる)ほどの食物を(少年に)お与えになった」となる。設問では、「そのようにした理由」を問うているのだが、これは、上人がそうするに至った「心情」の要素を答える問題だと考えるとよい。

今回の場合、傍線部の直前に、「童が言葉に違はざりけり」とて、**あはれに思はれければ**とあることに注目してほしい。「已然形＋ば」は原因条件を表しており、「あはれに思はれ」は心情表現である。これは、使者から報告を受けた「上人」の心情と、直後の「上人」の行動である傍線部5の理由が端的に述べられている部分である。

「あはれに」は重要古語で、次の意味を持つ。

ナリ活用形容動詞「あはれなり」の連用形	あはれに
① しみじみと感慨深い・趣深い。	①
② 美しい・すばらしい。	②
③ 悲しい・つらい。	③
④ かわいそうだ・気の毒だ。	④

この場合の「あはれに」だが、①「しみじみと感慨深い」の意と、④「かわいそうだ・気の毒だ」の意とで迷った人ものいるのではないだろうか。説話では、エピソードの最後で、恵まれぬ立場の人物が、高位の人物を感動させ、褒美を与えられる場面がしばしば見られる。そうした場

との微妙な違いを意識してほしい。

傍線部4「心もとなくて」の品詞分解

形容詞・連用／助詞
心もとなく／て

〔注意する重要古語・語法〕

心もとなく	ク活用形容詞「心もとなし」の連用形
	① じれったい・待ち遠しい。
	② 気がかりだ・心配だ。 ③ はっきりわからない。

傍線部4は、「童」の「母」のせりふの中にある。「母」の会話文から、いつも自分を養ってくれている息子が、昨日出て行ったきり姿が見えないことに対する「おぼつかなく、心もとなくて」という心情であるとわかる。直前の「おぼつかなく」は、ク活用形容詞「おぼつかなし」の連用形で、「心もとなし」と同様の「気がかりだ・心配だ・はっきりわからない」の意を持つ。したがって、文脈から考えて、「おぼつかなし」「心もとなし」のどちらも、②の「気がかりだ・心配だ」の意で訳すとよく、また、「心もとなく」を、①として「童」の帰りが「待ち遠しく」と訳すこともできる。

よって、正解例は「心配で」「気がかりで」「待ち遠しくて」となる。末尾の「て」は単純接続の接続助詞なので、それにつながるように訳すこと。

問五 解釈——語句の解釈（選択式）

ポイント

少し長めの傍線部の解釈問題である。選択式の場合、傍線部をそのまま逐語訳し、その内容を正確に理解したうえで、選択肢の表現の中で最も内容の近いものを選び出すという手順が必要となってくる。段取りを踏んで、正解に近づいていこう。

傍線部3「露の命、さすがに消えやらで」の品詞分解

名詞／助詞／名詞／副詞／動詞・未然／助詞
露／の／命、／さすがに／消えやら／で

〔注意する重要古語・語法〕

露	
名詞	① 草木に置く露・しずく。 ② はかないこと・たよりないもの。 ③ 涙の比喩。
副詞	① わずかに・ほんの少し。 ② （下に打消を伴って）まったく。
露の命	
慣用表現	露のようにはかなく消えやすい命の意。
さすがに	
副詞	① （そうはいうものの）やはり。 ② （なんといっても）やはり。

童が俵を盗んだこと。

となる。しかし、これだけでは、「かかる不当」の内容がまだ不十分である。童が犯した行為は、たんに俵を盗んだということではなく、その「俵」が第一段落の冒頭に説明されている、「東大寺の大仏殿造立のため」の、木材調達の間の食物としての「俵」であることに注目してほしい。先にあげた上人のせりふの末尾には、「……かかる不当のわざをばして、仏物を犯すぞ」という言葉がある。仏物は（注2）で「仏に属するべきもの」と説明されていることから、童が手を付けた俵は、仏のための「仏物」であり、そこそが罰当たりな「不当」である所以なのだということを理解してほしいところである。

以上から、解答は、

童が仏物である俵を盗んだこと。
となる。

問四 現代語訳——短語句の訳出（記述式）

ポイント

記述式で現代語訳する場合、必ず品詞分解し、一つ一つの語を不足なく正確に訳出することに気をつけてほしい。特に助詞や助動詞を見落とすことが多いので、傍線部の末尾まで、すべての単語をしっかり拾い上げるようにすること。

傍線部2「おぼえければ」の品詞分解

動詞・連用／助動詞・已然／助詞
おぼえ／ けれ／ ば

〔注意する重要古語・語法〕

おぼえ	
ヤ行下二段動詞「おぼゆ」の連用形	
① 思われる・感じる。	
② 記憶する。	
③ 似る。	
④ 思い浮かぶ・わかる。	

けれ	
過去の助動詞「けり」の已然形	
接続助詞	
① 未然形＋ば＝〔仮定条件〕もしくはなら。	
② 已然形＋ば＝〔確定条件〕 i 原因・理由＝～ので・から。 ii 偶然条件＝～と・ところ。 iii 恒常条件＝～するといつも。	

ここは、「上人も事の子細あはれにおぼえければ」と、下へつながっており、「童」の事情を聞いた「上人」の、「あはれに（不憚に・気の毒に）」「おぼえ」た、という心情を表している。よって、「おぼゆ」は①「思われる・感じる」の意が適当である。そして、過去の助動詞「けれ」が已然形なので、末尾の接続助詞「ば」は、②の「確定条件」となる。確定条件 i ～ iii の用法のうち、どれを選ぶかは、あとの文脈を読み取らねばならない。「気の毒に思われ」た「上人」は、使者を遣わして、「童」の話の真偽を確かめに行かせる。このつながりから、ii の偶然条件や、iii の恒常条件より、原因・理由を表す i の「～ので」の訳がふさわしい。

よって、正解例は「思われたので」となる。過去の助動詞「～た」の訳を忘れないこと。また、「おぼゆ」の訳を「思う」としている受験者が多いが、「おぼゆ」とは「（自然と）思われる」の意である。「思ふ」

ことなどから、格助詞「が」は(1)の連体修飾格と考え、主語は「上人」であるのがふさわしく、Aが正解である。直前の部分だけを見るのではなく、話の展開も踏まえてよく理解すること。

B「問ふ」・C「言ふ」

その後、「上人」に派遣された「使」が、山の麓の庵を見つけて立ち寄り、「『いかなる人のおはするぞ』とB問ふに、……『わび者の、盲目にて……』とC言ふ」とあるように、「使」と訪問先の人物との対話形式になっていることを考えるとよい。

まず、B「問ふ」は、右の展開から、「上人」に派遣された「使」が、訪問先の人物に問いかけたのだから、「使」が主語ということであり、ウが正解である。

次に、C「言ふ」だが、そもそも「使」は「母が居所」を探しにきたのだという前提を考慮しよう。また、Bの「どのような人がいらつしやるのだ」との問いかけに対する、訪問先の人物の返答の内容も確認するとよい。返答のせりふのポイントを整理すると、「わび者の、盲目にて侍るが」、「物を乞ひて育む子息の童の候ふを頼みて」など、第二段落で「童」が話した「母」の情報にぴたり合うことから、Cの会話の主語は「母」と考えるのがふさわしく、エが正解である。

D「おぼゆれ」

「おぼゆ」は「思われる・感じる」の意。第三段落までで物語られたことの顛末を記したうえで、最終段落で、「かへすがへす不思議におぼゆれ」と述べているのである。説話の場合、【本文解説】でも述べた通り、エピソードを語ったあとの締めくくりとして、「読者へ伝える教訓」や、「作者の感想」など、文章の主題に関わる内容が述べられることが多い。これも、「母」のために盗みを犯した「童」が、「三宝の御恵み」にあずかったことへの感想を、「不思議におぼゆれ」と記しているのである。よって、これは、逸話中の登場人物ではなく、「思われる・感じる」の主体としては作者と考えるのがふさわしく、オが正解である。

問三 指示語を含む具体的説明

ポイント

指示語とは、副詞「かく・さ・しか」や、代名詞「こ・そ・あ」などである。今回は、副詞「かく」にラ行変格活用動詞「あり」の連体形がついた「かくある」から変化した指示語「かかる」に注意したい。指示語の場合、必ず本文中に指示内容の該当部分があり、多くの場合、それは指示語の直前であることを意識しながら読むこと。

傍線部1の品詞分解は、「かかる／不当／を／つかまつり／て」となる。これを現代語訳すると、「このような／道理に外れたこと／を／申しあげ／て」となる。「かかる」は「このような」の意の指示語、「不当」は「不法・道理に外れたこと・間違ったこと」の意、この「つかまつる」は、本来の意である「お仕えする」ではなく、「△△いたす・△△し申しあげる」と訳す謙譲語の代動詞と捉えるとよい。

では、「かかる不当」とは、どのようなことを指すのか。第二段落の始め、「上人」のせりふの中にも、同じ「かかる不当」が既出しているのに注目してほしい。「いかなる者にて、かかる不当のわざをばして、仏物を犯すぞ」というせりふの中で、指示語を用いて述べているのだから、この指示内容は、これより前の第一段落までしかのぼって確認する必要がある。すると、第一段落での「道理に外れたこと・間違ったこと」にあたる行為は、「盗み」だとわかる。ただし、盗みをしたことだけでは、盗みをはたらいた内容などの視点から、「具体的に」という設問の指示を満たしていない。また、そうである以上、「十一字以上」という字数の条件にも足りないだろう。では、何を加えればよいか。こうした説明問題の基本として、まず、「主語（が・は）」「目的語（を）」を補うことを知っておくとよい。つまり、「盗んだ」の主語に「童が」を、「何を」にあたる目的語として「俵を」を補うこととなり、ここで、傍線部の内容を確認すると、

① ナリ活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
静かなり	静か	なら	なり	なり	なる	なれ	なれ

② タリ活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
堂々たり	堂々	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ

*タリ活用は、漢文訓読体という特殊な文体以外の古文にはあまり見られない。

では、d「いたづらに」、e「ありがたけれ」の検討に入ろう。dは「無益だ・むだだ・むなしい」などの意で、eは「まれだ・めつたにないほど素晴らしい」などの意であり、どちらも様子状態を表す用言である。

d「いたづらに」

二重傍線部は「いたづらに与へん」と、動詞「与ふ」に続いていることから、連用形とわかる。右の活用表から、連用形の活用語尾が「に」になるものは、形容詞ではなく、また、形容動詞でも、ナリ活用形容詞にしかないので、この終止形は「いたづらなり」となる。

e「ありがたけれ」

二重傍線部は「ありがたければ」と、接続助詞「ば」に接続していることから、未然形か已然形であるとわかる。右の活用表から、未然形か已然形の活用語尾が「けれ」になるものは、形容動詞ではなく、また、形容詞でも、ク活用形容詞の已然形しかないなので、この終止形は「ありがたし」となる。

問二 主語判定

ポイント

主語を正しく捉えられるかどうかで、読解の方向が決まるといっても過言ではない。複数の登場人物の関係を整理して、正確に読み進めていこう。助詞の役割にも注意してほしい。

A「遣はし」

第三段落の前半部分にあるので、ここまでの経緯を確認しよう。ある時、仏物の俵を盗んで捕らえられた「童」に、「上人」が事情を尋ねると、盲目の「母」を養うためにやむにやまれず犯した罪であると申し出た。そこで、「実否を知らんがため」に、「上人」は、「別の使をもって、童が申し状に付きて、母が居所をたづねに遣はしけり」という展開になっているが、波線部Aの主語を考えるうえで、「母が居所」の「が」の用法がポイントとなる。取り違えやすい格助詞「が」の用法には、おもに次のものがある。

「格助詞」が

(1) 連体修飾格ⅡⅡの「例：梅が香・我が母」

○体言につき、所有や所属、対象を表す。

(2) 主格ⅡⅡが 「例：雀の子を犬君が逃がしつる」

○体言や活用語につき、動作・作用の主体を表す。

「母が居所」を(1)の連体修飾格で訳すと、「(童の話の)真偽を知るため」に、「使者を立てて、……母の住まいを探しに遣わした」となり、そうすると主語は「上人」に決まる。一方、(2)の主格で訳すと、「母が住まいを探しに」となるが、この場合、「母」が主語となって、使者を派遣したことになる。しかし、それだと、何の居所を「母が」探すのかわからない。また、ここで、「母」はまだ実際には登場していないことや、直後に「使」が尋ねて行ったのは、山の麓の小さい庵で、そこに住んでいたのが「母」であることが読み取れる(次のCの解説を参照)

詞で「え」の語尾を持ち、「ア行」に活用する動詞は、「得」と、その複合語の「心得」などである。今回の「見え」はヤ行に活用する動詞だと覚えておくこと。よって、「見え」は、ヤ行下二段活用動詞なので、活用表は次のようになる。

語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
見	え	え	ゆ	ゆる	ゆれ	えよ

右の表から、「見え」が連用形であることも確認できる。よって、正解の終止形は「見ゆ」である。

ただし、「覚える動詞」の②上一段活用動詞で、「見る」がリストに入っているが、これとは異なるので注意してほしい。
じつは、「見」のつく動詞は、ヤ行下二段活用動詞「見ゆ」以外に、次のように、他に二種類ある。

「マ行上一段活用動詞 見る」

語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
(見)	み	み	みる	みる	みれ	みよ

「サ行下二段活用動詞 見す」

語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
見	せ	せ	す	する	すれ	せよ

「見ゆ」も含めて、これらを意味とともにここで確認しておいてほしい。

- ・見る…「見る・会う・世話する」などの意。
- ・見ゆ…「見える・見られる・現れる」などの意。
- ・見す…「見せる」などの意。

II 形容詞・形容動詞の活用

形容詞も形容動詞も、性質や様子状態を表す活用語であり、次のような種類と特徴がある。

◆形容詞の活用の種類は、次のように、連用形の活用語尾で判別する
とよい（動詞の「なる」を接続させて調べる）。

① ク活用…くなる。	〔例…高くなる〕
② シク活用…しくなる。	〔例…美しくなる〕

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
高し	高	から	く	し	き	けれ	かれ

② シク活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
美し	美	しから	しく	し	しき	しけれ	しかれ

*各表の左列にあるカリ系列・シカリ系列は、原則として直下に助動詞が接続する時に用いられる。

◆形容動詞の活用の種類は、次のように判別できる。

① ナリ活用…〔例…静かなり〕
② タリ活用…〔例…堂々たり〕

- ⑦ サ行変格活用動詞…「す・おはす」と、複合語「奏す・信す」など。
 ⑧ ナ行変格活用動詞…「死ぬ・去(い)ぬ」のみ。
 ⑨ ラ行変格活用動詞…「あり・をり・侍り・いまそがり」など。

◆見分ける動詞

残りの三種類は、所属語が多いため、未然形の活用語尾によって判別するとい(打消の助動詞「ず」を接続させて調べる)。

- ① 四段活用…未然形がア段音になる。「例…思はず」
 ③ 上二段活用…未然形がイ段音になる。「例…落ちず」
 ⑤ 下二段活用…未然形がエ段音になる。「例…失せず」

では、これらの知識を使って、a「〜e」のなかで、動作を表す「動詞」をピックアップしてみると、a「尽くる」、b「侍れ」、c「見え」の三つがある。設問の指示通り終止形に直すためには、それぞれの活用の種類と活用形を押さえる必要がある。aから順に見ていこう。

a「尽くる」

これは、「尽くることがあらず」と、体言「こと」に接続していることから、連体形であるとわかる。「覚える動詞」のリストに入っていないので、「見分ける動詞」三種類のどれかになる。では、「ず」をつけて未然形の活用語尾がどうなるかを確かめてみよう。語幹を「尽」の部分とし、「ず」をつけると、「尽きず」となる。よって、未然形がイ段音だから上二段活用とわかり、活用表は次のようになる。

「上二段活用動詞」

語幹	未然形	連体形	終止形	連体形	已然形	命令形
尽	き	き	く	くる	くれ	きよ

右の表から、「尽くる」が連体形であることも確認できる。よって、正解の終止形は「尽く」である。

一方、中には、語幹を「尽く」、語尾を「る」と考え、「尽くらず」と活用させて未然形がエ段音だからラ行四段活用とする間違いがあったかもしれない。この場合、「ら／り／る／れ／れ」と活用すると考えて、終止形を「尽くる」と答えることになる。語幹をどう理解するか判断がつきにくいかもしれないが、例えば、この文章では、五行目に「(身も疲れ力も) 尽き(て)」の語形もあることがわかり、これを見ると、この動詞がラ行四段活用であるとの説明がつかない。また、連体形／已然形が「〜uる／〜ule」型に活用するのは、上二段活用か下二段活用の典型であることも覚えておくとよいだろう。

b「侍れ」

これは、「覚える動詞」のリストに入っているので、すぐにラ行変格活用動詞だとわかる。先の活用表の⑨を確認すると、正解となる終止形は「侍り」である。他の動詞はすべて終止形がウ段音になるが、ラ変動詞のみ、終止形がイ段音であるという特徴も意識しておこう。ちなみに、二重傍線部bの活用形は、係助詞「こそ」を受けた係り結びとしての已然形である。

c「見え」

これは、「見え侍らねば」と、動詞「侍り」に続いているので、連体形であるとわかる。これも、aと同様に、「覚える動詞」のリストに入っていないことから、「見分ける動詞」三種類のどれかになるので、「ず」をつけて未然形の活用語尾がどうなるかを確かめてみよう。語幹を「見」の部分とし、「ず」をつけると、「見えず」となる。よって、未然形がエ段音だから下二段活用とわかる。aと同じように、活用表を作って終止形がどうなるかを求めていけばよい。ところが、「見え」の活用語尾「え」の活用の行は、「ア行」か「ヤ行」か紛らわしい。こういった場合、「え」の語尾を持つ個々の動詞(「絶え」「覚え」など)について、活用行の知識が必要となるが、これは、多くの文章を読みながら覚えていくことで、覚えていくしかないものである。ちなみに、下二段動

A 正格活用

① 四段活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
思ふ	思	は	ひ	ふ	ふ	へ	へ
a		i		u		u	
e						e	
e							e

② 上一段活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
見る	〇	み	み	みる	みる	みれ	みよ
i		i		i		i	
i						i	
i							i

③ 上二段活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
落つ	落	ち	ち	つ	つる	つれ	ちよ
i		i		u		u	
i						u	
i							i

④ 下一段活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
蹴る	〇	け	け	ける	ける	けれ	けよ
e		e		e		e	
e						e	
e							e

⑤ 下二段活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
失す	失	せ	せ	す	する	すれ	せよ
e		e		u		u	
e						u	
e							e

B 変格活用

⑥ 力行変格活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
来	〇	こ	き	く	くる	くれ	こ(よ)

⑦ サ行変格活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
す	〇	せ	し	す	する	すれ	せよ

⑧ ナ行変格活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
死ぬ	死	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね

⑨ ラ行変格活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
あり	あ	ら	り	り	る	れ	れ

以上が九種類の活用の種類であるが、これらは、次のように判別する。

◆覚える動詞

先にあげた①～⑨の中には、四つの変格活用と、一部の正格活用など、所屬語の少ないものが六種類あるので、それらをあらかじめ覚えておくといよい。

② 上一段活用動詞……「干^ひる・射^いる・着^いる・似^いる・煮^いる・見^みる・居^ある・率^ある」など。

④ 下一段活用動詞……「蹴^くる」のみ。

⑥ 力行変格活用動詞……「来^く」と、複合語「詣^よで来^き・出^いで来^き」など。

の山で、^{まき}杣造りをさせて、その間の食糧のために、俵を数多く積んで置いていたのを、ある時、俵を盗んで逃げた者を見つけて捕らえた。（捕らえられた者は）瘦せ細った少年であった。

上人は、「（おまえは）どのような者で、このような道理に外れたことをして、仏に属すべき物に対して（盗むという）悪事をはたらくのか」とお尋ねになると、少年が申しあげたことには、「どうしようもなく貧しい者であって、（日々）過ごし嘆いておりますうえに、盲目である老母が一人おりますのを、薪を取って、遙か遠い人里に出て、（人に）物をもらって、（その母を）養っておりますけれども、（もはや）身体も疲れ力も尽きて、しっかりと（母を）助けて過ごすことも（できそうに）ございませんで、（そんな時に）この杣の食糧は豊富でございすし、仏事用なので不足することもなく、無くなることもないだろうと思つて、少しばかり盗んで、母を助けたいと思つばかりであつて、このような道理に外れたことをし申しあげて、恥をさらしましたことが、情けなく思われます」と言つてさめざめと泣いた。

上人も詳しい事情を（聞いて）しみじみ気の毒に思われたので、真偽を知るために、この少年を捕らえ置いて、別の使者を立てて、少年の申し立てた内容に関して、（少年の）母の住まいを探しに遣わした。使者が、探して行つて見ると、山の麓に小さな粗末な家があつた。（その家から）人が音をたてる物音がしたので、（使者は）立ち寄つて、「どのような人がいらつしやるのだ」と尋ねると、（相手は）答えたことには、「困窮している者で、盲目であります者が、暮らして困つて、この山の麓に住んで、薪を取り、人里に出て、（人に）物をもらつて（私を）養う息子の幼子がおりますのを頼みにして、露のようにほかない命（だ）が、そうはいふもののやはり消えきつてしまわないで（生き長らえて）おります。この幼子が、昨日（家）を出たままであつて、（姿が）見えませんので、気がかりで、心配で（いるところに）、人が訪ねて来た（心配がした）ので、『この幼子であらうか』と思つていましたところ、違ふ人で（ございました）と言ふ。

使者は、急いで帰つて、上人にこの様子を申しあげたところ、「少年の言

葉に違ひはなかつたなあ」と言つて、しみじみ気の毒に思ひなかつたので、母を養う（ことができる）ほどの食物を（少年に）お与えになった。そうはいつても、（その食物も）仏物なので、むだに（何の対価もなく）与えるようなのも畏れ多いということで、杣造りの間は、少年を召し使つたということだ。

やつたことは道理に外れているようであるけれども、親孝行の志は実にめつたになく素晴らしいので、（少年の受けた恵みも）そうあるべき（因縁があつての）三宝の恩恵なのであらうか。母を養う（ことができる）ほどの食物をいただいたことは、返す返すも不思議に思われる。これは、親孝行の志が本当にあつたからこそ、目に見えない神仏のお慈悲もあつたのだらう。

【設問解説】

問一 文法——用言の活用

ポイント

文法の基本は用言（動詞・形容詞・形容動詞）の活用を正しく理解すること。それぞれの活用の知識を確かなものにしておけば、文章読解の際に必要な品詞分解も正確にできるようになるし、また、助動詞の活用を学習するための重要な基礎知識ともなる。

まず「用言」とは、活用する自立語で、単独で述語となることのできるものと定義しておこう。動作を表す「動詞」、物の性質や様子状態を表す「形容詞」「形容動詞」の三つの品詞がこれに含まれる。次に、これらの「活用の種類」や性質、その見分け方を、品詞ごとに順に確認していこう。

I 動詞の活用

動詞の場合、九種類の「活用の種類」があるが、活用に規則性があるかないかによつて大きく二分され、規則性のあるものを**正格活用**、ないものを**変格活用**と言ふ。参考までに、例語をあげてそれぞれの動詞を見しておくことにする。

り物語を愛し好み侍りしゆゑに、修行の暇をかきて、徒ら事を書き置いたと述べており、また晩年には、「愚かなる人」のために、『沙石集』を著したと言っている。他に『雑談集』(仏教説話集)などの著作もある。

特徴

十巻から成り、説話の数は百五十話前後。「させきしゅう」とも読む。『沙石集』という作品名は、「沙の中から金を探り、石の中から玉を拾う」ことから名付けられた。その名の通り、砂や石のような世俗的な事柄を通して、金や玉のような、仏教の正しい理解を導こうとしている。

『沙石集』が記された鎌倉時代中期は、仏教の宗派が枝分かれし、教義を複雑化させていた時代である。そこで作者は、庶民にもわかり易く仏法の主旨を教えることを目的として、平易な文体や、身近な逸話を用いて執筆したという。よって、本書では、他の説話集に見られるような道德的かつ因果応報の話題ばかりでなく、卑近な庶民生活の実態を表す世俗的な話題や、滑稽譚、笑話などを積極的に扱い、仏教の教訓・教理を説く材料としている。

また、説話集でありながら、作者自身の随筆・評論文としての性格も色濃くあらわれている。

本文は、『新編日本古典文学全集』(小学館刊)に拠り、また他の注釈書をも参照して、表記その他については適宜あらためて問題文としての体裁を整えた。

【本文解説】

1 〈問題本文の引用箇所〉

巻第七ノ八「盲目の母を養へる童の事」の全文である。

2 〈前提として知っておく良い知識〉

仏教説話とは、先に述べたように、仏教の教理を人々に教化・啓蒙するこ

とを目的としたものである。一つ一つの章話では、例えば、仏・菩薩の奇跡、高僧の逸話、世俗における因果応報の理などを、具体的なエピソードで紹介し、最後の部分で作者による感想や、読者へ伝える教訓を述べて締めくくる、という体裁をとっているものが多い。よって、説話が出題された場合、「結論」にあたる教訓の段落に入ったら、エピソードの部分と対応させて全体の主旨を整理する癖をつけてほしい。

3 〈本文の要点〉

第一段落：「発端」

春乗坊上人が仏物の俵を盗んだ者を召し捕ると、瘦せ細った少年であった。

第二段落：「童の申し立てによる盗みの理由の説明」

少年の申し立てでは、盲目の母を養う子として、母を助けたがための、貧しさゆえに追いつめられた末の行為であるとのことだった。また、仏物ならば食糧も豊富であるし、少々ならば盗んでも事欠くこともないだろうとの判断もあったという。

第三段落：「童の母による証言の裏付け」

同情した上人が使者を派遣し、山の麓に少年の母を探して尋ねると、母の生活はその子の証言通りの様子であり、昨日から戻らないわが子を案じて待っているのだった。

第四段落：「上人による恩情とその後の処置」

使者の報告を聞いた上人は、少年に、母を養えるだけの食物を与えるが、仏物を何の対価もなく授けるのは畏れ多いことから、杣造りの間は少年を召し使って労働をさせた。

第五段落：「まとめ・教訓」

神仏の恩恵を得られたのは、「孝養の志」(＝親孝行の思い)があつたからこそである。

【全文解釈】

奈良の春乗坊上人が、東大寺の大仏殿を造立するために、安芸、周防両国

っている。したがってこれが一つめの正解。

ウは、第五段落で紹介された渡辺の「読書＝フィルム現象説」の内容を踏まえた説明になっている。【本文要旨】や問三の解説で確認したように、この渡辺説は、「現象液」としての本が、「読者自身もつ影像（＝問題意識）」を「浮かび上がらせる（＝明確にする）」というものであり、この選択肢の説明と過不足なく対応していることがわかるはずだ。したがって、これが二つめの正解。

エについて。本文から読み取れる範囲では、渡辺自身が「読者が関心を持ち得ない書物」について言及してはいない。また、「理想的な境地」の部分は、筆者が渡辺説の延長として「予想」したものであり、渡辺自身がそうした「理想」について述べているかどうかは、わからないことである。

オは、ベンヤミンとレヴィ＝ストロースの「読書量の違い」を、「読書のあり方とは無縁（＝無関係）の事柄」と説明している点が誤り。第六段落の当該箇所にある、「この数の差（＝「読書量の違い」）」は、両者が「おなじ『本を読む』という表現でそれほど異なった事態をさしているかの証言になる」という叙述と明らかに矛盾している。

カは、ベンヤミンとレヴィ＝ストロースの「読書量の違い」を、「読書の精密さの違い」として説明している点が誤り。両者の「読書量の違い」の原因として本文にあげられているのは、オで確認したこと以外には、「文芸批評家」と「人類学者」の「違い」ぐらいしか取りあげられてはいない。

古文

【解答】

- 問一 a 尽く b 侍り c 見ゆ d いたづらなり
e ありがたし
- 問二 A ア B ウ C エ D オ
- 問三 童が仏物である俵を盗んだこと。（十五字）
- 問四 2 思われたので 4 心配で
- 問五 エ
- 問六 盲目の母を養っていた童が、貧しさのあまりどうすることもできなくなつて、母を助けたいと思つて盗みをはたらいたという話が真実だったとわかり、かわいそうに思つたから。

問七 ウ
問八 エ

【配点】（五十点）

- 問一 2点×5 問二 2点×4 問三 5点
問四 2点×4点・4点×2点 問五 5点 問六 10点 問七 4点
問八 2点

【出典】

『沙石集』

成立年代…鎌倉時代中期（一二八三年頃）。

ジャンル…仏教説話集。

作者…無住法師（一二二六～一二二〇）。

鎌倉中期～後期の僧。鎌倉幕府の幕臣、梶原氏の末裔といわれる。鎌倉をはじめ、下野（現在の栃木県全域）、常陸（現在の茨城県全域）などを転々としたのち出家し、その後、尾張国（現在の愛知県西部）の長母寺の住職となった。自ら「昔よ

流れ」が、その前の部分で説明された「テキスト」の「流れ」のことだと押さえられるはずだ。さらに、その「テキスト」の「流れ」の内容についても説明しなければならないのは言うまでもない。そこで「テキスト」という言葉を手がかりに、さらに文脈をさかのぼっていくと、「テキスト」というものが、本という形で「物質的に完結した」ものではなく、「あらゆる本はあらゆる本へと、あらゆるページはあらゆるページへと、瞬時のうちに連結されてはまた離れることをくりかえし」、それらが「連系的・運動的」に「時間の経過の中ではじめて編み上げられてゆく」ものであるということがわかる。

以上の内容を、傍線部が「読書」についての考え方を示したものであるということを踏まえつつ、整理すると、

- a 本を、物質的に完結したものと考えerのではなく、
 - b 本を、あらゆる本やページ（＝書かれた断片）が時間の経過の中で連系的・運動的に編み上げられたテキストとみなしたうえで、
 - c そのテキストを、読者が自らの生のありようと結びつけて読む
- というポイントを導き出すことができる。

ただし、これだけでは、傍線部の「実用論」、すなわちへ役に立つかどうかを重視する」という内容やニュアンスを説明しきったとは言えないだろう。したがって、今度は傍線部の文脈から離れ、本文全体に目を向け、この「実用論」に関する説明を求めていかねばならない。この解説の冒頭でも指摘したように、この設問は、本文の論旨を踏まえて説明させる問題だという点を見落とさなければ、その作業にスムーズに移れるはずだ。

具体的には「読書の実用論」という言葉が出てくる本文の冒頭部を検討していくことになる。そこで筆者は、「ただ楽しいからおもしろいから気持ちがいいから本を読み時を忘れ物語に没入する」ことはないと言

ている。この点を踏まえ、

- d 本の世界に没入するのではなく
- e 未来に役立てるために読む

というポイントを加味しておくこと。

答案は以上のポイントが過不足なく出ていけばよいが、解答例では、aポイントとdポイントをまとめ、さらにcポイントとeポイントをまとめるという工夫を施してみた。参考にして欲しい。

問六 本文の内容に合致するものを選択肢の中から選ぶ問題

ポイント

内容合致問題は、一つ一つの選択肢の意味を正確に理解し、本文と照らし合わせて吟味しよう。

選択肢を順に検討していこう。

アは、「記憶力の役割を高く評価している」の部分が誤り。たしかに第二段落には、「過去のために現在を投資し、未来へと関係づける」に際して「もつともあからさまに問われる能力は、結局、記憶力だ」と述べられてはいる。しかし、本文全体の趣旨を踏まえた場合、筆者は「記憶力」よりもそのときどきの自分のありように応じて対象（具体的には「テキスト」）を受けとめていくあり方を「高く評価している」のである。なお、問四のイの正解も参照されたい。

イは、第六段落の内容を踏まえた説明になっている。筆者は、以前「本は表紙から裏表紙まで読むもの読みたいものと考えて」いたのだが、そうした読み方に関して「何かがまちがっている（＝過剰な意味を見いだす必要はない）」と思うようになり、今では「考えを変え、書かれたものの断片を自分なりに結びつけていけばよいと考えるようになったのである。この選択肢はそうした筆者の考え方を的確に説明したものにな

ヤミンに対する否定的な評価をなすことが本文全体の趣旨でないことは明らかである。むしろ筆者はレヴィイストロースとペンヤミンを並べて紹介しているのだから、ペンヤミンを思想家の代表例として評価していると見るのが妥当だろう。そのことに思い至ったとき、この部分に込められた〈筆者の思い〉については、本文の論旨と関連づけて理解していけばよいという方針がたつことになる。

ではここで、本文の趣旨を振り返っておこう。

- a まず筆者は、自分を「読書の実用論者」と規定し、かつて読んだ本の記憶を媒介にそれを未来に役立てていくことの大切さを語る。
- b そのためには記憶力が必要になってくるが、その記憶力がいかにあるてにならないものであるかを指摘し、嘆いてみせる。
- c そのことを踏まえたうえで、渡辺の説やテクスト概念を援用しつつ、本は、ときどきの自分のありようと関連させながら読めばよいのであって、読んだ本ことは忘れてもよいという結論を提示する。

以上の整理をもとに丸カッコの部分の内容を見直してみると、そこでは、ペンヤミンの本の内容についての記憶が曖昧であることが語られている。ただ、そのことを記述すると言うことは、ペンヤミンの本の正確な記憶が失われたとしても、それで自分の思いや考えを伝えられないはずはないと筆者が考えていることを意味しているはずだ。その点は理解しておきたい。つまり、右のbからcに関わる内容になっているのである。したがって、その点を踏まえたが正解ということになる。

アは、「渡辺の愉快な思い出に對抗」の部分で誤り。渡辺の「思い出」は「愉快な」だけでなく「憂鬱」なものでもあった。また、筆者は渡辺の思い出に共感しているのだから、「對抗」していると解釈するのも適切とは言いにくい。

ウは、「記憶」の問題に引きつけて説明している点はよいのだが、「話を即興的に作りあげ」たかどうかはわからないことである。また、この

選択肢の説明では、「自説」が「記憶の不確かさ」を主張するものになってしまい、本文全体の趣旨から逸脱する。

エは、「ペンヤミンの考え方に共感できない」や「ペンヤミンの……に対して皮肉を述べようとしている」の部分で誤り。先に見たように、筆者にペンヤミンを批判する意図はない。

オは、ウと同様に、「記憶」の問題に触れている点はよいのだが、ペンヤミンの「本が役立つかどうかについての判断は読者に委ねようとしている」という内容が、本文に根拠を持たない説明になっている。

問五 傍線部について内容を説明する記述問題

ポイント

傍線部に関する記述問題は、傍線部の前後の文脈と設問の要求を正しく理解し、それに対応する内容を過不足なく書く必要がある。自分の解答は必ず読み直して論理的でわかりやすい文章になるよう推敲しよう。

「読書の実用論」は、筆者の基本的な考え方を示す概念であり、この文章全体の趣旨と密接に関わっている。その点は理解できたはずだ。また、設問文にも「本文の論旨を踏まえて」とあることも見のがしてはいけない。詳細については【本文要旨】を参照してもらうことにして、ここでは解答に必要なポイントを確認していくことにする。

まず、傍線部直前の指示語に着目し、その指示内容を確認していくと、それが直前の「問題なのは、そのような複数の流れの合成であるきみ自身の生が、どんな反響を発し、どこにむかうかということにつくる」とあり、「読むことと書くことと生きることはひとつ」とある部分をうけていることは読み取れるはずだ。しかし、その部分をそのまま抜き出しただけでは説明したことにならないので、より丁寧な説明を求めている文脈を検討していこう。すると、そこで言われている「複数の

a 本は読むたびに新たな読み方ができる

b aを通して自分のありようが浮かびあがる

というポイントを押さえる。

そのうえで、空欄の箇所「X」、という理想の境地」という叙述に留意すれば、空欄に入るべき内容が「理想的なあり方を示すもの」でなければならないことが理解できるはずだ。つまり、

c a・bが理想的なあり方につながるものであること

というポイントを欠かしてはならないということだ。

以上a・cのポイントを満たしているエが正解。

アは、「本の世界に没入」の部分が明らかな誤り。この部分で筆者は、渡辺の説を踏まえつつ「読者の読み方に着目する考え方」を展開しており、その筆者は「本を読み時を忘れ物語に没入すること」（「第一段落」）を否定していたはずだ。また、bのポイントにまったく触れていないという点でも誤り。

イは、「本に内蔵された富」が「自動的に増殖していく」という説明が誤り。アでも解説したように、ここでは「読者の読み方・あり方」が問題になっているのだから、たとえ「本に内蔵された富」があったとしても、それは「読者」との関わりにおいて見いだされるものであり、「自動的に増殖」したりはしないはずだ。さらにアと同様、bポイントに触れていない。

ウは、「数多くの本に触れる体験」が「個々人の内面世界を豊かなものにしていく」という説明が誤り。この選択肢は「本が読者を豊かにする」という説明になっているが、筆者がここで問題にしているのは、「読者のあり方によって（b）、本は新たに読むことができる（a）」というものであったはずだ。

オは、「本のもたらす価値は普遍的なもの」の部分が明らかな誤り。

イやウでも解説したように、ここでは「本それ自体に価値」があるということが言われているのではまったくない。また、「自分のありようが浮かびあがる（b）」のだから、「普遍的（＝すべてのものに広くあてはまるさま）」とは言えない。

問四 波線部の説明として適当なものを選択肢の中から選ぶ問題

ポイント

傍線部・波線部に関する選択肢問題は、その前後の文脈と設問の要求を正しく理解し、選択肢を丁寧に吟味しよう。

三カ所の波線部に丸カッコが付されていることに着目したい。波線部を含む第六段落冒頭の文脈では、ペンヤミンの本との関わり方が紹介されているが、丸カッコの部分では、直前に記した内容を「それが事実かどうかは記憶が定かでないために保証はできない」と、一見無責任とも思える仕方で留保しているのである。ちなみに、この部分の有無によって文脈のニュアンスが大きく変わってくることは、丸カッコの部分を見て読んでみると実感できるはずだ。――丸カッコの部分を見視した場合、この文脈はペンヤミンの本から得た情報を記しただけのものとして受けとめられよう。ところが、丸カッコの部分を意識した場合、この文脈は、たんにペンヤミンについての紹介としてだけでなく、ペンヤミンの本の受けとめに関わる筆者自身の思いに力点をおいた読み方が導き出されてくることになる。

そのように考えたとき、丸カッコの部分に込められた「筆者の思い」とはどのようなものになるだろう。まず考えられるのは、筆者がペンヤミンを揶揄（＝皮肉を言うてからかうこと）しようとしているのではないかということである。だが、そうした解釈には無理がある。その点に関しては、問二の空欄Cの解説でも触れたので参照してもらいたい。そのうえでさらに言えば、【本文要旨】でも見てきたように、ペン

あった。つまりこの空欄には、〈情けない／落ち込んでしまうような〉といったニュアンスの言葉が入ることになる。したがって正解はアの「憂鬱」である。空欄の直前の表現が「楽しくも」となっていることから、〈楽しい〉と対になる表現が入ると考えたい。

空欄 C は、直前の「本に関してはマニアックなやつだったので」をうけた部分にあり、そうした「本に関してはマニアックな」ペンヤミンのあり方を示す言葉が入る。ちなみに「マニアック」は「常軌を逸して一つのことに熱中するあり方」のことを言ったもので、その点を考慮すると、候補としては「潔癖」と「偏狭」が考えられる。ただ、「偏狭」では、筆者がペンヤミンを否定的に評価していることになるが、本文全体からはそういう評価は読み取れない。そこで、空欄直後の文脈を慎重に追っていくと、「読みもしない本に番号をつけるようなまねはしなかった」とある。この表現からは、ペンヤミンの「マニアック」さは、「偏狭」が意味する「心の狭さ」とは無関係で、わかりやすく言えば「ズルをしない」あり方のことを言ったのだと読み取れる。したがって正解はイの「潔癖」である。なお、「繊細」で迷った諸君もいただろうが、これは「マニアックな」のニュアンスとずれている。

空欄 D の前後は、「不眠と D に苦しむ」となっている。その点を踏まえれば、ここには「苦しむ」という言葉にもっとも近いニュアンスのものを入れればよいことになる。すると、「潔癖・「繊細」・「偏狭」はそれに当てはまらない。また、「潔癖」・「忸怩」を入れると不適切な日本語表現になってしまう。残るのは「憂鬱」と「焦燥」だが、空欄 B には「憂鬱」しか入らないのだから、ここに「憂鬱」を入れることはできない。したがって正解はエの「焦燥」となる。

以上の検討から、保留していた空欄 A の候補としてなおも残っているのは、「繊細」と「偏狭」の二つとなる。では、それらの言葉を念頭に、筆者が「読書の実用論者」としての自分のあり方をどのように捉えているのか、関連する文脈から見ていこう。すると、空欄直後には

「……ということは、ぼくにはまるでない」「……といった考えほど、ぼくに無縁のものはない」とあり、ここで筆者が自分の考えを強く主張していることがわかる。さらに、本文の最終部でも「読書の実用論」に関する説明をしたうえで「……嘆くはめになったら、このことばを思いだしてくれ。本は読めないものだから心配するな」と、読者に強く呼びかけている。これらを通して浮かび上がるのは、「自らの考えを堅持し、それに強いこだわりをもつ筆者のあり方」である。これを「繊細」な態度と言うことはできないだろう。したがって正解はオの「偏狭」である。

なお、自分のあり方を「偏狭」というマイナスイメージの言葉で表現するのはおかしいと考えた諸君もいたであろうが、ここでは、大仰な言葉をあえて使うことで読者の目を引きつける効果や、自説を生真面目に説くことよりエッセーとしての軽妙さをねらったものと考えておけばよい。

問三 空欄に適切な内容を補う問題

ポイント

空欄と関わる内容を前後の文脈から正しく読み取ることが大切である。

空欄 X の直前に「それなら」とあることから、まずは「それ」の指示内容を確認しよう。すると、それが「おなじ本でも読むごとに、読めるものがちがう」という考え方を指していることがわかるはずだ。さらに言えば、その考え方は渡辺の「読書＝フィルム現象説」をうけて言われたものであり、その説に関しては【本文要旨】でも確認したように、「本は、そのときどきの読者のありようを浮かびあがらせるものである」というものであった。これが、「本と読者の関係性」に関わるものであることを確認しておこう。以上の内容を踏まえ、

た」「先生」「学者」という要素を満たすものを選ぶというやり方で検討しても、正解に行きつけたはずだ。

どの選択肢も知識や学問にかかわる言葉があげられているが、正解以外は、たとえばエの「学究の徒（＝学問に打ち込む人）」のように、「大学者」の「大」つまりは「すぐれた」のニュアンスが出ていない。さらに、ア「専門家」やウ「知識人（＝知識・教養のある人）」は、「大学者」の「学者」つまりは「学問に携わる人」という内容自体が明確に出ていない。また、オの「博学多識（＝広く学問に通じ、多くの物事に通じていること）」は、その人のあり方を言う言葉であって、その人そのものを指す言葉ではない点で誤っている。仮に「人」を示唆しているとしても、「博」く「多く」学識を持っけていても、「深さ」のニュアンスがない。

2の「挿話」は、文章または談話の間に挿む短い話のことを言い、「エピソード」と同じ意味の言葉である。したがって正解はエ。ちなみに、ここで問題となっている「挿話」が、この部分に「差し込まれた」渡辺の「興味深い思い出」のことを指していることは理解できただろうが、「挿話」という言葉と同義の外来語を知らないとは正解できないことになる。間違えた諸君はその点を肝に銘じ、現代文に頻出する外来語の知識も積極的に習得していこう。以下、選択肢の言葉の意味を確認しておく。

ア「モノログ」……	独白・独り言。「ダイアログ」（＝対話）の対義語。
イ「フィクション」……	虚構・作り話。文学論では頻出の用語。
ウ「ゴシップ」……	うわさ話。
エ「エピソード」……	挿話・逸話（＝興味深い話）。
オ「プロローグ」……	前置きの部分・序言。「エピローグ」（＝結びの部分）の対義語。

問二 空欄に適切な言葉を補う問題

ポイント

空欄と関わる内容を正しく読み取ることが大切である。なお、今回の出題のように、前後の文脈だけでなく、広く全体を見わたす必要がある問題も出題されるので注意したい。

空欄補充問題では、最初の空欄から順次解いていく必要はなく、わかりやすいところから埋めていけばよい。そのうえで、紛らわしく感じた箇所では、候補となる言葉を比較しながら検討していくわけだ。では個々の空欄を見ていく前に、まず選択肢の言葉の意味を確認しておこう。

ア「憂鬱」……	気がはれられないこと。気がふさぐこと。
イ「潔癖」……	不潔や不正を極度に嫌うこと。
ウ「繊細」……	感情が細かくて鋭いこと。デリケート。
エ「焦燥」……	いらだちあせること。
オ「偏狭」……	片意地で心の広さが足りないこと。
カ「忸怩」……	すっかり恥じいること。「忸怩たる思い」のように用いる。

空欄 A は、筆者が自分のことを「きわめて A な、読書の実用論者」だと規定した文脈にある。日本語表現の問題としてここに「焦燥」と「忸怩」が入ることはないが、残った選択肢はいずれも入る可能性があり、ここだけでは決まらない。次に進もう。

空欄 B の箇所では、渡辺の「思い出」が「楽しくも B な」ものであることが述べられている。そこで、渡辺の「思い出」について確認すると、それは「思わず、こつちも顔がほころぶ」（第五段落）ような「楽しい」ものであったが、空欄の直前にあるように、それはもともと「われわれの記憶力」が「あてにならない」ことを示すためのものと

ていたのだが、ふと手持ちの別の本を見ると同じラテン文が載っており、しかも余白には自分の訳が書き込まれていたのだった。つまり、以前読んだはずの本の内容が、そのときの渡辺にはまったく記憶されていなかったということだ——渡辺はその体験を、

- * そのときどきの読者のありよう（Ⅱ「感光したフィルム」を、
- * 本は浮かびあがらせる（Ⅱ「現像液」）ものである

という「読書Ⅱフィルム現像説」へと展開していったわけだが、その考え方に共感する筆者は、そこに自らの体験を重ね合わせつつ、「おなじ本でも読むごとに、読めるものがちがう」、裏返して言えば「読んだ本の大部分が読まないのとまったくおなじ結果になっている」ということを確認している。

Ⅲ 「テキスト」として本を読むこと（第六段落～第八段落）

そのうえで筆者は、本を「物質的に完結した」もの、つまりは「一冊一冊」という「冊」の単位で考える必要はないと述べる。ペンヤミンは、生涯千七百冊の本を読んだとされる。またレヴィ＝ストロースは、一冊の本を書くために七千冊の本に目を通すと言っている。その「数の差」は、筆者からすれば「本を読む」ことの内実が異なっているだけで、「表紙から裏表紙まで」何冊の本を読んだかということとは関係ないのである。

筆者にとって本というのは、

- * それを読んだり書いたりする（Ⅱ「時間の経過」）なかで、
- * 書かれたものどうしが（Ⅱ「あらゆる本はあらゆる本へと、あらゆるページはあらゆるページへと」）
- * 連係的かつ運動的に組織されていく（Ⅱ「編み上げられてゆく」）もの

なのである。それが「テキスト」という概念だ。したがって、筆者にとっての読書行為とは、〈本に込められた固定的な意味内容〉といったものを読み取ることにあるのではない。そうではなく、読者がそのときどきの自分の生

のありようを「テキスト」の「一定の流れ」をもつ動的な運動に「反響（Ⅱ呼応）」させつつ、これからの生のありようを「編み上げ」ていく（Ⅱ創り出していく）営みそのものに他ならないのだ。その意味で、読書は「実用」としてあること、つまりは「読むことと書くことと生きることはひとつ」なのである。したがって、「本を読めないこと読んでも何も残らないこと」を心配することはないので。

読解のポイント・チェック

- A 筆者の言う「読書の実用論」について、本文全体からその内容が読み取れたか。
- B 渡辺の考える「読書Ⅱフィルム現像説」について、その内容が読み取れたか。
- C 筆者が提示する「テキスト」概念について、その内容が読み取れたか。

【設問解説】

問一 言葉の意味説明の問題

ポイント

言葉の知識は、本文を読解する上での基本である。しっかりと身につけよう。なお、語句の意味説明問題では、辞書的な意味と文脈の理解が大切である。

1の「碩学」は〈学問の広く深いこと。また、その人〉のことを言うが、この文脈では〈人〉のことを意味する。この言葉が〈大学者〉の意の漢語的表現であることも覚えておくこと。したがって正解はイ。ちなみに、ここでの「碩学」が渡辺一夫のことを指すことを踏まえ、関連する文脈から言い換えている語を探すと、「すぐれたフランス文学者」「先生」という表現（第三段落・第四段落）が見つかる。そこで、「すぐれ

が正解である。

オは、「近代において福沢が推奨した学問のすすめはそのまま現代にも通用する」という部分が、本文の内容に合致しない。最終段落に述べられているように、「福沢諭吉」が「近代的な世の中で成功するために、『学問をすすめ』」たのに対し、筆者の考える「広い意味での学問の効用」は、「自分の世界を広げ、豊かにすることにこそ、ある」のだから、近代における福沢の考える「学問の効用」は筆者の考えるそれとは別物である。したがって福沢の考えが「そのまま現代にも通用する」とは言えない。

現代文

【解答】

問一 1 イ 2 エ

問二 A オ B ア C イ D エ

問三 エ

問四 イ

問五 物として完結した本に没入するのではなく、書かれたものどうしが連係的に織りなすテキストを、読者がその時々に関心と結びつける動的な営みの中で、自らの未来の生に役立つものとして受けとめていくというあり方。

問六 イ・ウ（順不同）

（99字）

【配点】（五十点）

問一 2点×2 問二 2点×4 問三 6点 問四 6点

問五 14点 問六 6点×2

【出典】

管啓次郎（すが・けいじろう）の『本は読めないものだから心配するな』
【新装版】（左右社 二〇一一年）の一節より出題。問題作成の都合上、途

中に省略した箇所がある。

【本文要旨】

本文は、「テキスト」という概念を手がかりに、筆者自身の本への向き合い方を述べたものである。その意味で、本文が「読書論」としての含みを持つていることは明らかだが、それはまた、「本は読めないものだから心配するな」というタイトルにも示されているように、読者に向けた「読書への誘い」ともなっているのである。なお、後で確認することになる「テキスト」という概念は、書物や読書のあり方をめぐる新しい考え方の一つとして入試現代文でも頻出のものであり、その内容はしっかりと理解しておきたい。

では、本文を大きく三つの部分に分け、その内容を確認していこう。その際、渡辺一夫からの引用部は直前の第四段落に含まれるものとする。

I 時間の循環装置としての読書（第一段落・第二段落）

まず筆者は、自らを「読書の実用論者だ」と位置づけ、本の世界に純粋に没入する「贅沢な読書」「文学の楽しみ」といったものと自分は無縁だと宣言する。そのうえで、読書において「実用」をめざすあり方を、読書における「時間の循環（流れ）」と関連づけ、

* かつて書かれた本を、いま読むことで（Ⅱ「過去ののために現在を投資」）

* これからに役立てよう（Ⅱ「未来へと関係づける」）とすること

だと説明している。ここでは、「過去―現在―未来」が読書を通して相互的に関わっていることを「時間の循環」と呼んでいるわけだ。だからこそ筆者は、「過去」を喚起する記憶力の働きを不可欠のものともみなしているのである。

II 記憶力のあてにならなさ（第三段落～第五段落）

ただ、その記憶力もわれわれにはあてにならないものである。筆者は、そのことを示す「挿話（Ⅱエピソード）」として、渡辺一夫の嘆かわしくも愉快な思い出を引用する。――あるとき渡辺が本を読んでいると、よくわからないラテン文に出会い何とかそれを解釈しようと呻吟（しんげん）（Ⅱ苦しむこと）し

識の世界とは異なったものを理解する可能性を生むことが、「自分の世界を広げ、豊かにする」ということだが、ここでさらに注意しておきたいのは、本来的な知識の枠組みは「あたかも先験的に与えられた知識の枠組みのように（つまり、他の選択肢は存在しないかのよう）に」、私たちの知識の世界を支配し統御することにもなります」（第五段落）という内容である。本来の枠組みから他の枠組みに移動することは実は難しいことであり、そこに至るにはまず、「自らが育った自然言語が与える知識の枠組みを、相対化する」という「大変難しい作業」（第六段落）をなさなければならないということだ。だからこそ、「広い意味での学問」が求められるのであり、また私たちは自ら積極的に「広い意味での学問」を求めなければならないことになるのだらう。そこで、「自分の世界を広げ、豊かにする」についての説明として、

- c 自らが育った自然言語が与える知識の枠組みを相対化する
- d c によって、自らの認識の世界とは異なったものを理解する可能性を生む

というポイントが得られる。

以上の内容を、「学問」が「自分の世界を広げ、豊かにする」という設問に対応するよう、学問は $a \cdot b$ をすることで、 $c \cdot d$ 、などといったかたちに整理し、制限字数内にまとめればよい。

問七 本文の内容に合致するものを選択肢の中から選ぶ問題

ポイント

内容合致の問題は、一つ一つの選択肢の意味を正確に理解し、本文と照らし合わせて吟味しよう。

アは、「動物の言語と人間のそれとの最大の相違点」を「コミュニケーション

ーションの手段になり得るか否かという点」に求めているところが本文の内容に合致しない。第一段落・第二段落に述べられていたように、動物の言語と異なる人間の言語の特徴は、「分節化」され「構造的」であるということであり、人間の言語も当然「コミュニケーションの手段になり得る」のだから、「なり得るか否か」を両者の「最大の相違点」と言うことはできない。

イは、「人間の知識は先験的に与えられたものだ」という部分が、本文の内容に合致しない。第三段落に、人間は「言葉によって分節化された世界」を「知識の源にしている」と記されているが、そうした「知識の枠組みは、誕生後どのような言語を学ぶか、によって変わる」（第五段落）のだから、経験的なものであると考えられ、「先験的」（＝経験に先立つ）であるとは言えない。

ウは、「宗教的寛容」と「機能的寛容」は、その意味内容において交わるところがない」という部分が本文の内容に合致しない。第八段落から第十二段落にかけて説明されているように、たしかに「宗教的寛容」と「機能的寛容」とは異なる意味を持つが、ともに「寛容」である点は共通しており、「宗教的寛容」が他の宗教や無神論者を平等に扱って排除しないのに似て、「機能的寛容」は自分と異なるノモスを必ずしも排除しないのである。

エは、第十段落の「人間は、外からのノモスと、内からのカオスとの間の、絶えざる拮抗作用のなかにある」や第十一段落の「ノモスとカオスの均衡点」という内容を踏まえている。両段落で説明されているように、「外からのノモス」とは自分の属する共同体の掟や習慣、秩序等のことであり、「内からのカオス」とは、自分の属する共同体のノモスから外れ、それ以外の共同体のノモスを受け入れる可能性を持つ人間が生来内包するエネルギーである。人間は、その両者の「均衡点」、つまり「絶えざる拮抗作用のなかにある」というのだから、両者の「動的な平衡（＝つりあいをとること）のうちに生きている」と言ってもよい。これ

オは、「日本食ばかりにこだわるのをやめ」という部分で、一定の基準に従いながらもそこに完全に一致はしないというニュアンスが出ているようにも見えるが、「あえて外国の珍しい料理を食べてみる」という部分が、「日本食」を基準として捉えたときに、それとは明らかに異なる料理を食べているという意味になり、「基準値からの許容範囲内でのずれ幅」という意味に合わない。

問六 傍線部について内容を説明する記述問題

ポイント

傍線部に関する記述問題は、傍線部の前後の文脈と設問の要求を正しく理解し、それに対応する内容を過不足なく書く必要がある。自分の解答は必ず読み直して論理的でわかりやすい文章になるよう推敲しよう。

『学問』が『自分の世界を広げ、豊かにする』ということを知りやすく説明すればよいのだが、その際まず注意することは、ここで問われている「学問」とは傍線部にある「広い意味での学問」のことなので、「広い意味」が示している内容を明らかにすることである。また、「自分の世界を広げ、豊かにする」という部分に関しても、世界が広がることの説明になるように、「広い意味での学問」をする以前の「自分の世界」のありようを踏まえ、どういう世界がどのように広がり豊かになったのかがわかるように記述したい。

では、「広い意味での学問」がどういうものなのかを確認することから始めよう。傍線部のある段落は「こうして」で始まっており、その前の段落(第十七段落)の「人間の『知る』喜びのなかには……『異世界』への移動ということがあります」という内容を踏まえて書かれている。ここでいう「人間の『知る』喜び」については、第十六段落で、「知識の枠組みが、……多様であること、言い換えれば、認識の多元主

義を導くこととなります」、「本来の枠組みに固執することなく、他の枠組みに移動することによって「自らの認識の世界とは異なったものを、理解する可能性が生まれます」と説明されている。つまり、「広い意味での学問」とは、単に新しい知識を得るというだけでなく、自分の認識の世界とは異なる世界(異世界)へ移動することで、多様な認識を導くものであることがわかる。こうした学問をするためには、人間は「他の可能性に対しても開かれた存在である」(第十五段落) が必要になる。そこで、「広い意味での学問」についての説明として、

- a 自分の世界とは異なる世界を探究しようとする開かれた姿勢から成されるもの
- b aを通じて、多様な(多元主義的な) 認識を導くもの

というポイントが得られる。なお、「自分の世界とは異なる世界」について、第十六段落に「移動の対象は、異なる言語系の世界、いわゆる異文化ばかりとは限りません」とあり、同段落と第十七段落で、人間以外の動物の世界や、異時間の世界なども想定されているので、異文化に限らずに説明するべきである。

次に、「自分の世界を広げ、豊かにする」ということの意味を考えていこう。これについては、第十六段落に「本来の枠組みに固執することなく、他の枠組みに移動することによって「自らの認識の世界とは異なったものを、理解する可能性が生まれます」と説明されていた。ここでいう「本来の枠組み」とは、人間に本来的に与えられる知識の枠組み、つまり、本文のⅠの部分で詳しく述べられていた、誕生後与えられた言語を自然な形で学ぶことによって形成される知識の枠組みだと考えられる。記述する際には、「自らが育った自然言語が与える知識の枠組み」(第六段落) といった端的な表現でまとめればよいだろう。こうした本来的な知識の枠組みから他の枠組みへと移動することで、自らの認

これらを踏まえて、選択肢を一つずつ吟味しよう。

アは、bの内容について述べたものである。

イは、c・fなどの内容に当たるものである。自分とは異なる認識の枠組みを有する人を理解する可能性を持つということは、自分の認識の枠組みに支配されず、それが絶対的なもの（＝唯一可能なもの）ではないことを自覚することになり、自己を相対化する契機となるはずである。

ウは、本文に述べられていない内容である。第十六段落・第十七段落に「『異世界』への移動」ということが説明されているが、ここで述べられているのは、あくまでダニの世界を「想像」したり、異時間の世界を書物を通して体験したりするというものであり、それらの世界を「直接に体験」するわけではない。これが「つめの正解」になる。

エは、aの内容について述べたものである。

オは、eの内容について述べたものである。

カは、「古代ギリシャ以来概念化された」が不適当。「ノモス」「カオス」という言葉が古代ギリシャで用いられていたことは、第十段落・第十一段落で確認できるが、「機能的寛容」という考え方自体が古代ギリシャで概念化されたとは、本文に述べられていない。第八段落を踏まえると、これは筆者独自の用語と見る方が自然だろう。これが「つめの正解」である。

キは、gの内容について述べたものである。「確固たるものに見える共同体の秩序」という部分については、第五段落で述べられていた「一つの言語を自然な形で学んでしまうと、それは、あたかも先験的に与えられた知識の枠組みのように……私たちの知識の世界を支配し統御する」という内容に該当する。

問五 空欄に適切な内容を補う問題

ポイント

空欄補充の問題は、空欄の前後の文脈を正しく読み取ることが大切である。

「X」の前後の文脈を確認する。まず、直前に「例えば」とあることから、「X」が例示であることは明らかなので、どういうことかの例であることを明確にすればよい。「X」の直前で示されているのは、「寛容」に当たる英語〈tolerance〉の意味は「公的に定められた基準値からの許容範囲内のずれ幅」であり、それと似た言葉である〈allowance〉の意味は「酌量できる範囲」とあるということだ。そして、それを示す例である「X」について、その直後で「ノモスに完全には従わないそうした『遊び』、『ゆとり』と説明が加えられている。そこで、「X」を補うものとして、「基準値からの許容範囲内」にあり、基準に従いながらも基準に完全に一致しているわけではなく、一定の「ゆとり」がある状態について述べているものを選べばよい。こうした内容に最も適合するのは、アである。アでは、「ねじ」が「ねじ穴」に「収まる」という点で基準は満たしているが、「ちょうど収まる」といった余裕のない状況にあるのではなく、「楕円形」という「ゆとり」が見込まれている状態が述べられている。

イは、「自分の足にぴたり合った靴を見つける」という、「ゆとり」のない状態が想定されている点で不適当である。

ウは、「子どもの成長に合わせて次々と買い換えられていく」という部分が、「ある基準に従う」という内容から外れているので、不適当。なお、「合わせて」の部分に着目すれば、「ゆとり」のニュアンスが出ていないとも言える。

エは、「ビル」が「破壊しやすく造られている」という、今の枠組みを壊すことのみが述べられている点で不適当。

問四 傍線部の内容説明として不適当なものを選択肢の中から選ぶ問題

ポイント

傍線部に関する選択肢問題は、傍線部の前後の文脈と設問の要求を正しく理解し、選択肢を丁寧に吟味しよう。不適当なものという設問の条件を見落とさないように。

傍線部の「『機能的』な概念としての寛容」については、主に第七段落から第十四段落（本文要旨Ⅱの部分）に述べられている。本文の記述に沿って、その内容を確認していこう。

まず、第七段落で、言語が人間に与える認識の枠組みの統御機能はある程度緩やかなものであり、同じ言語共同体に属する人々がすべて同じ知識の世界を持つわけではないし、また異なる言語を用いる人々同士であってもコミュニケーションを成り立たせることは可能である、ということが述べられる。これらの性質を筆者は「人間の『自由さ』」と言い、第八段落・第九段落で、「宗教的寛容」のような「『徳』としての寛容」ではなく、「『機能的』な概念としての寛容」だと言い換えている。

第十段落では、人間が自分の属する共同体の掟や習慣、秩序など（「ノモス」を身につけるにあたり、それぞれの共同体によって異なるノモスのうち、どんなノモスをも身につける可能性を秘めたエネルギー（「カオス」）を有しているということが示される。筆者によれば、「人間は、外からのノモスと、内からのカオスとの間の、絶えざる拮抗作用のなかにある」ことになる。この内容を踏まえ、第十一段落で、人間が一つの共同体のノモスを全面的に受け入れるということはあり得ず、「常に、ノモスから外れようとするエネルギーを多かれ少なかれ、個人は備えている」ということが記される。そうしたエネルギーの強さには個人差があり、一人の個人の生涯のうちでも変化する。この内容は、第七段落に述べられていた、同じ言語共同体に属する人々がすべて同じ知識の世界を持つわけではないし、また異なる言語を用いる人々同士であってもコ

ミュニケーションを成り立たせることは可能である、という内容に通じるものと考えられる。こうしたことから、「ノモスとカオスの均衡点」は、個人だけでなく共同体においても常に変化していることがわかる。

こうした内容が、第十二段落において、「人間がこうして、共同体の与えるノモスに完全には制御されず、そこからはみ出る力、あるいは余裕を備えている、という事実を、私は『機能的寛容』という言葉で表現したい」とまとめられる。そして、第十三段落で、この「機能的寛容」は「人間に本来的に備わっている」「先験的」なものであること、これによって「個人差」が生じること、また「自分とは違ったノモスのなか」に生きる人々を、少なくとも部分的には、理解する余地が存在する」とことが確認される。筆者はさらに第十四段落で、例を交えながらカオスの重要性について述べ、「機能的寛容」についての説明をいったん終えている。「機能的」な概念としての「寛容」に関わる、以上の内容を整理しておく。

- a 自分の属する共同体が与える認識の枠組みから外れようとするエネルギーのこと
- b すべての人間の内部に、本来的に備わっているもの
- c そのエネルギーの強さには個人差があり、一人の個人の生涯のうちでも変化する
- d 同じ共同体に属していてもまったく同じ認識を持つわけではない、という事態を生む
- e 異なる認識の枠組みを持つ人々の間にコミュニケーションを成立させる可能性を生じさせる
- f 自分とは異なる世界認識を有する人を理解する可能性を生じさせる
- g 個人だけでなく、共同体の秩序を内部から変化させる

ういうものか、「認識の枠組み」とどのように関わるのか、その内容を確認しよう。

まず、第一段落で、動物の言葉とは異なる人間の言葉の特徴として、「分節化」されていることと「構成的」であることという二点が指摘されていた。また、それに関して続く第二段落で、「分節化とは、記号の連なりに、単位があることです。……分節化された記号の連なりは、それを切り離して、様々な形に新しく組み直すことができる、ということです」と述べられている。人間の言語は、単に物体や事象が記号として置き換えられただけのものではなく、その記号の連なりをあるところで区切り、それを一つの単位として捉えたうえで、その単位同士を様々に組み合わせることで多様な意味を構成するという性質を持つ。そして、さらに第三段落では、こうした言語の性質は「私たちが接する世界との間にも、一つの対応関係を生みだします……（ある単位と他の単位を組み合わせることは）知覚する世界のなかに、ある『分節』を見出すことです。言葉の分節化は、実は世界の分節化と等しいわけです」と述べられている。人間は、分節化された記号の組み合わせである言語を用いることで、人間が知覚する世界を分節化し、そのように言葉によって分節化され意味づけられた世界を知識の源としているのである。

さて、このように考えると、第四段落に述べられているように、言語は「私たちが世界をどのように認識するか、というその認識の枠組みを与える働きをするもの」だと言えることができる。人間の言語は、多くの動物も有している「コミュニケーションの手段としての言葉」（第一段落）というよりも、「まずは、認識の枠組みを提供するもの」（第四段落）として捉えるべきであることが理解できる。これが、傍線部の「人間の知識の根元は、言葉にあります」ということの意味である。整理しよう。

a 人間の言語は、分節化された記号の連なりを様々に組み合わせ

意味を構成することができる

b aのような言語を用いることで、人間は世界を分節化し、世界の認識の枠組みを身につける

以上の内容を適切にまとめている、アが正解である。

イは、「それ（＝世界を分節化して捉える）以前の段階で、言葉によって記号の連なりを分節化しておく必要がある」という部分が不適当。「言葉の分節化は、実は世界の分節化と等しい」（第三段落）であり、それは同時に行われるのだから、「それ以前の段階で」と、段階を分けて説明するべきではない。さらに言えば、本文では「言葉」と「記号」はほぼ同義で使われているのだから、「言葉」によって「記号」を「分節化」という内容自体が誤った説明である。

ウは、「認識の枠組み自体も生まれながらに存在している」という部分が不適当。第五段落に「知識の枠組みは、誕生後どのような言語を学ぶか、によって変わる」とある。

エは、「言葉にコミュニケーションの手段としての役割はなく」という部分が不適当。たしかに第四段落の冒頭に、「言葉はコミュニケーションの手段ではない」とあるが、これは、「言葉は、まずは、認識の枠組みを提供するもの」（第四段落）であり、コミュニケーションの手段であることが第一義的な役割ではない、という意味で述べられたものであり、言葉がコミュニケーションの手段にならないということを述べたものではない。実際、第四段落後半には「言語」によって「お互いのコミュニケーション（共通の理解）も可能になる」と述べられている。

オは、「人間は認識主体として動物より優位な立場にある」という部分が、本文に明示されていない内容であるうえ、bにまったく触れておらず、傍線部の内容説明からもズレてしまっている。

働きを持つということである。したがって、コミュニケーションという働きが根本にあるのではないという文脈になるよう、**A**には、「エ」「二義的」を補うのが適当である。ちなみに、「一義」は「一つの道理。一通りの意義。根本。最も重要なこと」といった意味を持ち、「二義的」は「一つの意義しかないさま。最も重要な意味であること」といった意味で用いられるので、「一義的ではない」は「さして重要ではない」といった意味になる。

Bは、「経験に先だって『知識の枠組み』が与えられている」とする「先驗論」に対して、「知識の枠組みは、誕生後どのような言語を学ぶか、によって変わる」ために、「**B**な性格」になるという文脈のなかにある。誕生後に学ぶ言語によって変わるのであれば、それは生まれながらのものではなく、生まれた後の経験による後天的なものと考えることができる。したがって、オ「経験的」を補うのが適当である。

Cは、「寛容」というと、どちらかと言えば**C**な場面を思い起こすのが普通かもしれません」という文脈のなかであり、その後に**C**な場面に当たるものとして「宗教的寛容」という「徳」について説明されている。「徳」とは、〈道徳的にすぐれた品性・人格〉を意味する語である。したがって、「徳」や「道徳」に対応する、イ「倫理的」を補うのが適当である。

Dは、「このことは」で始まる一文のなかにあるので、まず「このこと」の内容を確認すると、それは直前の「私たちは、自分の生きる共同体にある程度は忠実に、しかし他の可能性に対しても開かれた存在であることが可能になる」という内容を指している。そして、これに関して、空欄のある一文に「知識の枠組みが、**D**ではなく、多様であること、言い換えれば、認識の多元主義を導くこと」になると述べられている。だから**D**には、「多様」で「認識の多元主義を導く」ことができるような「他の可能性に対しても開かれた」ものとは異なり、多様性のない一元的なあり方を示しているものを補うことになる。したがっ

て、〈ある範囲におけるすべてのものにあてはまるさま〉を意味する、ク「普遍的」を補うのが適当である。ちなみに、この空欄には「一つの意義しかないさま」という意味を持つ「一義的」も入れることができるが、既に説明したように、**A**には「二義的」を補うのが最も適当であるうえ、「普遍的」を入れることができない。そこで、**D**には「普遍的」を補うことが決まる。

Eは、「外国の文学を読む」ことは、**E**ではあるが「異世界を体験すること」になるという文脈のなかにある。私たちが実際に異世界に出かけた場合は異世界を直接体験したことになるが、文学作品を読むことで異世界を体験するというあり方は、間接的な体験の仕方であり、それなりの臨場感を持つとしても現実の体験であるとは言えないものだ。したがって、〈本物とよく似ていてまぎらわしいさま〉という意味の、キ「擬似的」を補うのが適当である。

問三 傍線部の内容説明として適当なものを選択肢の中から選ぶ問題

ポイント

傍線部に関する選択肢問題は、傍線部の前後の文脈と設問の要求を正しく理解し、選択肢を丁寧に吟味しよう。

傍線部は、その直前の「言葉は、先ずは、認識の枠組みを提供するものです」という記述を受けて述べられたものである。傍線部の直後にも「それは、知識の保存や、維持という場面よりも、より根源的な意味において、です。言葉を学ぶことによって、私たちは、どのような世界を『知る』のかが決まるのです」と述べられている。また、傍線部に記されている「人間の知識の根元」と「言葉」との関係については、第三段落の末尾に「言葉によって分節化された世界を、私たちは知識の源にしているのです」と書かれている。これらの記述を手掛かりにして、人間の「知識の源」になるという「言葉によって分節化された世界」とはど

の世界を限りなく広げ豊かにしていくことが可能になる。それが広い意味での学問の効用なのである。

広い意味での学問の効用

認識の多元主義

* 自らの認識の枠組みとは異なる枠組みの世界への移動

←

自らの世界を広げ、豊かにする

* 異世界の理解へと自らを開く

読解のポイント・チェック

☐ A 人間の言語の性質や働きを正確に読み取れたか。

☐ B 筆者の言う「機能的寛容」とはどういうものか理解できたか。

☐ C 広い意味での学問の効用がどのような点にあるか、理解できたか。

【設問解説】

問一 漢字の書き取りの問題

ポイント

漢字の知識は、得点源になるだけでなく、現代文を読解する上での基本である。しっかりと身につけよう。

a は、〈ゆるいさま。ゆとりのあるさま〉といった意味で、「緩（やか）」。

b は、〈ほめたたえること〉といった意味で、「称揚（賞揚）」。

c は、〈そのことをなしうる機会。ゆとり。余裕〉といった意味で、「余地」。

d は、〈事情を考慮して、処置・処分などに手心を加えること〉とい

った意味で、「酌量」。

e は、〈自分の意見などをかたく主張してまげないこと〉といった意味で、「固執」。「こしゅう」とも読む。

問二 空欄に適切な言葉を補う問題

ポイント

空欄補充の問題は、空欄の前後の文脈を正しく読み取ることが大切である。

A を含む一文は、「少なくとも**A**には、そうではない」であり、ここで言う「そうではない」は、直前の「言葉はコミュニケーションの手段ではない」という内容と対応している。また、その直前に「ここで判ったことは」とあるので、「ここ」という指示語の内容が述べられている、第一段落、第三段落の内容も確認する。その内容を簡潔にまとめると、人間の言語は、多くの動物が有しているコミュニケーションの手段としての言葉とは異なり、「分節化」され「構成的」なものであること（第一段落）、人間の言語は、単位に区分された記号を様々に組み合わせることで意味を構成することができること（第二段落）、そうした言語の分節化は人間の知覚世界を分節化し、人間は、言語によって分節化された世界を知識の源にしていること（第三段落）であった。これらの内容を踏まえたうえで、**A** の後に、「一つの言語が、一つの認識の枠組みを提供するのであれば、その言語を使う人々の間では、同一の世界認識が成り立ち、だからこそ、お互いのコミュニケーション（共通の理解）も可能になる」と述べられている。その意味で「言葉は、先ずは、認識の枠組みを提供する」と言えるのである。したがって、言語が「コミュニケーションの手段ではない」ということの意味は、人間の言語がコミュニケーションの手段にならないということではなく、コミュニケーションの手段になる以前にまず、世界認識の枠組みを提供する

人間の言葉の特徴

- ・分節化：記号としての言葉の連なりに単位がある
- ・構成的：分節化された単位を様々に組み合わせる

世界を分節化

← * 言語が世界の認識の枠組みを提供する

知識の根元

← * 人間の知識の枠組みは、誕生後に学んだ言語によって規定される

Ⅱ 「機能的」な概念としての「寛容」（第七段落～第十四段落）

I で確認したように、人間はまず誕生後に学んだ言語によってその認識の枠組みを与えられるが、その統御機能はある程度緩やかなものである。現に、同じ言語を持つ共同体の人々がすべて同じ知識の世界を持っているわけではないし、また、異なった言語を使う人同士の間でコミュニケーションを成り立たせることもできる。こうした人間の「自由さ」は、「機能的寛容」という言葉で捉えることができる。ちなみに「寛容」とは「心が広いさま」といった意味であるが、筆者はここでその語義をやや拡張して用いている。

人間は生まれ落ちて以来、ある共同体のなかで育てられ、そこで用いられている言語を通して、その共同体の掟や習慣、秩序など（古代ギリシャで「ノモス」と呼ばれたもの）を身につけていく。そして当然のことだが、ノモスは共同体ごとに異なっている。つまり人間は、生まれながらにして、どんな共同体のノモスをも受け入れることのできる不定形のエネルギーのようなもの（古代ギリシャで「カオス」と呼ばれたもの）を有していることになる。人間は自らの外にあるノモスと自らの内にあるカオスとの間の、絶えざる拮抗状態（＝勢力・力がほぼ等しく、相対抗して優劣のない状態）のなかで生きているのである。言い換えれば、人間は自分の属する共同体のノモスを身につけながらも、それを全面的に受け入れるのではなく、常にノモスカ

ら外れようとするエネルギーをも備えているということだ。こうしたノモスへの反発のエネルギーの多寡には個人差があり、また一人の個人のなかでもそのエネルギーの大きさは常に変化しているのであって、そうした個人の集合体である共同体におけるノモスとカオスの均衡点も常に変化しつづける。人間がそれぞれ個性を持ち、また自分とは異なる共同体に属する人を部分的にはあれ理解することができるよう、こうした「機能的寛容」を生まれながらに備えているおかげである。

人間存在のありよう

共同体の言語を習得

←

「ノモス」（共同体の秩序）を習得

⇔ 絶えざる拮抗状態

「カオス」（様々なノモスを受け入れる可能性）

* 人間が本来的に備えている「機能的寛容」

∴ 個人差や他者理解を可能にするもの

Ⅲ 広い意味での学問の効用（第十五段落～最終段落）

Ⅱ で見たように、人間は「機能的寛容」を生まれつき持っているために、自分の生きる共同体の規範（＝認識の枠組み）にある程度忠実に従いながらも、他の可能性に対して開かれた存在であることが可能である。このことは人間の認識の枠組みが多様でありうることを示している。

そうした認識の多元主義的な状況を踏まえると、人間は、異文化に限らず、自分の認識の枠組みとは異なる世界（異時間の世界や他の動物の世界）を理解する可能性を有することがわかる。第六段落に述べられていたように、自らの認識の枠組みを相対化することは決して簡単ではない。しかし、学問を通じて自らの世界とは異なる世界へと自らを開いていくことで、自分

【国語】

□ 現代文

【解答】

問一 a 緩(やか) b 称揚(賞揚) c 余地 d 酌量

e 固執

問二 A エ B オ C イ D ク E キ

問三 ア

問四 ウ・カ(順不同)

問五 ア

問六 学問は、自らの世界と異なる世界の探求を通じて多様な認識を開く

ことで、自らが育った自然言語が与える知識の枠組みを相対化し、他者との間の理解を可能にするということ。(80字)

問七 エ

【配点】(六十点)

問一 2点×5 問二 2点×5 問三 6点 問四 4点×2

問五 6点 問六 14点 問七 6点

【出典】

本文は、村上陽一郎(むらかみ・よういちろう)『あらためて学問のすずめ』(河出書房新社 二〇一一年)の一節である。問題作成の都合上、一部省略した箇所がある。

【本文要旨】

本文は、言語によって形成される認識の枠組みを知識の根元としている人間のあり方について考察し、そうした知識の枠組みに従いつつもそこから外れようとする人間の「機能的寛容」という性質が広い意味での学問につながり、自分の世界を広げ豊かにする、ということを論じたものである。本文は十八の形式段落から成っているが、便宜上三つの部分に分け、その内容を

確認していこう。

I 人間の言語の性質や働き(第一段落～第六段落)

人間の言語は、コミュニケーションの手段にとどまっている動物の言語と違い、「分節化」され「構成的」なものであるところに特質がある。

言語は記号としての意味を持つが、人間の言語においてはその記号の連なりに単位があり(Ⅱ分節化)、それらは様々な形に組み合わせられ組み立て直される可能性(Ⅲ構成的)を持つ。たとえば、現実目の前に存在する物体が「リング」という名前Ⅱ記号として表され、「リングは」という言語の単位は「丸い」「赤い」といった他の単位と組み合わせられて「リングは丸い」「リングは赤い」などと表現される。ただし、言語のある単位は他のどんな単位とでも組み合わせられるのではなく、その単位と組み合わせるのにふさわしい他の単位と組み合わせられる。先の例を用いるならば、「リングは」は「丸い」や「赤い」とは組み合わせられるが、「尖っている」や「平べったい」とは組み合わせられない(もちろん「尖っている」や「平べったい」と組み合わせても文法的に間違っているわけではないが、その組み合わせは現実の知覚世界に対応する意味を形成することができない)。人間はそうした言語を用いることで知覚世界を分節化し、その言語によって分節化された世界を知識の源にして生きているのである。つまり、人間の言葉は単なるコミュニケーションの手段ではなく、人間に世界を認識する一つの枠組みを与える働きを持つものと言える。そして、この働きが、同じ言語を用いる者の間ではほぼ同一の世界認識を成り立たせるからこそ、互いのコミュニケーションも可能になるのである。

このように考えると、人間の知識の枠組みは誕生後どのような言語を学ぶかによって規定されることがわかる。言い換えれば、人間はある一つの言語を自然な形で学んでしまうと、それをまるで先験的な(Ⅳ経験に先立つ)知識の枠組みのように思いなし、それらに支配され統御されるということだ。自らが育った自然言語が与える知識の枠組みを相対化(Ⅴ距離をおいて冷静に見る)することは、大変難しい作業である。

MEMO

MEMO

受験直後の復習が大きな差を生む!!

自己採点シート

第1回 全統高2模試

クラス	番号	氏名

自己採点シートの使い方

①まずは自己採点

「学習の手引き」の【解答】に従って自己採点してみましょう。
なお、論述問題（配点が大きい問題）については【設問解説】を読んでおおよその点数を予想してみましょう。



②設問ごとにチェック

満点に近してどれだけ得点できたか、得点率を計算し、設問ごとに比較してみよう。得点率が最も低い設問には、「特に克服・補強すべき分野」として、☆に色を塗りましょう。



③何ができていなかったのか確認しよう

②でチェックした設問を中心に何ができていなかったのか確認し、具体的に何をどの程度のペースで学習していくのか、「今後の課題と学習プラン」を記入してみよう。



④成績返却時には統計集を確認しよう

個人成績表と同時に返却されるANTENNA(成績統計資料)には「見直しシート」が付いています。
自分の結果を全国(校内)結果と比較し、ANTENNA(成績統計資料)に載っている「学習対策」を使って復習するとともに、次回へ向けて具体的な目標得点をたててみましょう。

総合計

教科・科目	設問ごとの得点						合計	今後の課題と学習プラン
	1	2	3	4	5	6		
英語	発音・アクセント (得点率)	全話 (得点率)	文法・語法・熟語 (得点率)	整序作文・和文英訳 (得点率)	長文総合 (得点率)	長文総合 (得点率)		(例) 基本的な文法・語法の知識を整理する。
	/8 % ☆	/16 % ☆	/36 % ☆	/40 % ☆	/55 % ☆	/45 % ☆	/200	
	オーラル (得点率)							
オーラル・コミュニケーション	数学Ⅰ・A 小問集合 (得点率)	数学Ⅰ 2次関数 数学A 場合の数 (得点率)	数学Ⅰ・A 図形と計量 (得点率)	数学Ⅱ 式と証明・高次方程式 (得点率)	数学Ⅱ 図形と方程式 (得点率)	数学B 数列 (得点率)	/20	(例) 得意分野・不安な分野を集中的に学習する。
	/30 % ☆	/70 % ☆	/50 % ☆	/50 % ☆	/50 % ☆	/50 % ☆	/200	
	現代文・評論 (得点率)	現代文・読解 (得点率)	古文・説話 (得点率)	漢文・随筆 (得点率)				(例) 思ったより漢字が書けなかったので、ドリルで練習する。
国語	/60 % ☆	/50 % ☆	/50 % ☆	/40 % ☆			/200	

※選択問題のある教科において、選択していない設問の欄は空白にしておきましょう。

